

The logo consists of a red horizontal bar with a white diagonal stripe on the left side. The word "HIKVISION" is written in white, italicized, uppercase letters on the red background.

HIKVISION

ネットワークビデオ レコーダー

ユーザーマニュアル

法律情報

このドキュメントについて

- このドキュメントには、製品の使用と管理の手順が含まれています。以下の写真、チャート、画像、およびその他すべての情報は、説明および説明のみを目的としています。
- このドキュメントに含まれる情報は、ファームウェアの更新またはその他の理由により、予告なしに変更される場合があります。ドキュメントの最新バージョンは、HikvisionのWebサイト(<https://www.hikvision.com>)で見つけてください。別段の合意がない限り、Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd.またはその関連会社(以下「Hikvision」という)は、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行いません。
- 本書は、本製品のサポートについて訓練を受けた専門家の指導と支援を受けてご利用ください。

この製品について

- この製品は、購入が行われた国または地域でのみアフターサービスサポートを利用できます。
- お選びいただいた商品が動画商品の場合は、以下のQRコードをスキャンして「動画商品の使用に関する取り組み」を入手し、よくお読みください。



知的財産権の承認

- Hikvisionは、このドキュメントに記載されている製品に具体化された技術に関連する著作権および/または特許を所有しており、これにはサードパーティから取得したライセンスが含まれる場合があります。
- テキスト、写真、グラフィックなどを含むドキュメントの任意の部分は、Hikvisionに帰属します。本書のいかなる部分も、書面による許可なしに、いかなる手段によっても全部または一部を抜粋、コピー、翻訳、または変更することはできません。
- **HIKVISION** およびその他のHikvisionの商標およびロゴは、さまざまな管轄区域におけるHikvisionの所有物です。
- 記載されているその他の商標およびロゴは、それぞれの所有者に帰属します。
- **HDMI**™ HDMIおよびHDMI High-Definition Multimedia Interfaceという用語、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

法的免責事項

- 適用法で認められる最大限の範囲で、本書および記載されている製品、およびそのハードウェア、ソフトウェア、およびファームウェアは、「現状のまま」および「すべての欠陥およびエラーを含む」状態で提供されます。HIKVISIONは、明示または黙示を問わず、商品性、満足のいく品質、または特定の目的への適合性を含むがこれらに限定されない保証を行いません。お客様による製品の使用は、お客様ご自身の責任で行ってください。いかなる場合も、HIKVISIONは、契約違反、不法行為(過失を含む)、製造物責任、または製品の使用に関連するその他のものに基づくかどうかにかかわらず、事業利益の損失、事業利益の損失、事業の中断、データの損失、システムの破損、または文書の損失を含む、特別、結果的、偶発的、または間接的な損害について、お客様に対して責任を負いません。HIKVISIONがそのような損害または損失の可能性について知らされていた場合でも。
- お客様は、インターネットの性質が固有のセキュリティリスクを提供することを認め、HIKVISIONは、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス感染、またはその他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常な操作、プライバシーの漏洩、またはその他の損害について一切の責任を負わないものとします。ただし、HIKVISIONは必要に応じてタイムリーな技術サポートを提供します。
- お客様は、適用されるすべての法律に準拠して本製品を使用することに同意し、使用が適用法に準拠していることを確認する責任を単独で負うものとします。特に、パブリシティ権、知的財産権、データ保護、その他のプライバシー権を含むがこれらに限定されない、第三者の権利を侵害しない方法でこの製品を使用することについては、お客様が責任を負います。大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、核爆発性または安全でない核燃料サイクルに関連する状況での活動、または人権侵害の支援など、禁止されている最終用途にこの製品を使用してはなりません。
- 本書と適用法との間に矛盾がある場合は、後者が優先されます。

© 杭州Hikvisionデジタルテクノロジー株式会社全著作権所有。

規制情報

FCC情報

コンプライアンスの責任者によって明示的に承認されていない変更または修正を行うと、機器を操作するユーザーの権限が無効になる可能性があることに注意してください。

FCCコンプライアンス:この機器はテスト済みであり、FCC規則のパート15に準拠した制限に準拠していることが確認されています。これらの制限は、住宅設備での有害な干渉に対する合理的な保護を提供するように設計されています。この装置は、無線周波数エネルギーを生成、使用、および放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置で干渉が発生しないという保証はありません。この機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合(これは機器の電源をオフにしてからオンにすることで判断できます)、ユーザーは次の1つ以上の方法で干渉を修正することをお勧めします。

- 受信アンテナの向きを変えるか、位置を変えます。
- 機器と受信機との距離を広げます。
- 受信機が接続されている回路とは異なる回路のコンセントに機器を接続します。
- 販売店または経験豊富なラジオ/テレビ技術者に相談してください。

ださい。

• FCCの条件

このデバイスは、FCC規則のパート15に準拠しています。運用には次の2つが適用されます条件：

- このデバイスは有害な干渉を引き起こさない可能性があります。
- このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を受け入れる必要があります。

EU適合宣言



この製品および該当する場合は付属のアクセサリにも「CE」のマークが付いているため、EMC指令2014/30/EU、LVD指令2014/35/EU、RoHS指令2011/65/EUに記載されている該当する調和のとれた欧州規格に準拠しています。



2012/19/EU(WEEE指令):この記号が付いている製品は、欧州連合では未分別都市ごみとして処分することはできません。適切なりサイクルのために、この製品を地元のサプライヤーに返送してください。

Network Video Recorder User Manual

同等の新しい機器を購入するか、指定された収集場所に廃棄してください。詳細については、「<http://www.recyclethis.info>」を参照してください。



2006/66/EC (バッテリー指令): この製品には、欧州連合で未分別都市ごみとして処分できないバッテリーが含まれています。特定のバッテリー情報については、製品のマニュアルを参照してください。バッテリーにはこの記号が付けられており、カドミウム(Cd)、鉛(Pb)、または水銀(Hg)を示す文字が含まれている場合があります。適切にリサイクルするために、バッテリーをサプライヤーまたは指定された収集場所に返送してください。詳細については、「<http://www.recyclethis.info>」を参照してください。

対応機種

このマニュアルは、次のモデルに適用されます。ただし、このマニュアルのすべての機能が各モデルでサポートされているわけではありません。

表 1-1 適用可能なモデル

型番	モデル
DS-7600NI-I2	DS-7608NI-I2
	DS-7616NI-I2
	DS-7632NI-I2
DS-7600NI-I2/P	DS-7608NI-I2/8P
	DS-7616NI-I2/16P
	DS-7632NI-I2/16P
DS-7700NI-I4	DS-7708NI-I4
	DS-7716NI-I4
	DS-7732NI-I4
DS-7700NI-I4/P	DS-7708NI-I4/8P
	DS-7716NI-I4/16P
	DS-7732NI-I4/16P
	DS-7732NI-I4/24P
DS-7600NI-M1/P	DS-7604NI-M1/4P
DS-7608NI-M2	DS-7608NI-M2
	DS-7616NI-M2
	DS-7632NI-M2
DS-7600NI-M2/P	DS-7608NI-M2/8P
	DS-7616NI-M2/16P
DS-7700NI-M4	DS-7716NI-M4
	DS-7732NI-M4
	DS-7764NI-M4
DS-7700NI-M4/P	DS-7708NI-M4/8P
	DS-7716NI-M4/16P

Network Video Recorder User Manual

型番	モデル
	DS-7732NI-M4/16P
	DS-7732NI-M4/24P
DS-9600NI-M8	DS-9616NI-M8
	DS-9632NI-M8
	DS-9664NI-M8
	DS-96128NI-M8
DS-9600NI-M8/R	DS-9616NI-M8/R
	DS-9632NI-M8/R
	DS-9664NI-M8/R
	DS-96128NI-M8/R
DS-9600NI-M16	DS-9616NI-M16
	DS-9632NI-M16
	DS-9664NI-M16
	DS-96128NI-M16
DS-9600NI-M16/R	DS-9616NI-M16/R
	DS-9632NI-M16/R
	DS-9664NI-M16/R
	DS-96128NI-M16/R
DS-7600NXI-M2/P/VPro	DS-7608NXI-M2/8P/VPro
	DS-7616NXI-M2/16P/VPro
DS-7600NXI-M2/VPro	DS-7608NXI-M2/VPro
	DS-7616NXI-M2/VPro
DS-9600NXI-M8/VPro	DS-9616NXI-M8/VPro
	DS-9632NXI-M8/Pro
	DS-9664NXI-M8/VPro
	DS-96128NXI-M8/VPro
DS-9600NXI-M8R/VPro	DS-9616NXI-M8R/VPro
	DS-9632NXI-M8R/VPro
	DS-9664NXI-M8R/VPro

Network Video Recorder User Manual

型番	モデル
	DS-96128NXI-M8R/VPro
DS-9600NXI-M16/VPro	DS-9632NXI-M16/VPro
	DS-9664NXI-M16/VPro
	DS-96128NXI-M16/VPro
DS-9600NXI-M16R/VPro	DS-9632NXI-M16R/VPro
	DS-9664NXI-M16R/VPro
	DS-96128NXI-M16R/VPro
DS-7600NXI-I2/S	DS-7608NXI-I2/S
	DS-7616NXI-I2/S
	DS-7632NXI-I2/S
DS-7600NXI-I2/P/S	DS-7608NXI-I2/8P/S
	DS-7616NXI-I2/16P/S
	DS-7632NXI-I2/16P/S
DS-7700NXI-I4/S	DS-7716NXI-I4/S
	DS-7732NXI-I4/S
DS-7700NXI-I4/P/S	DS-7716NXI-I4/16P/S
	DS-7732NXI-I4/16P/S
DS-8600NXI-I8/S	DS-8616NXI-I8/S
	DS-8632NXI-I8/S
	DS-8664NXI-I8/S
DS-8600NXI-I8/24P/S	DS-8632NXI-I8/24P/S
DS-9600NXI-I8/S	DS-9616NXI-I8/S
	DS-9632NXI-I8/S
	DS-9664NXI-I8/S
iDS-6700NXI-M1/X	iDS-6704NXI-M1/X
	iDS-6708NXI-M1/X
	iDS-6716NXI-M1/X
iDS-7600NXI-M1/X	iDS-7608NXI-M1/X
	iDS-7616NXI-M1/X

Network Video Recorder User Manual


型番	モデル
iDS-7600NXI-M2/X	iDS-7608NXI-M2/X
	iDS-7616NXI-M2/X
	iDS-7632NXI-M2/X
iDS-7600NXI-M2/P/X	iDS-7608NXI-M2/8P/X
	iDS-7616NXI-M2/16P/X
iDS-7700NXI-M4/X	iDS-7716NXI-M4/X
	iDS-7732NXI-M4/X
iDS-7700NXI-M4/16P/X	iDS-7716NXI-M4/16P/X
	iDS-7732NXI-M4/16P/X
iDS-9632NXI-M8/X	iDS-9632NXI-M8/X
	iDS-9664NXI-M8/X
	iDS-96128NXI-M8/X
iDS-9600NXI-M8R/X	iDS-9632NXI-M8R/X
	iDS-9664NXI-M8R/X
	iDS-96128NXI-M8R/X
iDS-9600NXI-M16/X	iDS-9632NXI-M16/X
	iDS-9664NXI-M16/X
iDS-9600NXI-M16R/X	iDS-9632NXI-M16R/X
	iDS-9664NXI-M16R/X

安全に関するご注意

- すべてのパスワードおよびその他のセキュリティ設定の適切な構成は、インストーラーおよび/またはエンドユーザーの責任です。
- 製品の使用にあたっては、国や地域の電気安全規制を厳守する必要があります。
- プラグを電源ソケットにしっかりと接続します。1つの電源アダプターに複数のデバイスを接続しないでください。アクセサリや周辺機器を接続および切断する前に、デバイスの電源を切ってください。
- 感電！メンテナンスの前に、すべての電源を切断してください。
- 機器は、アースされた主電源コンセントに接続する必要があります。
- コンセントはデバイスの近くに設置し、簡単にアクセスできるようにする必要があります。
- 符号のあるデバイスの場合、危険なライブを示しているため、端子に接続されている外部配線は、指示された人による設置が必要です。
- デバイスを不安定な場所に置かないでください。デバイスが落下し、重傷を負ったり死亡する可能性があります。
- 入力電圧は、IEC62368に従ってSELV(Safety Extra Low Voltage)およびLPS(Limited Power Source)を満たす必要があります。
- 高タッチ電流!電源に接続する前にアースに接続してください。
- 機器から煙、臭い、騒音が発生した場合は、すぐに電源を切り、電源ケーブルを抜いてから、サービスセンターにご連絡ください。
- デバイスをUPSと組み合わせて使用し、可能であれば工場推奨されているHDDを使用してください。
- この機器は、子供がいる可能性のある場所での使用には適していません。
- 注意: バッテリーを間違ったタイプに交換すると、爆発の危険があります。
- 電池を摂取しないでください。化学火傷の危険!
- この製品には、コイン/ボタン電池が含まれています。コイン電池やボタン電池を飲み込むと、わずか2時間で内部に重度の火傷を負い、死に至る可能性があります。
- バッテリーを間違ったタイプに不適切に交換すると、セーフガードが無効になる可能性があります(例:ample、一部のリチウム電池タイプの場合)。
- バッテリーを火や高温のオープンに捨てたり、バッテリーを機械的に押しつぶしたり切断したりしないでください。
- バッテリーを周囲の非常に高温の環境に放置しないでください。爆発や可燃性の液体やガスの漏れにつながる可能性があります。
- バッテリーを極端に低い空気圧にさらさないでください。爆発したり、可燃性の液体やガスが漏れたりする可能性があります。
- 使用済みのバッテリーは、指示に従って廃棄してください。
- 体の部分をファンブレードやモーターから遠ざけてください。整備中は電源を切ってください。
- 体の部分をモーターから遠ざけてください。整備中は電源を切ってください。
- オリジナルモデルと同じ電源のみを使用するか、同じ容量のLPS電源を使用してください。

予防と注意のヒント


デバイスを接続して操作する前に、次のヒントに注意してください。

- このデバイスは、屋内での使用のみを目的として設計されています。液体のない換気の良い、ほこりのない環境に設置してください。
- レコーダーがラックまたは棚に適切に固定されていることを確認してください。レコーダーを落とした結果としてレコーダーに大きな衝撃や衝撃が加わると、レコーダー内の敏感な電子機器が損傷する可能性があります。
- デバイスは、水滴や水しぶきにさらされてはならず、花瓶などの液体で満たされた物体をデバイスの上に置かないでください。
- 火のともったろうそくなどの裸火源をデバイスの上に置かないでください。
- 換気口を新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどのアイテムで覆うことによって換気を妨げてはなりません。開口部は、デバイスをベッド、ソファ、敷物、またはその他の同様の表面に置いて塞がれてはなりません。
- 特定のモデルでは、AC主電源に接続するための端子の正しい配線を確認してください。
- 特定のモデルでは、機器は必要に応じてIT配電システムへの接続用に設計されています。
-  バッテリーホルダー自体を識別し、バッテリーホルダー内のセルの位置を識別します。
- +は、直流電流で使用される、または生成されるデバイスの正端子を識別し、-は、直流で使用される、または生成されるデバイスの負端子を識別します。
- デバイスの電源を切ったり、長時間置いたりすると、コイン/ボタン電池の電力が切れる場合があります。
- コイン/ボタン電池の電力が切れると、システム時刻が正しくなくなりますので、アフターサービスに連絡して電池を交換してください。
- 十分な換気のために、機器の周囲に200 mm(7.87インチ)以上の距離を保ってください。
- 特定のモデルでは、AC主電源に接続するための端子の正しい配線を確認してください。
- 鋭いエッジやコーナーには触れないでください。
- デバイスが45°C(113°F)を超えて動作している場合、またはSMARTのHDD温度が記載されている値を超えている場合は、デバイスが涼しい環境で動作していることを確認するか、HDDを交換してSMARTのHDD温度を記載されている値未満にしてください。
- 山頂、鉄塔、森林などの特別な条件下で、デバイスの入口開口部にサージサプレッサーを提供します。
- デバイスの電源を切った後も電気が残っている可能性があるため、むき出しのコンポーネント(インレットの金属接点など)には触れず、少なくとも5分間待ちます。
- 機器のUSBポートは、マウス、キーボード、USBフラッシュドライブ、またはWi-Fi Dongleへの接続にのみ使用されます。接続されたデバイスの電流は0.1A以下でなければなりません。
- デバイスのシリアルポートは、デバッグにのみ使用されます。
- デバイスの電源出力ポートが制限付き電源に準拠していない場合、このポートから電力を供給される接続デバイスには、防火エンクロージャーを装備する必要があります。

Network Video Recorder User Manual

- 電源アダプターがデバイス パッケージに含まれている場合は、付属のアダプターのみを使用してください。

Network Video Recorder User Manual

- ステッカーまたはステッカー付きのデバイスについては 、次の注意事項に注意してください:注意:ホットパーツ!触れないでください。部品の取り扱い時に指を火傷しました。電源を切ってから30分ほど待ってから、部品を扱ってください。
- デバイスを壁や天井に設置する必要がある場合は、
 - 一. このマニュアルの指示に従ってデバイスを取り付けます。
 - 二. 怪我を防ぐために、このデバイスは、インストール手順に従ってインストール面にしっかりと取り付ける必要があります。
- 高い動作温度(40°C(104°F)から55°C(131°F))では、一部の電源アダプターの電力が低下する場合があります。
- デバイスを配線、設置、または分解する前に、電源が切断されていることを確認してください。
- デバイスを自分で配線する必要がある場合は、デバイスに記載されている電氣的パラメータに従って、対応するワイヤを選択して電力を供給します。標準のワイヤーストリッパーで対応する位置でワイヤーを剥がします。深刻な結果を避けるために、剥がされたワイヤの長さは適切であり、導体が露出しないようにする必要があります。
- デバイスから煙、臭い、騒音が発生した場合は、すぐに電源を切り、電源ケーブルを抜いて、サービスセンターに連絡してください。




コンテンツ規約

説明を簡単にするために、次の規則をお読みください。

- レコーダーまたはデバイスとは、主にビデオレコーダーを指します。
- IPデバイスとは、主にネットワークカメラ(IPカメラ)、IPドーム(スピードドーム)、DVS(デジタルビデオサーバー)、またはNVS(ネットワークビデオサーバー)を指します。
- チャンネルとは、主にビデオレコーダーのビデオチャンネルを指します。

シンボルの表記規則

このドキュメントに記載されている記号は、次のように定義されています。

記号	形容
 危険	回避しないと、死亡または重傷を負う可能性がある、または引き起こす可能性のある危険な状況を示します。
 注意	回避しないと、機器の損傷、データの損失、パフォーマンスの低下、または予期しない結果につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。
 手記	本文の重要なポイントを強調したり補足したりするための追加情報を提供します。

HDDのインストール

デバイスが HDD ホットスワップをサポートしていない場合は、ハードディスクドライブ (HDD) を取り付ける前にデバイスの電源を切断してください。このインストールには、工場で推奨されるHDDを使用する必要があります。

以下のQRコードをスキャンして、HDDのインストールビデオを表示します。



図1-1 HDDの取り付け

ブラケットの取り付け

ブラケットの取り付けは、デバイスカバーを取り外し、HDDを内部ブラケットに取り付ける必要がある場合に適用されます。

ステップ

1. 背面のネジを緩め、カバーを後方に押し、カバーを取り外します。

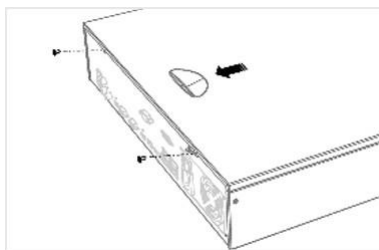


図 1-2 カバーの取り外し

2. HDDをブラケットにネジで固定します。



HDDを下層ブラケットに取り付ける前に、まず上層ブラケットを取り外してください。

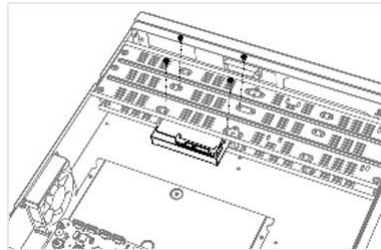


図1-3 HDDの修正

3. データケーブルと電源ケーブルを接続します。

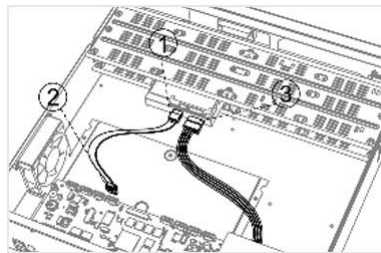


図1-4接続ケーブル



上記の手順を繰り返して、他のHDDを取り付けることができます。

4. デバイスカバーを再度取り付け、ネジを締めます。

フロントパネルプラグプル取り付け

フロントパネルのプラグプル取り付けは、キーでデバイスのフロントパネルを開いてHDDを取り付ける必要がある場合に適用できます。

ステップ

1. 取り付け耳をHDDにネジで固定します。

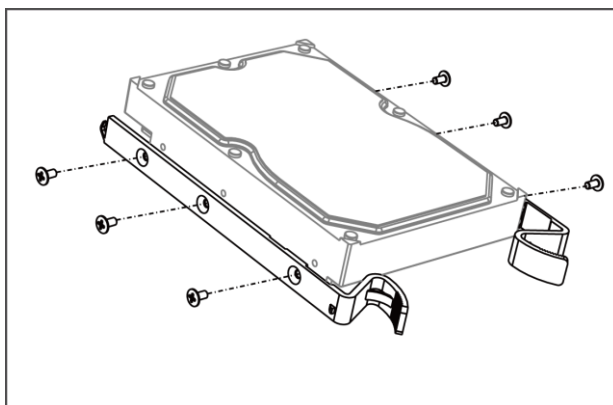


図 1-5 取り付け耳の HDD への固定

2. 付属のキーでフロントパネルのロックを解除し、フロントパネルの両側にあるボタンを押して開きます。

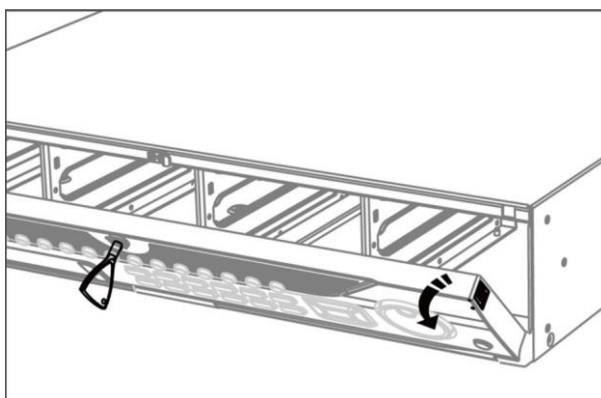


図 1-6 オープンフロントパネル

3. HDDをしっかりと固定するまで挿入します。

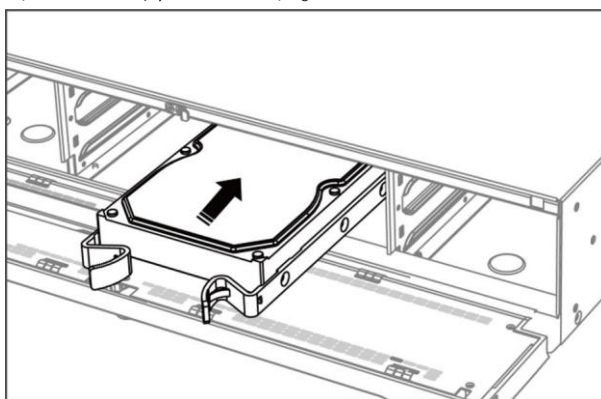


図1-7 HDDの挿入

4. オプション: 上記の手順を繰り返して、他の HDD を取り付けます。
5. フロントパネルを閉じ、キーでロックします。

HDDケースの取り付け

HDDケースの取り付けとは、HDDをケースに取り付けてから、HDDケースをスロットに差し込む方法を指します。

ステップ

1. パネルキーでフロントパネルのロックを解除します。
2. フロントパネルをデバイスから引き出し、左ハンドルを少し上にします。

手記

フロントパネルとデバイスの間の角度は10°以内である必要があります。

3. 青いボタンを押してハンドルをポップアップし、ハンドルを持ってHDDケースをスロットから引き出します。
4. ハードディスクをHDDケースに固定します。
 - 1) ケースにHDDを入れます。SATAインターフェースはケースの底面を向いている必要があります。
 - 2) HDDの位置を調整します。ハードディスクの背面がHDDの底面と揃っていることを確認します。
 - 3) ドライバーを使用して、4本のネジを両側のネジ穴に固定します。

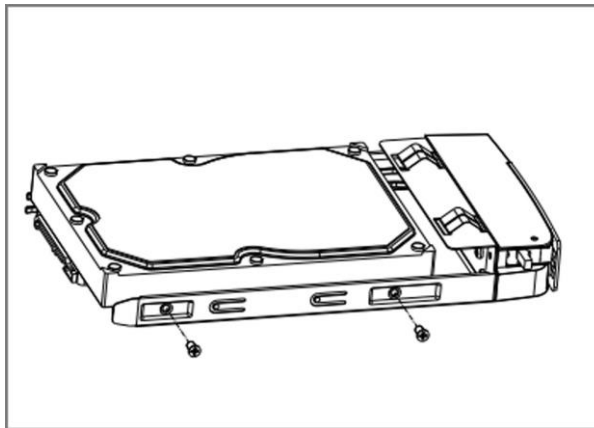


図 1-8 HDD の修正

5. HDDケースをスロットに押し戻します。

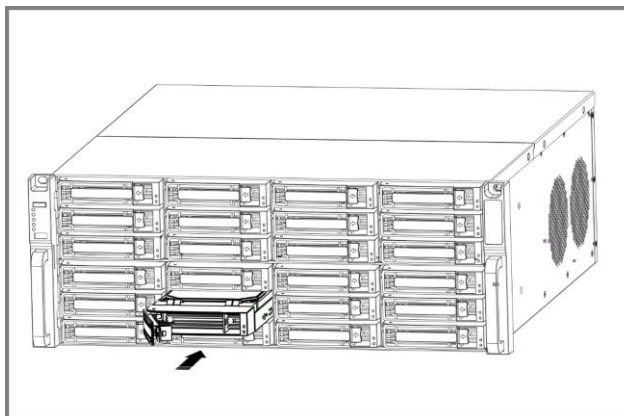


図 1-9 HDD ケースをスロットに押し込む

6. カチッという音がするまでハンドルを押します。したがって、HDDケースを固定します。上記の手順を繰り返して、残りのハードディスクボックスを取り付けます。
7. フロントパネルを閉じ、パネルキーでロックします。

Fix-on-Bottomインストール

Fix-on-bottomインストールは、HDDをデバイスの底面に取り付けて固定する必要がある場合に適用できます。

ステップ

1. パネルのネジを緩めて、デバイスからカバーを取り外します。

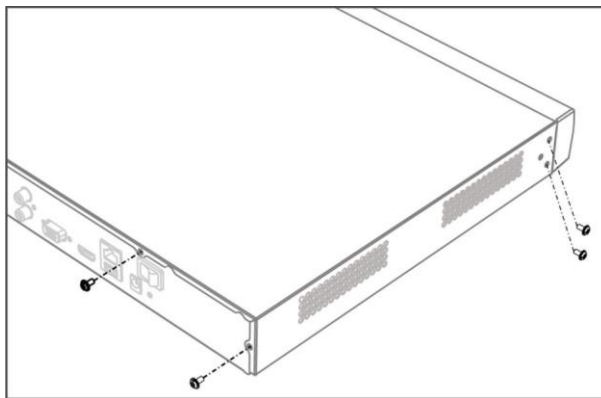


図 1-10 カバーの取り外し

2. データケーブルと電源ケーブルを接続します。
 - 1) データケーブルの一方の端をデバイスのマザーボードに接続します。
 - 2) データケーブルのもう一方の端をHDDに接続します。
 - 3) 電源ケーブルの一方の端をHDDに接続します。
 - 4) 電源ケーブルのもう一方の端をデバイスのマザーボードに接続します。

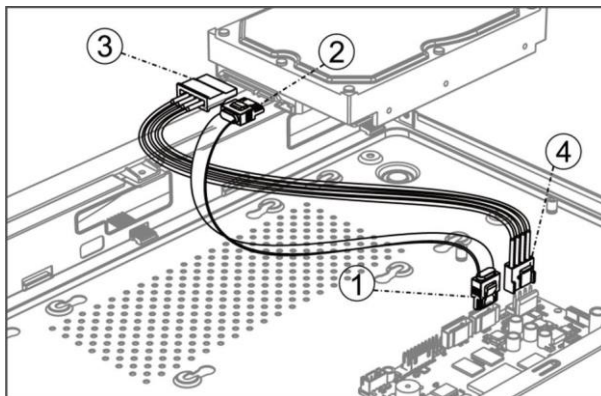


図 1-11 ケーブルの接続

3. デバイスをセットアップし、HDDのネジ山をデバイス底面の予約穴に合わせ、HDDをネジで固定します。

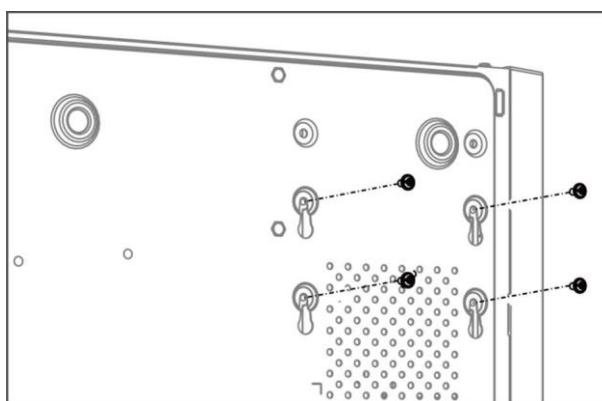


図 1-12 HDD をデバイス底面に固定する

4. オプション: 上記の手順を繰り返して、他の HDD を取り付けます。
5. デバイスカバーを再度取り付け、ネジを締めます。

コイン/ボタン電池の交換

コイン/ボタン電池は、デバイスの電源をオフにしたり、長時間置いたりして、システム時刻が正しくない場合は交換する必要があります。

始める前に

デバイスの電源を切ります。

ステップ

1. デバイスのシャーシカバーを取り外します。
2. マザーボード上のコイン/ボタン電池を見つけます。
3. ピンセットを使用して中央の金属製ラッチを内側から押すと、バッテリーが自動的にポップアップします。

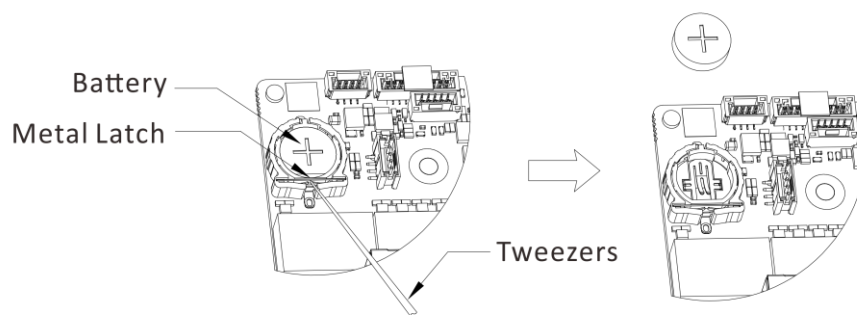


図1-1 バッテリーの取り外し

4. 古いバッテリーを取り出し、同じモデルの新しいバッテリーをバッテリースロットに押し込みま

Note

す。

バッテリーのプラス端子(+プラス端子を示します)は上向きに配置する必要があります。

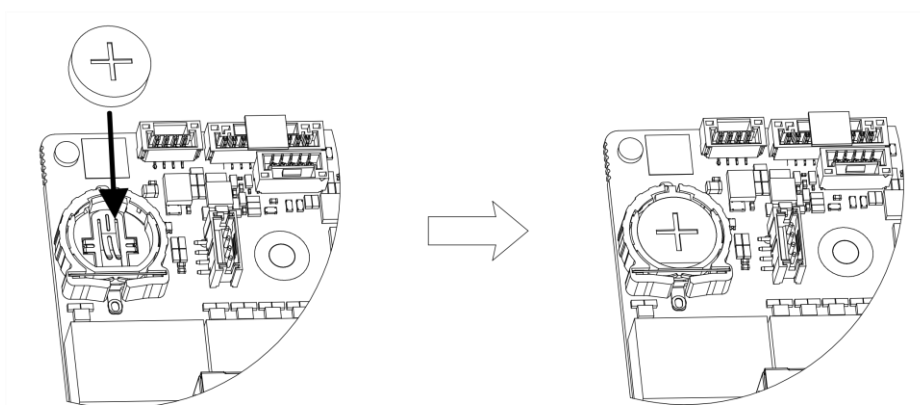


図1-2 バッテリーの交換

5. デバイスのシャーシカバーを再度取り付けます。

Network Video Recorder User Manual

次のタスク

システム時刻が正しくない場合は、時刻の設定に進んでください。

内容

内容

第1章 ローカルメニューからのアクティブ化	1
第2章 デバイスへのログイン.....	3
第3章 ユーザーインターフェースの紹介.....	4
第4章 ネットワーク設定	6
4.1 ネットワーク パラメータ設定	6
4.1.1 TCP/IPの設定.....	6
4.1.2 DDNSの設定	7
4.1.3 PPPoE の設定	8
4.1.4 マルチキャストの設定	8
4.2 プラットフォームアクセス設定	9
4.2.1 Hik-Connectの設定	9
4.2.2 OTAPの設定	12
4.2.3 ISUP の設定.....	12
4.2.4 SDK サービスの構成.....	13
4.2.5 ISAPI を有効にする	14
4.2.6 ONVIF を構成する	14
4.2.7 Log Server の構成	15
4.3 ネットワークサービス設定	16
4.3.1 HTTP(S) の設定.....	16
4.3.2 RTSP を構成する	17
4.3.3 WebSocketを構成する	17
4.3.4 ポートマッピング(NAT)の設定	19
第5章 ユーザー管理.....	22
第6章 デバイスアクセス	23

Network Video Recorder User Manual

6.1	ビデオデバイスへのアクセス	23
6.1.1	自動的に検索されたオンラインネットワークカメラを追加する	23
6.1.2	ネットワークカメラを手動で追加する	23
6.1.3	PoE 経由でネットワークカメラを追加	24
6.1.4	OTAPプロトコルによるソーラーパワーカメラの追加	25
6.1.5	カスタムプロトコルによるネットワークカメラの追加	25
6.1.6	カメラ設定ファイルによるネットワークカメラの追加	28
6.2	アクセス制御デバイスの追加	28
6.3	オーディオデバイスを追加	28
6.4	POSデバイスの追加.....	29
6.5	チャンネル管理	30
第7章	デバイスのグループ化.....	31
第8章	ビデオまたはオーディオデバイスの設定	32
8.1	H.265 ストリーム アクセスの有効化.....	32
8.2	ディスプレイ設定の構成	32
8.3	ビデオパラメータの設定	33
8.4	プライバシーマスクの設定	33
8.5	オーディオパラメータの設定	34
8.6	OTAPサービスの設定	34
8.7	バッチ構成	36
8.8	PoE(Power over Ethernet)インターフェイスの設定	37
第9章	ストレージ管理.....	39
9.1	HDDの管理.....	39
9.2	RAID 構成	40
9.2.1	ディスク・アレイの作成.....	41
9.2.2	アレイの再構築	42
9.2.3	配列の削除	43

Network Video Recorder User Manual

9.2.4	ファームウェア情報の表示	43
9.3	ストレージモードの設定	45
9.4	その他のストレージパラメータの設定	45
9.5	Mange USBフラッシュドライブ	46
第10章	スケジュール設定	47
10.1	スケジュールテンプレートの設定	47
10.2	録画スケジュールの設定	48
10.3	画像キャプチャスケジュールの設定	50
10.4	オーディオ録音の設定	53
第11章	ライブビュー	54
10.1.1	ライブビューレイアウトの設定	54
10.1.2	GUIの紹介	54
10.1.3	PTZ制御	55
第12章	再生	58
12.1.1	GUIの紹介	58
12.1.2	通常再生	59
12.1.3	イベントの再生	61
12.1.4	スライス再生	61
12.1.5	サブピリオド再生	62
第13章	イベントセンター	63
13.1	イベント設定	63
13.1.1	基本/汎用イベント	63
13.1.2	周辺保護	66
	ラインクロッシング検出の設定	66
	侵入検知の設定	70
	領域入口検出の設定	72
	領域終了検出の設定	76

Network Video Recorder User Manual

13.1.3 異常な動作イベント	78
13.1.4 対象イベント	81
13.1.5 サーマルカメラ検出	84
13.1.6 アラーム入力イベント	85
13.1.7 オーディオ分析イベント	87
13.2 リンケージ構成	89
13.3 武装解除の設定	90
13.4 バッチ構成	91
13.5 イベント検索	92
13.6 アラームの表示	93
第 14 章 検索とバックアップ	94
第15章 AcuSearch	96
第16章 スマートセッティング	98
16.1 アルゴリズム管理	98
16.2 エンジンの状態	98
16.3 タスクプラン管理	98
16.4 リスト ライブラリ管理	98
16.4.1 リスト ライブラリを追加する	100
16.4.2 顔の写真をライブラリにアップロードする	100
第17章 アプリケーションセンター	103
17.1 人と車両の検出	103
17.2 パーソンチェックイン	103
17.2.1 チェックイン タスクの追加	103
17.2.2 チェックインレコードの検索	104
17.3 統計レポート	105
第 18 章 システムパラメータの設定	106
第 19 章 ホットスペア デバイスのバックアップ	108

Network Video Recorder User Manual

19.1 作業デバイスの設定	108
19.2 ホットスペアデバイスの設定.....	108
第20章 例外イベントの構成.....	111
第21章 システム情報の表示	113
第22章 システムメンテナンス.....	114
22.1 再起動のスケジュール	114
22.2 デバイスのアップグレード	114
22.3 バックアップと復元	114
22.4 ログ情報	115
22.5 Log Server の構成	115
22.6 メンテナンスツール	115
第23章 セキュリティ管理	117
23.1 アドレスフィルター	117
23.2 ストリーム暗号化	117
23.3 TLS バージョンの選択.....	117
第24章 付録.....	118
24.1 適用電源アダプター一覧	118
24.2 用語集	120
24.3 よくあるご質問	121
24.4 腐食性ガスの届出	125

第1章 ローカルメニューからのアクティブ化

初めてアクセスする場合は、デバイスをアクティブ化するために管理者パスワードを設定する必要があります。アクティブ化前の操作は許可されていません。また、Webブラウザ、SADP、またはクライアントソフトウェアを使用してデバイスをアクティブ化することもできます。

始める前に

デバイスがモニターとマウスに接続されていることを確認します。

ステップ

1. デバイスの電源を入れます。
2. システム言語を選択します。
3. 管理者パスワードを2回入力します。

Caution

製品のセキュリティを強化するために、自分で選択した強力なパスワードを作成することを強くお勧めします(少なくとも8文字を使用し、少なくとも3種類のカテゴリを含む: 大文字、小文字、数字、特殊文字を使用)。また、特に高セキュリティシステムでは、パスワードを定期的に変更することをお勧めします。パスワードを毎月または毎週変更すると、製品の保護が向上します。

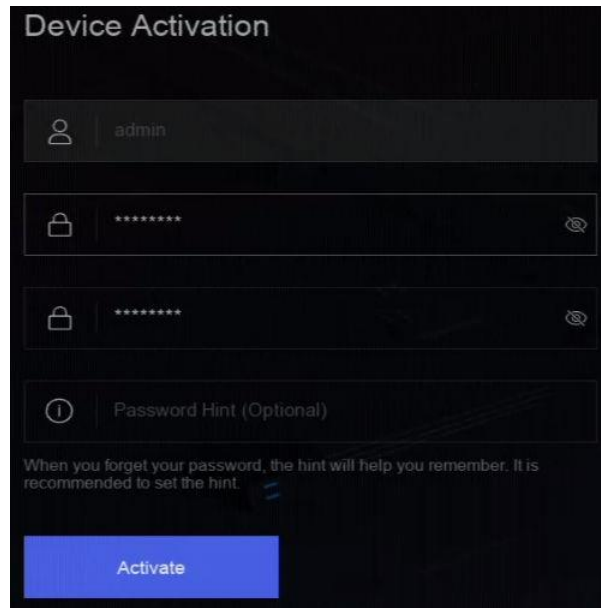


図1-1 ローカルメニューからのアクティブ化

4. オプション: パスワードのヒントを入力します。パスワードを忘れたときに覚えておくのに役立ちます。
5. 「アクティブ化」をクリックします。

 **Note**

デバイスをアクティブ化した後は、パスワードを適切に保持する必要があります。

-
6. オプション: ロック解除パターンを描画します。
 7. 少なくとも 1 つのパスワード回復方法を構成します。

次のタスク

ウィザードに従って、基本的なパラメータを設定します。

第2章 デバイスへのログイン

メニューやその他の機能进行操作する前に、デバイスにログインする必要があります。

始める前に

デバイスがアクティブ化されていることを確認します。

ステップ

1. デバイスの電源を入れます。
2. 右クリックしてショートカットメニューを表示します。
3. 必要に応じてアイテムを選択します。たとえば、[全画面表示の終了]を選択すると、自動的にログインインターフェイスに入ります。

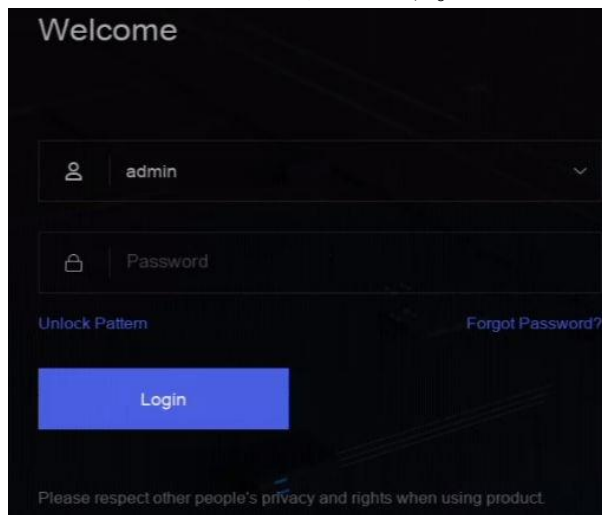


図2-1 ログイン

4. ロック解除パターンを使用してログインするか、[パスワードログイン]をクリックしてユーザー

Note

名とパスワードでログインします。

- ロック解除パターンは、管理者ユーザーのみが使用できます。
 - ロック解除パターンまたはログインパスワードを忘れた場合は、パスワードログインインターフェイスで[パスワードを忘れた場合]をクリックしてパスワードをリセットするか、パスワードのヒントを使用して覚えてください。
-

第3章 ユーザーインターフェースの紹介

デバイスは、電源を入れるとライブビューインターフェイスに入ります。マウスを右クリックし、ショートカットメニューから[全画面表示の終了]を選択します。

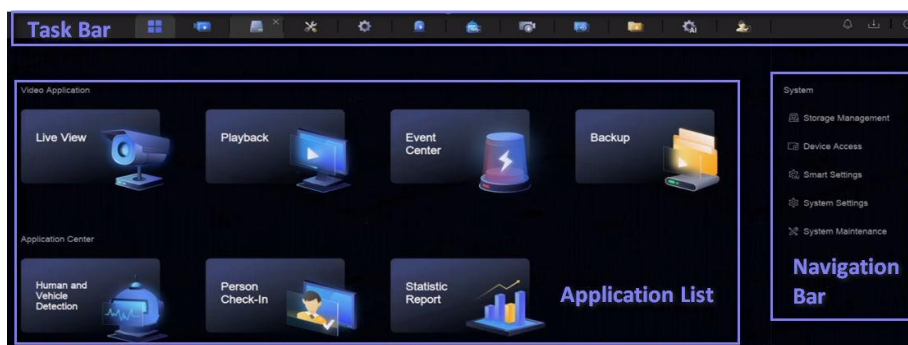


図3-1 「メイン機能」 ページ

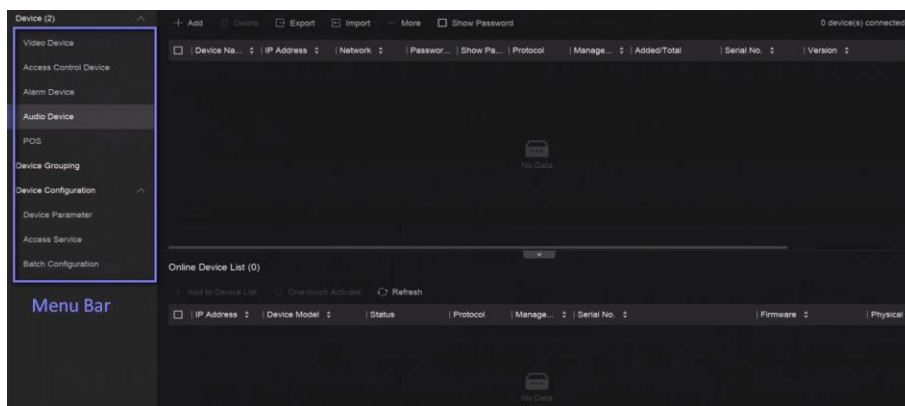


図3-2 メニュー・バーの例

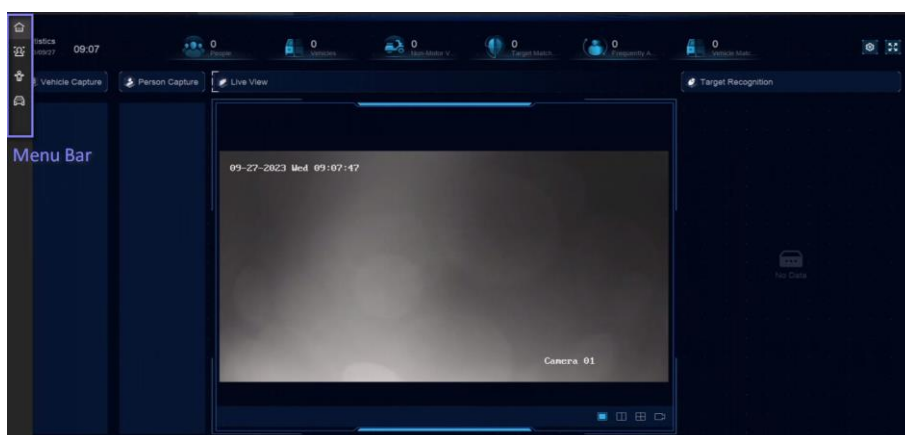








図3-3 アプリケーションセンターの人・車両検出例

Network Video Recorder User Manual

表3-1 インターフェースの概要

インターフェース名	紹介
タスクバー	<ul style="list-style-type: none"> ● 開いているアプリケーションがタスクバーに一覧表示されます。各アプリケーションタブを移動して閉じることができます。 ● アイコンの紹介： <ul style="list-style-type: none"> ●  :メインメニュー。 ●  :イベントセンター。イベントアラームを検索および表示できます。 ●  :各ダウンロードタスクのダウンロード進行状況はここで表示できます。 ●  :デバイスをシャットダウン、ログアウト、または再起動します。
アプリケーション一覧	<p>ここにはすべてのアプリケーションが表示されます。いずれかをクリックして構成できます。</p>
ナビゲーションバー	<p>クリックして、システムの各機能を設定します。</p>
メニューバー	<p>各アプリケーションの設定可能な項目は、こちらにリストされています。</p> <p> 手記</p> <p>Application Center のアプリケーションの場合は、をクリックするか 、右クリックしてメニュー・バーを表示できます。</p>

第4章 ネットワーク設定

ネットワークパラメータ、プラットフォームアクセス設定、およびネットワークサービスは設定可能です。

4.1 ネットワークパラメータ設定

ネットワーク・アクセスを必要とする機能を使用する前に、ネットワーク・パラメーターを構成する必要があります。

4.1.1 TCP/IPの設定

ネットワーク経由でビデオレコーダーを操作したり、ネットワークデバイスにアクセスしたりする前に、TCP / IPを適切に構成する必要があります。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → [ネットワーク] → [TCP/IP] に移動します。

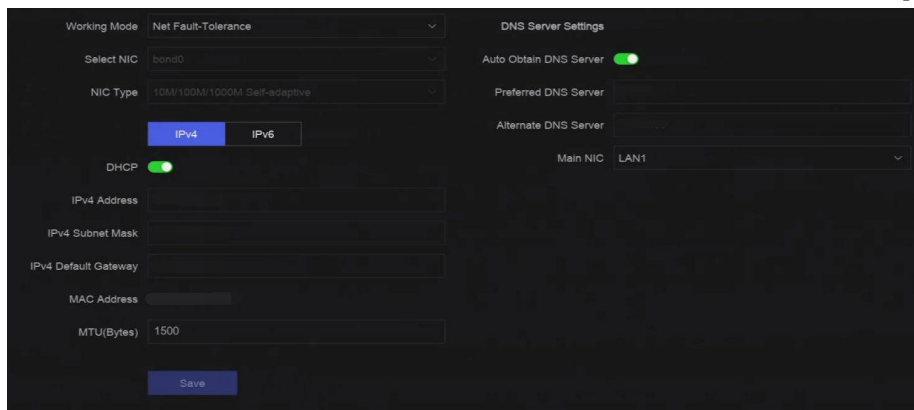


図4-1 TCP/IP設定

2. 動作モードを設定し、NICを選択します。マルチアドレス

2つのNICカードのパラメータは、個別に設定できます。パラメータ設定の[NIC type]フィールドで[LAN1]または[LAN2]を選択できます。デフォルトルートとして1つのNICカードを選択できます。その後、システムはエクストラネットに接続し、データはデフォルトのルートで転送されます。

ネットフォールトトレランス

2枚のNICカードは同じIPアドレスを使用し、メインNICをLAN1またはLAN2に設定できます。このようにして、1つのNICカードに障害が発生した場合、ビデオレコーダーは他のスタンバイNICカードを自動的に有効にして、システム全体の正常な動作を確保します。



作業モードは、特定のモデルでのみ使用できます。

3. ネットワークパラメータを設定します。

- IPv4

DHCP

(英語)

DHCP サーバーが使用可能な場合は、DHCP を有効にして、そのサーバーから IP アドレスとその他のネットワーク設定を自動的に取得できます。

MTU

最大伝送単位(MTU)は、単一のネットワークトランザクションで通信できる最大のネットワーク層プロトコルデータ単位のサイズです。

DNSサーバーの自動取得

DHCP が有効になっている場合。[DNSサーバーの自動取得]をオンにして、優先DNSサーバーを取得できます

および代替DNSサーバー。

- IPv6の

ルーター広告

ネットワーク内のルーターがIPv6をサポートしている場合は、このモードをデフォルトとして使用することをお勧めします。

自動

ネットワークにDHCPv6デバイスがある場合は、このモードを使用することをお勧めします

手動設定

IPv6 パラメータを手動で入力する場合は、このモードを使用します。

4. 「保存」をクリックします。

4.1.2 DDNSの設定

ダイナミック・ドメイン・ネーム・サーバー (DDNS) は、動的ユーザーの IP アドレスを固定ドメイン・ネーム・サーバーにマップします。

始める前に

DynDNS、PeanutHull、およびNO-IPサービスをISPに登録していることを確認します。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → [ネットワーク] → **DDNS** に移動します。

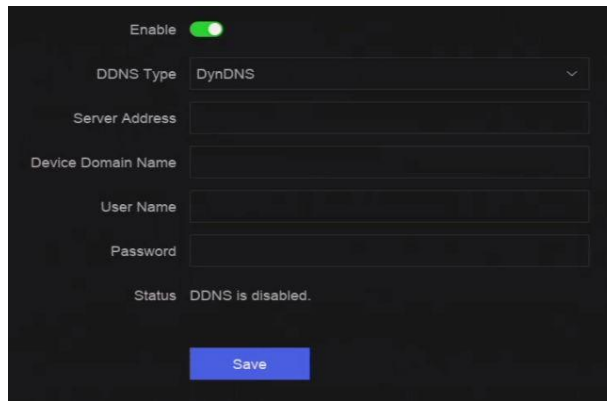


図4-2 DDNS

2. [有効にする] をオンにします。
3. DDNS タイプを選択します。
4. サービスアドレス、ドメイン名などのパラメータを設定します。
5. 「保存」をクリックします。

4.1.3 PPPoE の設定

デバイスがPPPoE経由でインターネットに接続されている場合は、それに応じてユーザー名とパスワードを構成する必要があります。PPPoEサービスの詳細については、インターネットサービスプロバイダーにお問い合わせください。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → [ネットワーク] → [PPPoE] に移動します。

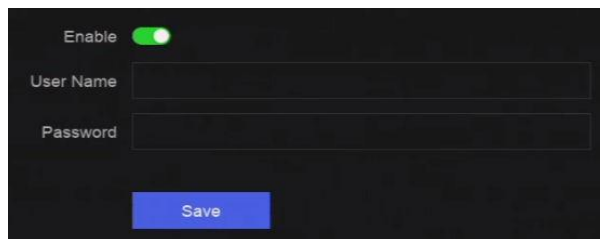


図 4-3 PPPoE

2. [有効にする] をオンにします。
3. ユーザー名とパスワードを入力します。
4. 「保存」をクリックします。

次のタスク

[システム] → [システム メンテナンス] → [実行情報] → [ネットワーク ステータス] に移動して、PPPoE ステータスを表示します。

4.1.4 マルチキャストの設定

マルチキャストは、ネットワーク経由で許可されている最大数を超えるカメラのライブビューを有効にするように設定できます。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → [ネットワーク] → [その他] に移動します。
2. マルチキャストパラメータを設定します。

Note

- ネットワークビデオセキュリティクライアントを介してデバイスを追加する場合、マルチキャストグループのIPアドレスはデバイスのマルチキャストIPアドレスと同じである必要があります。
- IPv4 の場合、224.0.0.0 から 239.255.255.255 の範囲のクラス D IP をカバーし、239.252.0.0 から 239.255.255.255 の範囲の IP アドレスを使用することをお勧めします。CMSソフトウェアにデバイスを追加する場合、マルチキャストアドレスはデバ

イスのアドレスと同じである必要があります。

3. 「保存」をクリックします。

4.2 プラットフォームアクセス設定

4.2.1 Hik-Connectの設定

Hik-Connectは、ビデオレコーダーにアクセスして管理するための携帯電話アプリケーションとプラットフォームサービスを提供し、ビデオセキュリティシステムへの便利なりモータアクセスを可能にします。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → Hik-Connect に移動します。

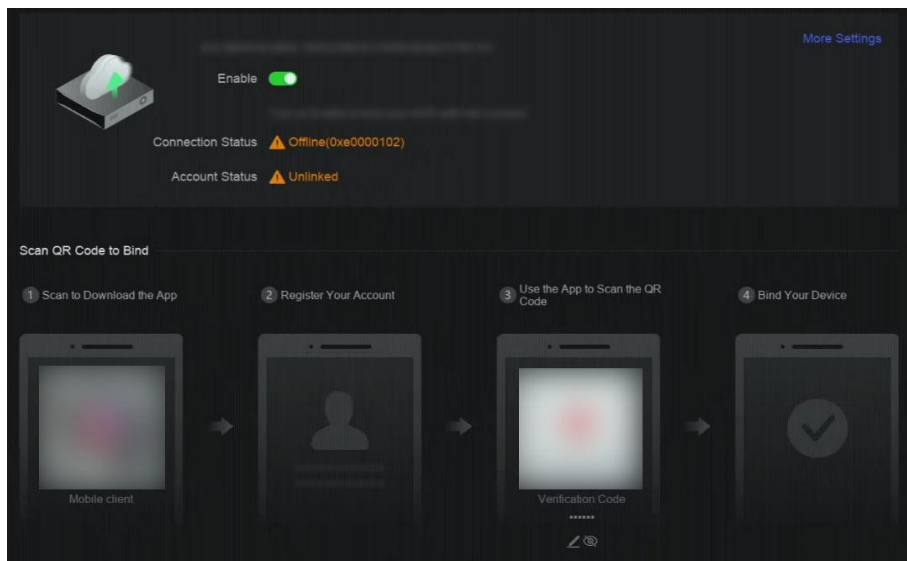


図4-4 Hik-Connect

2. 有効にすると、サービス条件がポップアップ表示されます。
3. サービス条件に同意します。
4. Hik-Connectアプリをダウンロードします。

Network Video Recorder User Manual

- スマートフォンを使用してQRコードをスキャンし、Hik-Connectアプリをダウンロードします。

- <https://appstore.hikvision.com> からアプリをダウンロードします。



図4-5 Hik-Connectのダウンロード

5. アプリでアカウントを登録します。
6. オプション: 「詳細設定」をクリックして、ストリーム暗号化、プラットフォーム時刻同期、およびアダプティブ・ビットレート・ストリーミングを有効にするか、サーバーのIPアドレスを編集します。

ストリーム暗号化

この機能を有効にした後、リモートアクセスとライブビューに確認コードを入力する必要があります。

プラットフォーム時刻同期


デバイスは、NTPサーバーの代わりにHik-Connectと時刻を同期します。

アダプティブビットレートストリーミング

ネットワーク環境が悪い場合、デバイスはビデオのビットレートを自動的に調整して、流暢に再生できるようにします。

サーバーのIPアドレス

Hik-ConnectサーバーのIPアドレス。

7. クリックして  確認コードを設定します。
8. Hik-Connectアプリを使用してデバイスのQRをスキャンし、デバイスをHik-Connectアカウントにバ

Note

インドします。

デバイスがすでにアカウントにバインドされている場合は、[バインド解除]をクリックして現在のアカウントとのバインドを解除できます。

結果

- デバイスがHik-Connectに接続されている場合、接続ステータスはオンラインになります。
- お使いのデバイスが Hik-Connect アカウントに関連付けられている場合、アカウントステータスはリンクされます。

次のタスク

Hik-Connectを介してビデオレコーダーにアクセスできます。

4.2.2 OTAPの設定

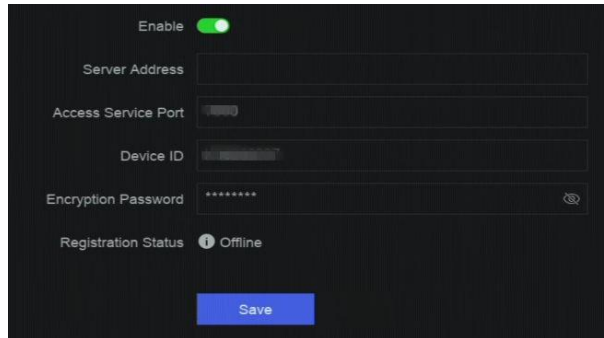
OTAP(Open Thing Access Protocol)は、パブリックネットワークとプライベートネットワークにおけるHikVisionプロトコルの統一された統合標準およびプッシュプルモードです。OTAPを有効にすると、他のアプリケーションがこのプロトコルを使用してビデオをリモートで表示できるようになる場合があります。

始める前に

OTAPを介してデバイスネットワークにアクセスできることを確認します。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → [プラットフォーム アクセス] → [OTAP] に移動し



ます。

図4-6 OTAP

2. OTAPをオンにします。
3. パラメータを設定します。
4. 「保存」をクリックします。

4.2.3 ISUP の設定

ISUP(Intelligent Security Uplink Protocol)は、NVR、スピードドーム、DVR、ネットワークカメラ、モバイルNVR、モバイルデバイス、デコードデバイスなどのデバイスにアクセスするためのAPI、ライブラリファイル、およびコマンドをサードパーティプラットフォームに提供します。このプロトコルを使用すると、サードパーティのプラットフォームは、ライブビュー、再生、双方向オーディオ、PTZ制御などの機能を実現できます。

ステップ

1. [システム] → [CX] → [システム設定] → [ネットワーク] → [プラットフォーム アクセス] → ISUP に移動します。

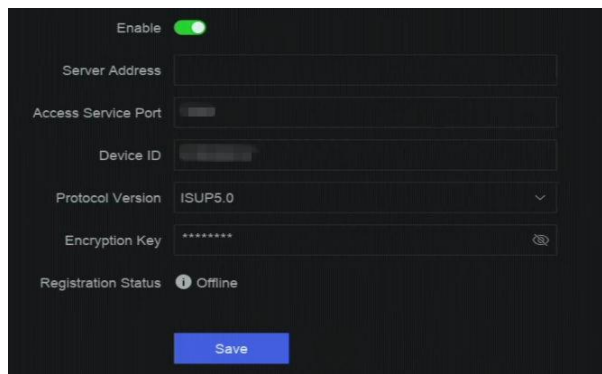


図4-7 ISUPの

2. [有効にする] をオンにします。

Note

ISUP が有効になっている場合、Hik-Connect アクセスは自動的に無効になります。

3. 関連するパラメータを設定します。

サーバーアドレス

プラットフォーム サーバーの IP アドレス。

アクセスサーバーポート

プラットフォーム サーバー ポートの範囲は 1024 から 65535 です。実際のポートはプラットフォームによって提供されるものとします。

デバイスID

デバイスIDは、プラットフォームから提供されるものとします。

プロトコルバージョン

ISUP プロトコルバージョンでは、ISUP 5.0 のみが利用可能です。

暗号化キー

ISUP V5.0バージョンを使用する場合は暗号化パスワードが必要であり、デバイスとプラットフォーム間のより安全な通信を提供します。デバイスが ISUP プラットフォームに登録された後、確認のために入力します。空、つまり "ABCDEF" にすることはできません。

4. 「保存」をクリックします。

デバイスの再起動後に、登録ステータス(オンラインまたはオフライン)を確認できます。

4.2.4 SDK サービスの構成

SDK(Software Development Kit)サービスは、サードパーティパートナーがさまざまな機能を統合するために使用されます。拡張SDKサービスは、より安全なデータ伝送を提供するSDKサービスよりもTLSプロトコルを採用しています。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → プラットフォーム アクセス] → SDK に移動します。

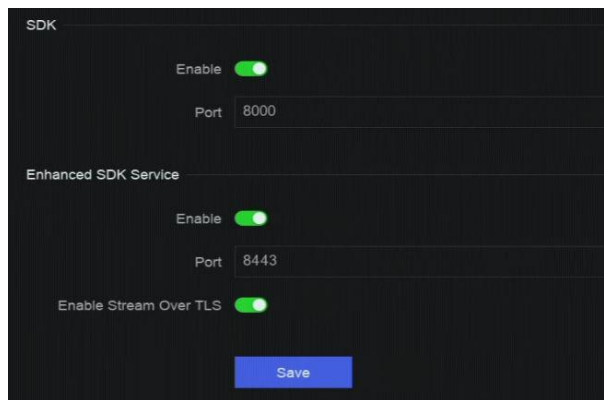


図4-8 SDKサービス

- 要件に応じて **SDK** と **拡張 SDK サービス** を設定します。

Note

Enhanced SDK Service のポートは、デフォルトで **8443** です。

- オプション: TLS 経由のストリームを有効にします。** TLS 暗号化技術を介したストリームは、より安全なストリーム伝送サービスを提供します。
- 「保存」をクリックします。

4.2.5 ISAPI を有効にする

ISAPI(Internet Server Application Programming Interface)は、HTTPに基づくオープンプロトコルであり、システムデバイス(ネットワークカメラ、NVRなど)間の通信を実現できます。

[システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → [プラットフォーム アクセス] → **ISAPI** に移動して、機能を有効にします。

4.2.6 ONVIF を構成する

ONVIFプロトコルは、サードパーティのカメラとの接続を可能にします。追加されたユーザーアカウントには、ONVIFプロトコルを介して他のデバイスを接続する権限があります。

ステップ

- [System (システム)] → CX → [System Settings (システム設定)] → [Network → Platform Access (ネットワークプラットフォームアクセス)] → **ONVIF** に移動します。

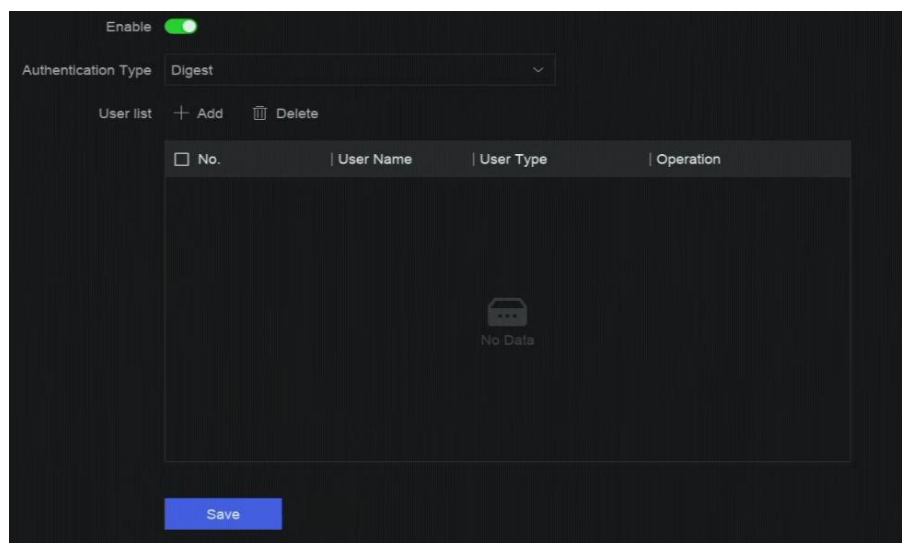


図4-9 ONVIF

2. [有効にする] をオンにします。
3. 認証タイプを選択します。
4. [追加] をクリックしてユーザーを追加します。
5. ユーザー名とパスワードを設定します。



Caution

製品のセキュリティを強化するために、自分で選択した強力なパスワードを作成することを強くお勧めします(大文字、小文字、数字、特殊文字のカテゴリのうち少なくとも3つを含む、最低8文字を使用)。また、特に高セキュリティシステムでは、パスワードを定期的リセットすることをお勧めします。パスワードを毎月または毎週リセットすると、製品の保護が向上します

6. 「保存」 をクリックします。

4.2.7 Log Server の構成

ログをログサーバーにアップロードしてバックアップできます。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → [プラットフォーム アクセス] → [Log Server] に移動します。

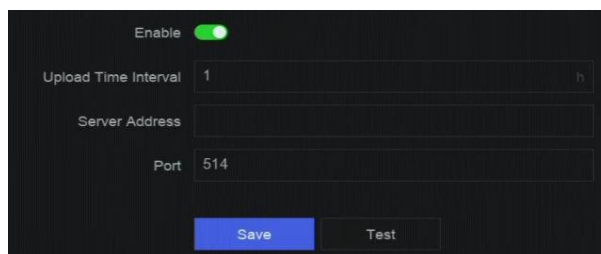


図4-10 ログ・サーバー

2. [有効にする] をオンにします。
3. アップロードの時間間隔、サーバーの IP アドレス、およびポートを設定します。
4. オプション: 「テスト」をクリックして、パラメーターが有効かどうかを確認します。
5. 「保存」をクリックします。

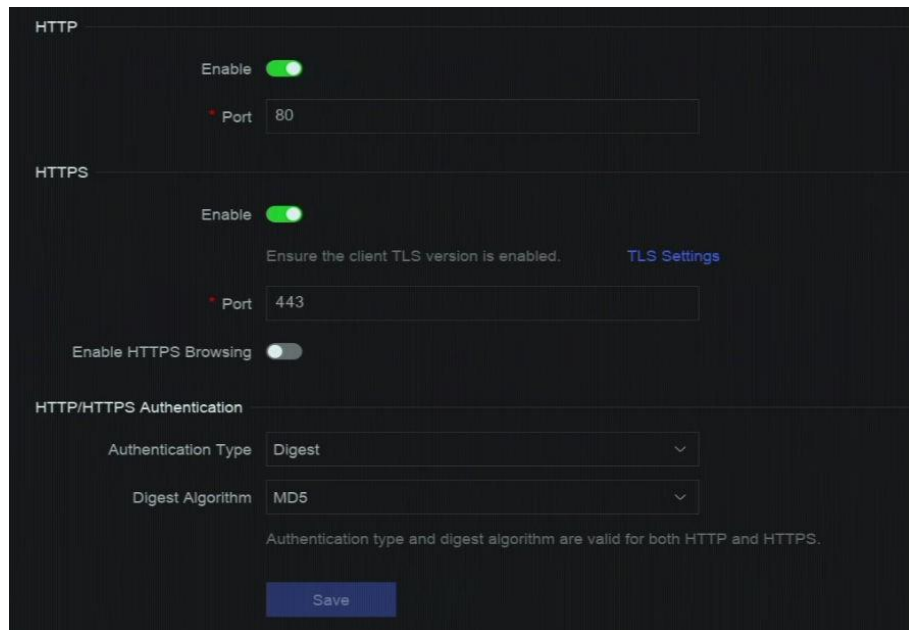
4.3 ネットワークサービス設定

4.3.1 HTTP(S) の設定

HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)およびHTTPS(Hypertext Transfer Protocol Secure)ポートは、Webブラウザを介したリモートアクセスに使用されます。HTTPSプロトコルは、暗号化された送信とID認証を可能にし、リモートアクセスのセキュリティを向上させます。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → [ネットワークサービス] → HTTP(S) に移動しま



す。

図4-11 HTTP(S)

2. オプション: HTTP または HTTPS をオンにします。
3. HTTP または HTTPS のポートを表示または編集します。
4. HTTP/HTTPS 認証を設定しま

す。認証の種類

2つの認証タイプを選択できますが、セキュリティ上の理由から、
認証タイプとして Digest。

ダイジェストアルゴリズム

Network Video Recorder User Manual

ダイジェストアルゴリズムはHTTP/HTTPSに基づいており、主にユーザー認証のダイジェスト認証に使用されます。

5. 「保存」をクリックします。

4.3.2 RTSP を構成する

RTSP(Real Time Streaming Protocol)は、ストリーミングメディアサーバーを制御するために設計されたネットワーク制御プロトコルです。ライブビューのストリームデータを具体的に保護するには、RTSP認証を設定します。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → [ネットワーク サービス] → **RTSP** に移動します。

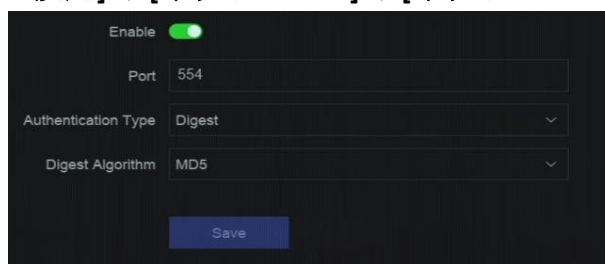


図 4-12 RTSP

2. パラメータを設定します。

ポート

ポートはデフォルトで 554 です。

認証の種類

2つの認証タイプを選択でき、**Digest** 認証を使用したリクエストのみが IP アドレスを介して RTSP でビデオストリームにアクセスできます。セキュリティ上の理由から、**認証タイプ**として [ダイジェスト] を選択することをお勧めします。

RTSP ダイジェストアルゴリズム

RTSPダイジェストアルゴリズムはRTSPに基づいており、ユーザー認証のダイジェスト認証のためのアルゴリズムです。

3. 「保存」をクリックします。

4.3.3 WebSocketを構成する

TCPに基づくWebSocketプロトコルは、Webブラウザとサーバー間の全二重通信を提供することを目的としています。これにより、双方向のインタラクティブ通信セッションを開くことができます。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → [ネットワークサービス] → **WebSocket(s)** に移動します。
2. [有効にする] をオンにします。
3. ポートを設定します。

4. 「保存」をクリックします。

4.3.4 ポートマッピング(NAT)の設定

ポートマッピングには、クロスセグメントネットワークを介したリモートアクセスを実現するための2つの方法、UPnP™(ユニバーサルプラグアンドプレイ)、および手動マッピングが用意されています。UPnP™を使用すると、デバイスはネットワーク上の他のネットワークデバイスの存在をシームレスに検出し、データ共有、通信などのための機能的なネットワークサービスを確立できます。UPnP™機能を使用すると、ポートマッピングなしでルーター経由でデバイスをWANに高速接続できます。

始める前に

デバイスのUPnP™機能を有効にする場合は、デバイスが接続されているルーターのUPnP™機能を有効にする必要があります。デバイスのネットワーク動作モードがマルチアドレスとして設定されている場合、デバイスのデフォルトルートは、ルーターのLANIPアドレスと同じネットワークセグメントにある必要があります。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [ネットワーク] → [ネットワークサービス] → NAT に移動します。

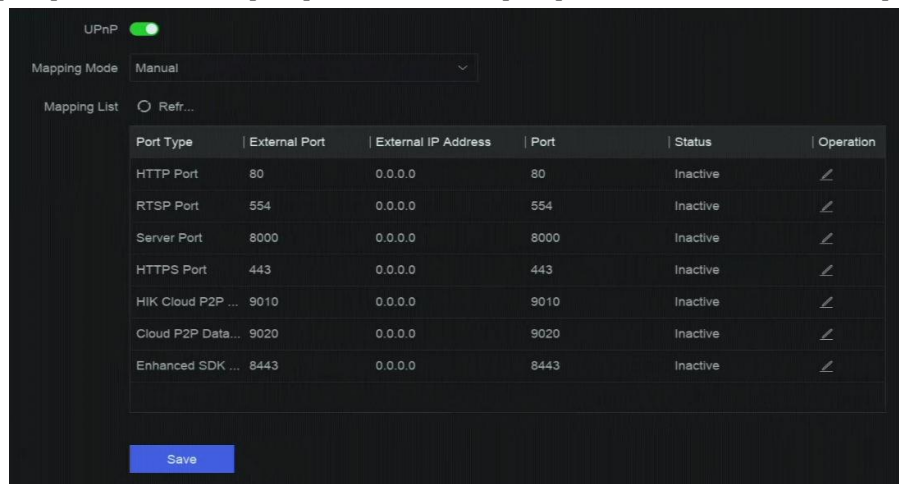


図 4-13 ポートマッピング(NAT)

2. [有効にする] をオンにします。


3. マッピングモードを設定します。

自動

ポートマッピング項目は読み取り専用で、外部ポートはルーターによって自動的に設定されます。

手動

外部ポートは手動で編集できます。

4. [マッピングモード] が [手動] を選択した場合は、クリックして  対応するポートを編集します。

Note

す。

- RTSP ポート番号の値は 554 または 1024 から 65535 の間で、他のポートの値は 1 から

Network Video Recorder User Manual

65535 の間で、値は

Network Video Recorder User Manual

お互いに。同じルーターで複数のデバイスがUPnP™設定に設定されている場合、ポートNo.各デバイスは一意である必要があります。

- **[外部ポート(External Port)]** は、ルーターのポート マッピングの内部ポート番号を示します。

5. 「保存」をクリックします。

次のタスク

ルーターの仮想サーバー設定ページに入り、内部/外部ソースポートの空白に内部/外部ポートの値、およびその他の必要な内容を入力します。

第5章 ユーザー管理

管理者用のデフォルトのアカウントがあります。管理者ユーザー名は **admin** です。管理者には、ユーザーを追加、削除、および編集する権限があります。ゲストユーザーとオペレーターユーザーには、限られたアクセス許可しかありません。

[システム] → [システム設定] → [ユーザー管理] に移動します。

No.	User Name	Security	Type	User's MAC Address	Operation
1	admin	Weak Password	Admin	00:00:00:00:00:00	

図 5-1 ユーザー管理の表 5-1 ア

アイコン/ボタンの説明

アイコン/ボタン	内容
	アカウントセキュリティ
追加	ユーザーを追加します。
	削除します

Note

操作する前に、管理者パスワードを確認する必要があります。

第6章 デバイスアクセス

ビデオレコーダーは、ネットワークカメラ、アクセス制御デバイス、アラームデバイスなど、複数のデバイスタイプにアクセスできる場合があります。ビデオレコーダーのアクセス機能については、実際のデバイスを参照してください。

6.1 ビデオデバイスへのアクセス

ビデオ デバイスにアクセスするには、いくつかの方法があります。

6.1.1 自動的に検索されたオンラインネットワークカメラを追加する

同じネットワークセグメント上のネットワークカメラを自動的に検索してデバイスに追加できます。

ステップ

1. [システム] → [デバイスへのアクセス] → [デバイス] → [ビデオ デバイス] → [オンラインデバイスリスト] に移動します。
2. リストからデバイスを選択します。

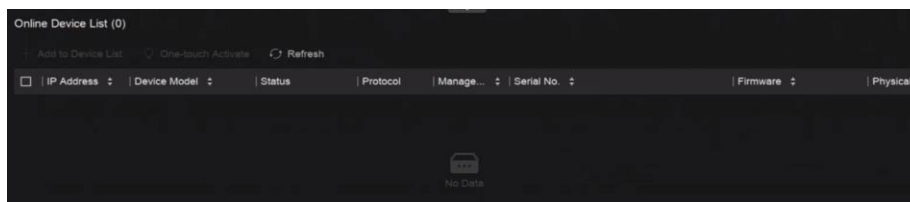


図 6-1 自動的に検索されたオンライン ネットワーク カメラの追加

3. [デバイスリストに追加]をクリックします。

Note

- デバイスはデフォルトのパスワードを使用してネットワークカメラを追加し、カメラのパスワードがデフォルトのパスワードと同じであることを確認します。
- 追加するネットワークカメラがアクティベートされていない場合は、カメラ管理インターフェースのネットワークカメラリストでアクティベートできます。
- ネットワークカメラが正常に追加されると、そのステータスは**オンライン**になります。
- デバイス名をクリックすると、そのパラメータを追加できます。

6.1.2 ネットワークカメラを手動で追加する

ネットワークカメラをビデオレコーダーに手動で追加します。

Network Video Recorder User Manual

始める前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメント上にあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認します。
- ネットワークカメラがアクティブになっていることを確認します。

ステップ

1. [システム] → [デバイス] → [アクセス] → [ビデオデバイス] に移動します。

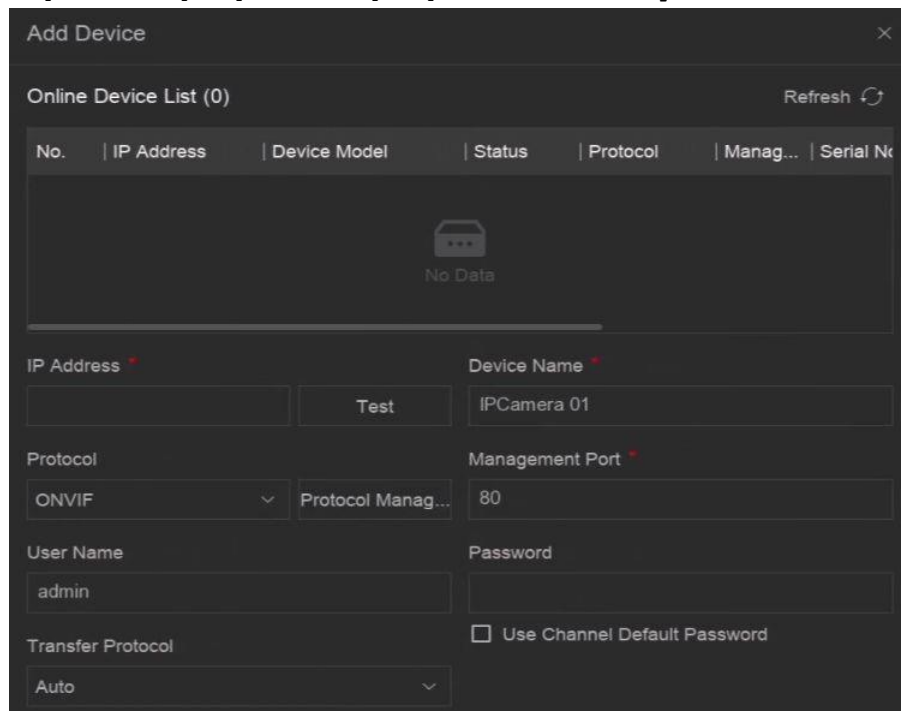


図 6-2 ネットワーク カメラの手動追加

2. 「追加」をクリックします。
3. ネットワークカメラのパラメータを入力します。

チャンネルのデフォルトパスワードを使用

有効にすると、ビデオレコーダーは設定されたチャンネルのデフォルトパスワードでカメラを追加します。

その他の設定

[証明書の確認] を有効にすると、カメラを証明書で検証できます。証明書は、より安全なカメラ認証を提供するカメラの ID 形式です。この機能を使用する場合は、最初にネットワークカメラ証明書をデバイスにインポートする必要があります。

4. オプション: [Continue to Add] をクリックして、他のネットワークカメラを追加します。
5. 「追加」をクリックします。

6.1.3 PoE 経由でネットワークカメラを追加

PoE(Power over Ethernet)ネットワークカメラは、背面パネルのPoEインターフェースを介してデバイスに直接接続できます。

Network Video Recorder User Manual

ネットワークケーブルを使用してPoEネットワークカメラをデバイスに接続した後、対応するPoEインターフェイスを構成する必要があります。詳細については、**PoE(Power over Ethernet)インターフェイスの設定を参照してください。**

6.1.4 OTAPプロトコルによるソーラーパワーカメラの追加

太陽光発電のカメラは、OTAPプロトコルを介してデバイスに追加できます。

始める前に

デバイスと太陽光発電カメラ間のネットワークがOTAPプロトコルを介してアクセス可能であることを確認してください。

ここにタスクのコンテキストを入力します(オプション)。

ステップ

1. [System (システム)] → [Device Access (デバイスアクセス)] → [Device Configuration (デバイス設定)] → [Access Service (アクセスサービス)] → [OTAP Service (OTAP サービス)] に移動します。
2. [有効にする] をオンにします。
3. OTAPサーバーポートと暗号化キーを設定します。
4. オプション: [IPカメラの自動追加] を有効にします。デバイスのOTAPパラメータを設定すると、新しく署名されたネットワークカメラを(OTAPプロトコルを介して)デバイスに自動的に追加できます。
5. Webブラウザを使用して、太陽光発電カメラのOTAPプロトコルパラメータを設定します。詳細については、カメラのユーザーマニュアルを参照してください。

Note

ソーラーパワーカメラのOTAPプロトコルパラメーターは、デバイスと同じである必要があります。

6. ソーラーパワーカメラをデバイスに追加します。
 - [IPカメラの自動追加] を有効にしている場合、新しく署名されたネットワークカメラ(OTAPプロトコルを使用)が自動的にデバイスに追加されます。
 - オンラインデバイスリストから**太陽電池式カメラ**を選択し、[クイック追加]をクリックします。
7. [System → Device Access] → [Device → Video Device] で [Add] をクリックし、[Protocol] [OTAP] を選択して [Add] をクリックします。

次のタスク

- ソーラーパワーカメラをデバイスに追加した後、デバイスをウェイクアップしたり、バッテリー電源を表示したり、ライブビデオを表示したり、Webブラウザでパラメーターを構成したりできます。
- カメラのANR(Automatic Network Replenishment)を設定します。録音**スケジュールの設定を参照してください。**

6.1.5 カスタムプロトコルによるネットワークカメラの追加

標準プロトコルを使用していないネットワークカメラの場合は、カスタムプロトコルを設

Network Video Recorder User Manual

定して追加できます。このシステムは、8つのカスタムプロトコルを提供します。

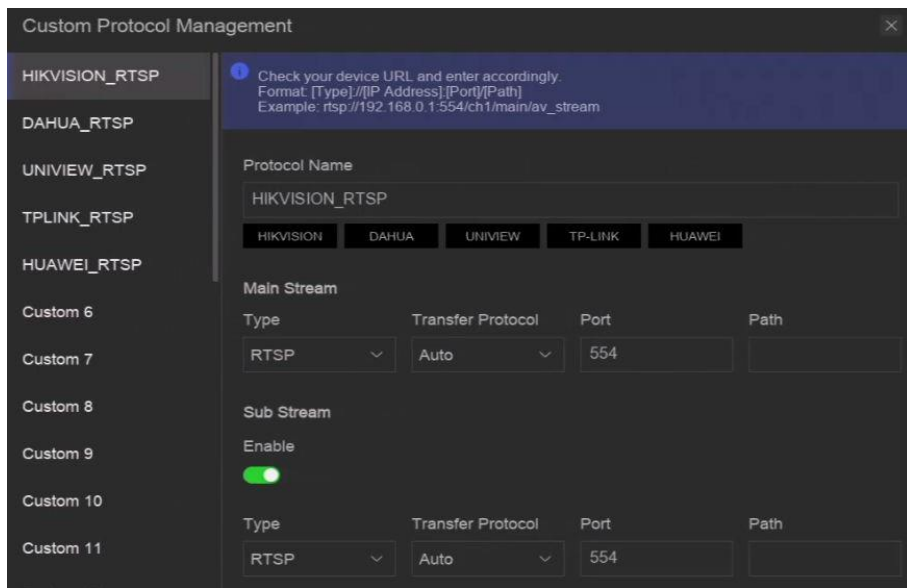
Network Video Recorder User Manual

始める前に

- ネットワークカメラがRTSPストリーミングをサポートしていることを確認します。
- ネットワークカメラのメインストリームまたはサブストリームを取得するためのURL(Uniform Resource Locator)を準備します。

ステップ

1. [システム] → [デバイス] → [アクセス] → [ビデオデバイス] に移動します。
2. 「カスタム・プロトコル管理」 → 「詳細」 をクリックするか、「→プロトコル管理を追加」 をク



リックします。

図 6-3 カスタマイズプロトコルによるネットワークカメラの追加

3. 左側でプロトコルタイプを選択します。
4. プロトコルパラメータを設定します。

種類

カスタムプロトコルを採用するネットワークカメラは、標準のRTSPを介したストリームの取得をサポートする必要があります。

転送プロトコル

Auto、UDP、RTP Over RTSPの3種類が選択可能。

RTSPストリーミングのポートで、デフォルト値は554です。

パス

メインストリームとサブストリームを取得するためのURLについては、ネットワークカメラの製造元にお問い合わせください。一般的な形式は `[Type]://[IP Address]:[Port]/[Resource Path]` です (例: `rtsp://192.168.0.1:554/ch1/main/av_stream`)。

Note

- プロトコル名と パス は、以下のブランド名をクリックすると自動的に生成されます
プロトコル名。
- カメラがサブストリームをサポートしていない場合、またはサブストリームを使用
する必要がない場合は、サブストリームを無効にすることができます。

5. [OK] をクリックします。

6. [System → Device Access] → [Device and Video Device] で [Add] をクリックして→ネッ
トワークカメラを手動で追加します。

6.1.6 カメラ設定ファイルによるネットワークカメラの追加

追加されたネットワークカメラの情報(IPアドレス、ポート、adminのパスワードなど)をエクスポートできます。また、エクスポートされたカメラ設定ファイルの内容は、コンピューターで編集できます。編集後、ファイルを他のデバイスにインポートして、ファイルにカメラを追加することもできます。

始める前に

ビデオレコーダーを、カメラ設定ファイルが含まれているUSBフラッシュドライブに接続します file
その中に。

ステップ

1. [システム] → [デバイス] → [アクセス] → [ビデオデバイス] に移動します。
2. [インポート] をクリックして、USBフラッシュドライブに設定ファイルをインポートします。
3. フォルダパスを設定します。
4. [確認] をクリックします。

6.2 アクセス制御デバイスの追加

アクセス制御デバイスをビデオレコーダーに追加でき
ます。追加プロセスは、アクセスビデオデバイスと
似ています。

6.3 オーディオデバイスを追加

ビデオレコーダーには、IPスピーカーやマイクなどのオーディオデバイスを追加できます。
追加プロセスは、アクセスビデオデバイスと似ています。ビデオチャンネルをIPスピー
カーとリンクすると、IPスピーカーを音声放送に使用できます。ビデオチャンネルをマイ
クにリンクすると、マイクはリンクされたビデオチャンネルのオーディオ入力としてビデ
オ録画に使用されます。

6.4 POSデバイスの追加

POSマシン/サーバーは、特定のデバイスモデルで接続できます。デバイスは、POSマシン/サーバーからトランザクションメッセージを受信し、ビデオ画像にトランザクションメッセージをオーバーレイし、POSイベントアラームをトリガーできます。

ステップ

1. [System → Device Access] → [Device and POS] → に移動します。
2. [追加] をクリックして、POS デバイスを追加します。

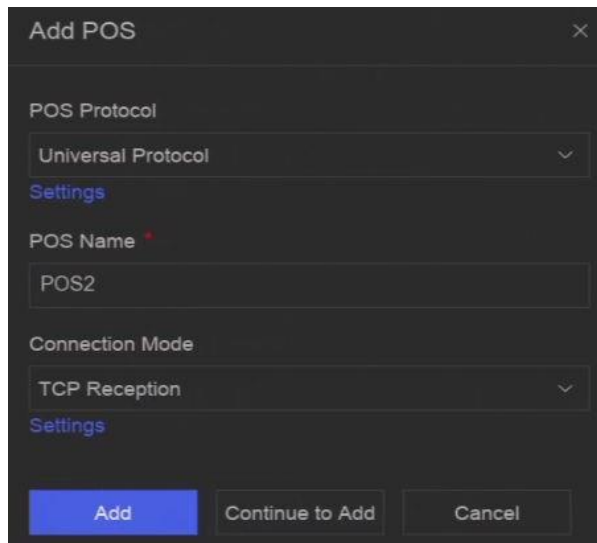


図 6-4 POS デバイスの追加

3. POS デバイス パラメータを設定します。

POSプロトコルユニ

バーサルプロトコル

POS オーバーレイ文字の開始行識別子、改行タグ、終了行タグ、および文字の大文字と小文字を区別するプロパティを設定できます。オプションで、フィルタリング識別子とXMLプロトコルを確認することもできます。

エプソン

固定の開始行タグと終了行タグは、EPSONプロトコルに使用されます。

アベニュー

固定の開始行タグと終了行タグは、AVEプロトコルに使用されます。シリアルポートと仮想シリアルポートの接続タイプがサポートされています。

核

固定の開始行タグと終了行タグは、AVEプロトコルに使用されます。シリアルポートと仮想シリアルポートの接続タイプがサポートされています。RS-232接続通信では、NUCLEUSプロトコルを使用する必要があります。

Network Video Recorder User Manual

接続モードTCP接続

TCP接続を使用する場合、ポートは1から65535まで設定する必要があり、各POSマシンのポートは一意である必要があります。

UDP接続

UDP 接続を使用する場合、ポートは1から65535まで設定する必要があり、各POSマシンのポートは一意である必要があります。

USB-RS-232接続

USB-to-RS-232コンバータポートのパラメータ(ポートのシリアル番号、ボーレート、データビット、ストップビット、パリティなど)を設定します。

RS-232接続

デバイスとPOSマシンをRS-232で接続します。

マルチキャスト接続

デバイスとPOSマシンをマルチキャストプロトコルで接続する場合は、マルチキャストアドレスとポートを設定してください。

スニフ接続

Sniffを介してデバイスとPOSマシンを接続します。送信元アドレスと宛先アドレスの設定を行います。

4. 「追加」をクリックします。



Note

POSデバイスを追加した後、[



操作]をクリックしてPOSテキストオーバーレイを設定できます。

6.5 チャネル管理

ビデオデバイスを追加すると、そのチャンネル番号とチャンネル名を表示したり、パラメータを管理したりできます。この機能は、主に複数のチャンネルを含むビデオデバイスに使用されます。

[システム] → [デバイスへのアクセス] → [チャンネル] に移動して、ビデオデバイスのチャンネルを管理します。

第7章 デバイスのグループ化

追加されたデバイスは、さまざまなカスタマイズされたグループに分類できます。

ステップ

1. [システム] → [デバイスへのアクセス] → [デバイスのグループ化] に移動します。

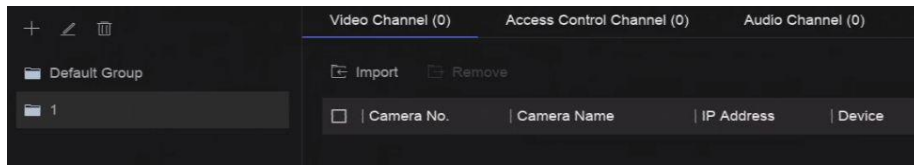


図 7-1 デバイスのグループ化

2. クリック をクリックしてグループを追加します。

Note

グループを追加したら、 をクリックして編集/削除します。

3. [インポート] をクリックして、選択したグループにチャンネルを追加します。

第8章 ビデオまたはオーディオデバイスの設定

プライバシーマスク、画像パラメータなど、追加されたビデオまたはオーディオデバイスを設定できます。

8.1 H.265 ストリーム アクセスの有効化

デバイスは、初期アクセスのためにIPカメラのH.265ストリーム(H.265ビデオ形式をサポート)に自動的に切り替えることができます。

ステップ

1. [システム] → [デバイス] → [アクセス] → [ビデオデバイス] に移動します。
2. [詳細(More)] → [H.265 への自動切り替え(Auto Switch to H.265)] をクリックします。
3. この機能を有効にします。
4. 「保存」をクリックします。

8.2 ディスプレイ設定の構成

OSD(オンスクリーンディスプレイ)、画像設定、露出設定、デイナイトスイッチ設定などを設定します。

[システム] → [デバイスアクセス] → [デバイス設定] → [デバイスパラメータ] → [ビデオデバイス] → [ディスプレイ設定] に移動します。カメラを選択し、必要に応じてパラメータを構成します。

OSD設定

カメラのOSD(オンスクリーンディスプレイ)設定(日付/時刻、カメラ名など)を構成します。

画像設定

ライブビューと録画効果の明るさ、コントラスト、彩度などの画像パラメータをカスタマイズします。

露光時間

カメラの露出時間を設定します(1/10000～1秒)。露出値が大きいほど、画像は明るくなります。

デイ/ナイトスイッチ

カメラは、周囲の照明条件に応じて、昼間、夜間、または自動切り替えモードに設定できます。

バックライト

カメラのワイドダイナミックレンジ(0～100)を設定します。周囲の照明と物体の明るさの差が大きい場合は、WDR値を設定する必要があります。

画像強化

最適化された画像のコントラスト強化。

8.3 ビデオパラメータの設定

ビデオパラメータは、ライブビュー画像と録画ファイルに影響します。

[システム] → [デバイスへのアクセス] → [デバイス設定] → [デバイスパラメータ] → [ビデオデバイス] → [ビデオパラメータ] に移動します。カメラを選択し、必要に応じてパラメーターを構成します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されたデータに影響を与えるプライマリストリームを指し、ビデオの品質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較すると、メインストリームは、より高い解像度とフレームレートで高品質のビデオを提供します。

サブストリーム

サブストリームは、メインストリームと並行して実行される 2 番目のコーデックです。これにより、直接録音の品質を犠牲にすることなく、発信インターネット帯域幅を減らすことができます。サブストリームは、多くの場合、ライブビデオを表示するためにスマートフォンアプリケーションでのみ使用されます。インターネット速度が限られているユーザーは、この設定から最も恩恵を受けることができます。

解決

画像の解像度は、デジタル画像がどれだけ詳細を保持できるかの尺度です。解像度が高いほど、詳細レベルが高くなります。解像度は、ピクセル列の数 (幅) とピクセル行の数 (高さ) で指定できます (例: 1024 × 768)。

ビットレートの種類

ビットレート (kbit/s または Mbit/s) は、しばしば速度と呼ばれますが、実際には距離/時間単位ではなく、ビット/時間単位の数を定義します。変数と定数の 2 種類があります。

フレームレート

これは、毎秒キャプチャされるフレームの数を指します。フレームレートが高いと、ビデオストリームに動きがある場合、全体を通して画質が維持されるため、有利です。

Iフレームインターバル

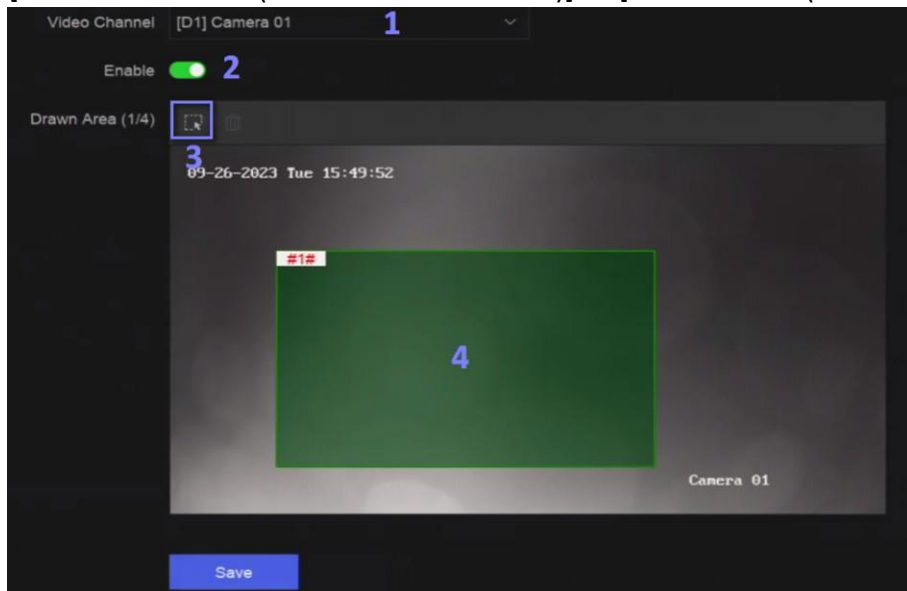
I-Frame はイントラピクチャーとも呼ばれ、I-Frame はすべての GOP (MPEG のビデオ圧縮技術) の最初のフレームです。圧縮後は画像として閲覧できます。I フレーム間隔は、2 つの連続する I フレーム間のフレーム量です。

8.4 プライバシーマスクの設定

プライバシーマスクは、画像の一部をライブビューから隠したり、マスクされた領域で録画したりすることで、個人のプライバシーを保護します。

ステップ

1. [System (システム)] → [Device Access (デバイスアクセス)] → [Device Configuration (デバイス設定)] → [Device Parameter (デバイスパラメータ)] → [Video Device (ビデオデバイス)] →



プライバシーマスク]に移動します。

図8-1 プライバシー・マスク

2. カメラを選択します。
3. [有効にする]をオンにします。
4. プレビューウィンドウにマスク領域を描画します。エリアは異なるフレーム色でマークされま

Note

す。

プライバシーマスクエリアは最大4つまで設定でき、各エリアのサイズを調整できます。

5. 「保存」をクリックします。

8.5 オーディオパラメータの設定

オーディオデバイスを追加した後、[System (システム)] → [Device Access (デバイスアクセス)] → [Device Configuration (デバイス設定)] → [Device Parameter (デバイスパラメータ)] → [Audio Device] でそのパラメータを設定できます。たとえば、IPスピーカーを追加した場合、その名前、オーディオ出力ボリューム、オーディオ品質を構成できます。

8.6 OTAPサービスの設定

OTAP(Open Thing Access Protocol)は、パブリックネットワークとプライベートネットワークにおけるHikVisionプロトコルの統一された統合標準およびプッシュプルモードです。OTAPを有効にすると、他のアプリケーションがこのプロトコルを使用してビデオをリモートで表示できるようになる場合があります。

始める前に

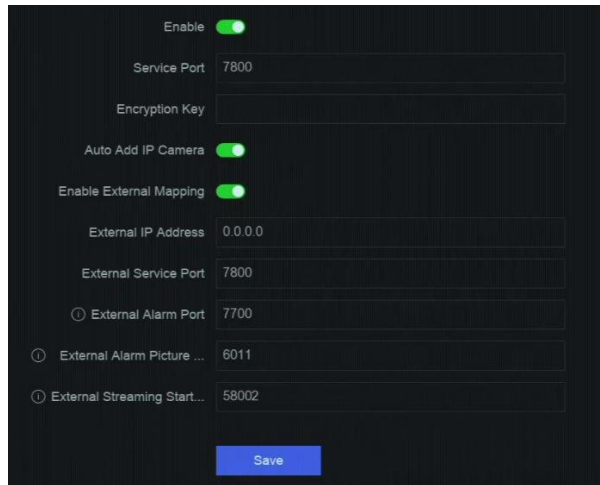
Network Video Recorder User Manual

デバイスのネットワークがOTAPプロトコルを介してアクセス可能であることを確認してください。

Network Video Recorder User Manual

ステップ

1. [System (システム)] → [Device Access (デバイスアクセス)] → [Device Configuration (デバイス設定)] →



[Access Service (アクセスサービス)] → [OTAP Service (OTAP サービス)] に移動します。

図8-2 OTAPサービスの構成

2. [有効にする] をオンにします。
3. パラメータを設定します。
4. 「保存」をクリックします。

8.7 バッチ構成

接続されたデバイスは、バッチで構成できます。

ステップ

1. [System → Device Access] → [Device Configuration] → [Batch Configuration] に移動します。

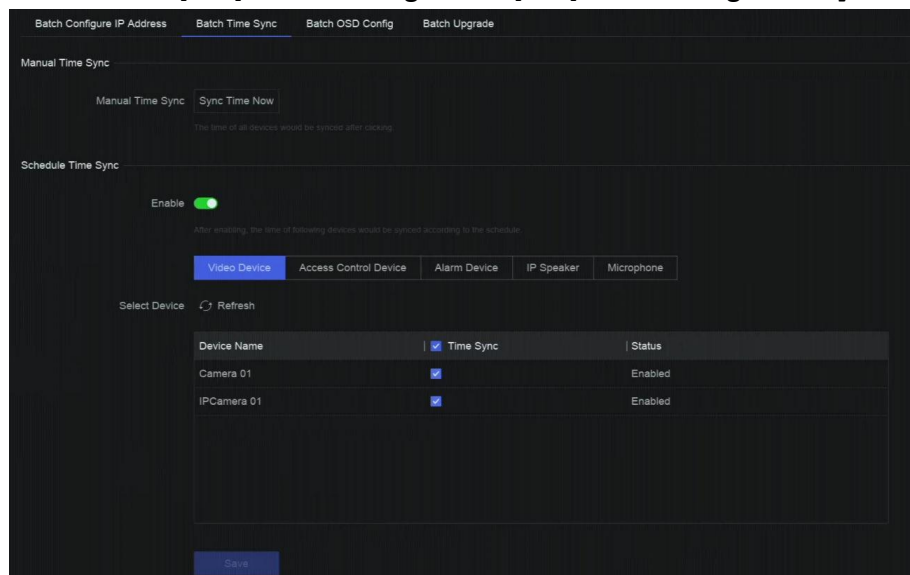


図8-3 バッチ構成

- 必要に応じて、IPアドレス、時刻同期、OSDを構成するか、ファームウェアをアップグレードします。

手動時刻同期

[Sync Time Now]をクリックして、接続されているすべてのデバイスの時刻を手動で同期します。この操作は一度だけです。

スケジュール時刻同期

レコーダーは、選択したデバイスの時刻を固定スケジュールに従って同期します。

- [IP アドレスの設定と時刻の同期] で、[保存] をクリックします。

8.8 PoE(Power over Ethernet)インターフェイスの設定

PoEインターフェースにより、デバイスは接続されたPoEデバイスに電力とデータを転送できます。また、PoEインターフェースはプラグアンドプレイ機能をサポートしています。接続可能なPoEデバイス番号は、デバイスのモデルによって異なります。PoEインターフェースを無効にすると、それを使用してオンラインデバイスに接続することもできません。

始める前に

NVRがPoE機能をサポートしていることを確認してください。

ステップ

- [System → Device Access] → [Device Configuration] → PoE に移動します。
- 要件に応じてPoEインターフェースのプラグアンドプレイ機能を有効にします。
- デバイスタイプとして カメラのIPスピーカーを選択します。
- PoEインターフェースを使用してPoEカメラを接続する場合は、ネットワークケーブルの接続距離を選択します。

長距離

PoEインターフェースを介した長距離(100～300メートル)ネットワーク伝送。

短距離

PoEインターフェースを介した短距離(<100メートル)ネットワーク伝送。

Note

- PoEインターフェースは、デフォルトで短距離モードで有効になっています。
- 長いネットワークケーブル(100～300メートル)を介してPoEに接続されたIPカメラの帯域幅は、6MPを超えることはできません。
- 許容される最大長ネットワークケーブルは、IPカメラのモデルやケーブルの材質によって300メートル未満になる場合があります。
- 伝送距離が100～250メートルに達すると、CAT5EまたはCAT6ネットワークケーブルを使用してPoEインターフェースに接続する必要があります。
- 伝送距離が250～300メートルに達すると、CAT6ネットワークケーブルを使用してPoEインターフェースに接続する必要があります。

- 「保存」をクリックします。

Network Video Recorder User Manual

次のタスク

PoEデバイスが接続されると、**view** 各PoEインターフェースのステータスと電力。

第9章 ストレージ管理

9.1 HDDの管理

新しく取り付けられたハードディスクドライブ(HDD)は、使用する前に初期化する必要があります。HDD管理インターフェースを通じて、HDDのフォーマット、データベースの修復、HDDステータスの表示を行うことができます。

始める前に

HDDがデバイスに正しく取り付けられていることを確認してください。

ステップ

1. [システム → ストレージ管理] → [ストレージHDD] → [ストレージ HDD] に移動します。

HDD No.	Free Space (GB)	Capacity (GB)	Status	Type	Property	Operation
1	165	466	Sleeping	Local	R/W	⊞
3	3688	3726	Sleeping	Local	R/W	⊞
5	3688	3726	Sleeping	Local	R/W	⊞

図9-1 HDDの管理

2. オプション: 必要に応じて、次の操作を実行します。

ネットワーク
HDDの追加

NAS または IP SAN を追加します。

形式

選択したHDDをフォーマットします。

修復デー
タベース

データベースを修復すると、すべてのデータベースが再構築されます。アップグレード後のシステム速度の向上に役立つ場合があります。

Note

- データベースを修復すると、すべてのデータベースが再構築されます。既存のデータは影響を受けませんが、プロセス中にローカル検索および再生機能は利用できなくなりますが、Webブラウザ、クライアントソフトウェアなどを介してリモートで検索および再生機能を実現できます。
- 処理中にドライブを引き抜いたり、デバイスをシャットダウンしたりしないでください。



HDDを取り外し/ロードします。

9.2 RAID 構成

ディスク・アレイは、複数の物理ディスク・ドライブを1つの論理ユニットに結合するデータ・ストレージ仮想化テクノロジーです。「RAID」とも呼ばれるアレイは、複数のHDDにデータを保存して、1つのディスクに障害が発生した場合にデータを回復できるように十分な冗長性を提供します。データは、「RAID レベル」と呼ばれるいくつかの方法のいずれかでドライブ全体に分散され、必要な冗長性とパフォーマンスに基づいています。

 **Caution**

RAID にはエンタープライズレベルの HDD が必要です。

このセクションの機能は、特定のモデルでのみ使用できます。同じモデルと容量の HDD を使用することをお勧めします。

RAID を作成するには 2 つの方法があります。ワンタッチ作成の場合、デフォルトの RAID タイプは RAID5 です。手動作成の場合、RAID0、RAID1、RAID5、RAID6、および RAID10 を構成できます。

表 9-1 各 RAID タイプの HDD 要件

RAIDタイプ	必要なHDDの数
RAID0	≥2
RAID1	2
RAID5	≥3
RAID6	≥4
RAID10	4 または 8

 **Note**

- この機能は、特定のモデルでのみ使用できます。

9.2.1 ディスク・アレイの作成

ディスクアレイは、アレイモードを有効にした後に作成できます。

始める前に

- 十分な数の HDD がデバイスに正しく取り付けられている。また、アレイ作成用の HDD は、エンタープライズレベルか確認してください

ステップ

- [システム] → [ストレージ管理] → [ストレージ HDD] → [アレイ管理] に移動します。
- (アレイモードを有効にする) をクリックするか、(アレイモード) を有効にします。

Network Video Recorder User Manual

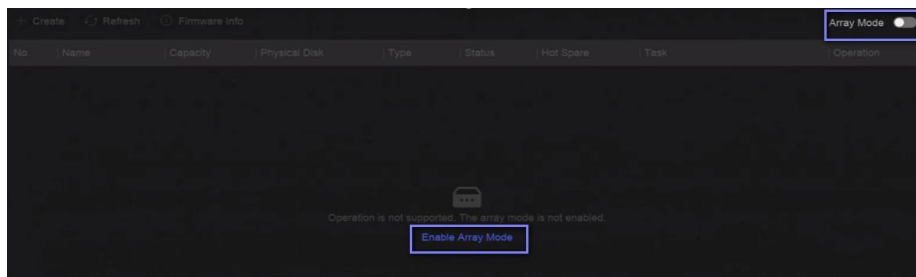


図 9-2 RAID の有効化

3. デバイスが再起動するのを待ちます。
4. [システム → ストレージ管理] → [ストレージ HDD] → [アレイ管理] に再度移動します。

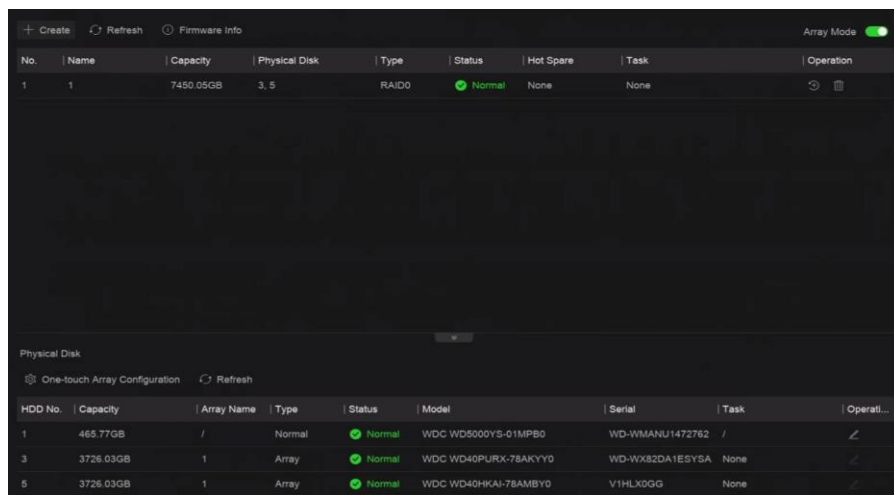


図 9-3 アレイ管理

5. 配列を作成します。

作成方法

ワンタッチア
レイ構成

内容

(ワンタッチアレイ設定)をクリックします。

Note

デフォルトでは、ワンタッチ構成によって作成されるアレイ・タイプは RAID 5 です。

手動作成

創造する をクリックして、RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 6、または RAID 10 アレイを手動で作成します。



9.2.2 アレイの再構築

アレイのステータスには、[Functional](機能)、[Degraded](劣化)、[Offline](オフライン)があります。アレイに格納されたデータの高いセキュリティと信頼性を確保するには、アレイのステータスに応じて、アレイの迅速かつ適切なメンテナンスを行ってください。


ステップ

1. [システム→ストレージ管理] → [ストレージ HDD] → [アレイ管理] に移動します。
2. アレイを再構築します。

表9-2 再構築方法

再構築方法	形容
自動再構築	<p>アレイにはホット・スペア・ディスクがあり、ホット・スペア・ディスクの容量は、アレイ内の最小容量のディスクより小さくない必要があります。  [Physical Disk](物理ディスク) の下の [Operation](操作) 列をクリックして、ホットスペアディスクを設定します。</p> <p>アレイ内のアレイ内の HDD が動作していない場合、ホットスペアディスクがアクティブになり、アレイが自動的に再構築されます。</p> <p> 手記</p> <p>自動再構築が完了したら、別のHDDを取り付け、ホットスペアディスクとして設定することをお勧めします。</p>
手動再構築	<p>アレイにホット・スペア・ディスクがない場合は、アレイを手動で再構築する必要があります。</p> <p>「System → Storage Management」 → 「Storage HDD」 → 「Array Management」の順に選択し、リビルドするホット・スペア・ディスクをリストから選択します。</p>

9.2.3 配列の削除

[システム → ストレージ管理] → (ストレージHDD)に移動し、選択したアレイを  クリックして削除します。

9.2.4 ファームウェア情報の表示

アレイのファームウェア情報を表示し、バックグラウンドタスクの速度を設定できます。

始める前に

ディスクアレイが有効になっていることを確認します。

Network Video Recorder User Manual

ステップ

1. [システム → ストレージ管理] → [ストレージ HDD] → [アレイ管理] に移動します。
2. [ファームウェア情報] をクリックします。
3. オプション: タスクの速度を戻します。

9.3 ストレージモードの設定

ステップ

1. [システム → ストレージ管理 → ストレージモード] に移動します。

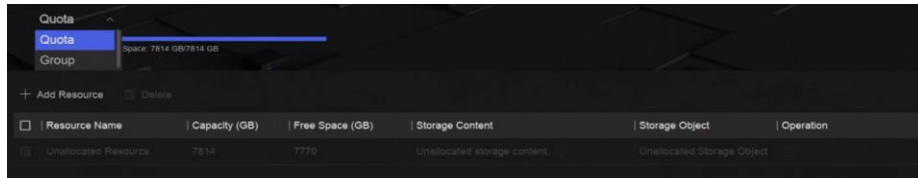


図9-4 ストレージ・モード

2. 「クォータ」または「グループ」を選択します。

クォータ

各カメラまたはオーディオデバイスには、ビデオ、画像、またはオーディオを保存するためのクォータが割り当てられています。

グループ

複数のHDDをグループで管理できます。指定したチャンネルの映像を、HDDの設定で特定のHDDグループに録画できます。

3. 対応するパラメータを設定します。




- ・ **クォータ**: ストレージオブジェクトに領域を割り当てます。
- ・ **グループ**: チャンネルをHDDグループにリンクします。

9.4 その他のストレージパラメータの設定

[(システム) → [(ストレージ管理)] → [(詳細設定)]] に移動します。


表9-3 パラメータの説明

パラメータ名	形容
HDDスリープ	HDDのモードを選択します。パフォーマンスモード、バランスモード、および省エネモードは選択可能です。
上書き	HDDがいっぱいになると、最も古いファイルを削除して新しいファイルの書き込みを続けます。
カメラのVCAデータを保存する	カメラのVCAデータをデバイスに保存すると、 Event Center で検索できるようになります。
ビデオあたりの最大長さ	これは、デバイスからビデオをエクスポートするときの各ビデオファイルの時間の長さです。
タグビデオポスト録画	動画にタグを追加した後、スケジュールされた時間より後に録画するように設定した時間です。

パラメータ名	形容
	 手記 <ul style="list-style-type: none"> ・  ライブビューまたは再生中にクリックしてタグを追加できます。 ・ タグ動画を検索するには、「 タグによるバックアップ →→」を参照してください。
eSATA	背面パネルにeSATAインターフェースを備えたデバイス用。
使用	eSATA の使用法を設定します。

9.5 Manage USBフラッシュドライブ

USBフラッシュドライブをデバイスに挿入した後、残りのストレージ容量を表示したり、コンテンツを管理したり、フォーマットしたりできます。

USBフラッシュドライブを初めてデバイスに接続すると、デバイスのアップグレードやバックアップなどの短い操作を実行できます。その間、右上隅に新しいアイコン  が表示されます。

第 10 章 スケジュール設定

デバイスはスケジュールに従ってファイルをディスクに保存します。

10.1 スケジュールテンプレートの設定

スケジュールテンプレートを構成したら、そのテンプレートを録画スケジュールとして使用できます。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [テンプレート構成] → [休日スケジュール] に移動します。
2. 「追加」をクリックします。

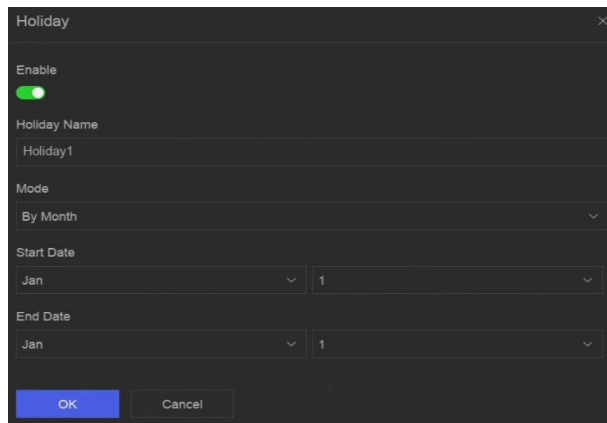


図10-1 休日の追加

3. [有効にする] をオンにします。
4. 休日を設定します。

Note

休日を設定した後は、休日のスケジュールを個別に設定できるようになります。休日のスケジュールは、通常のスケジュール(月曜日から日曜日)よりも優先度が高くなります。

5. ストレージスケジュールを設定します。
 - 一) [ストレージスケジュール] をクリックします。
 - 二) テンプレート名を選択します。

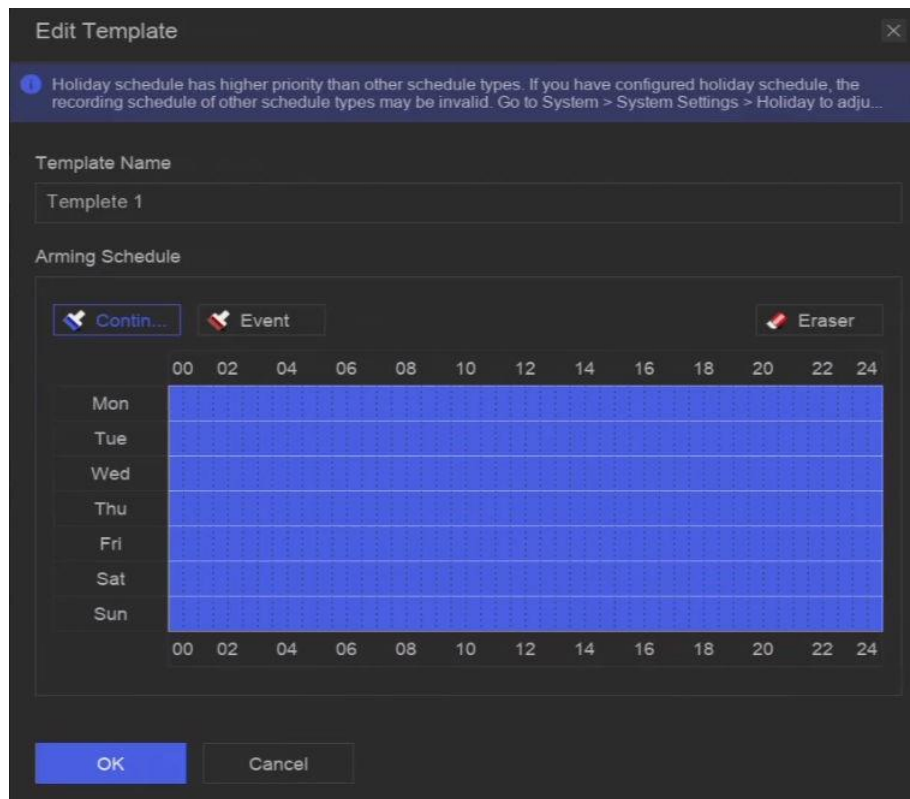



図10-2 テンプレートの編集

- 三) 録音タイプを選択します。たとえば、「イベント」のように入力します。
- 四) タイムバーにカーソルをドラッグして、スケジュールを描画します。

Note

- ・ タイムバーにカーソルを移動した後、クリックして **00:00-24:00**  指定したタイムスケジュールを設定することもできます。
- ・ [消しゴム]をクリックしてスケジュールをクリアできます。

Note

「テンプレートの構成」をクリックして、「System → Storage Management」でテンプレートを構成することもできます
→ 保存スケジュール → ビデオ録画/画像キャプチャ/オーディオ録音。

6. [OK]をクリックします。

10.2 録画スケジュールの設定

カメラは、設定された録画スケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

ステップ

1. [System → Storage Management] → [Storage Schedule → Video Recording]に移動します。

Network Video Recorder User Manual

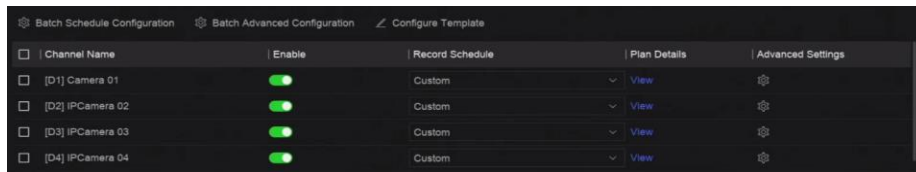


図 10-3 ビデオ録画の構成

2. カメラの [有効] をオンにします。
3. スケジュールの種類を選択します。

Note

[レコードスケジュール] を [カスタム] に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズしたレコードスケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動してクリックして **00:00-24:00** 指定したタイムスケジュールを設定できます。

4. [表示] をクリックしてスケジュールを表示します。




図10-4 表示スケジュール

5. オプション: 「詳細設定 」の下をクリックして、その他の詳細パラメーターを設定します。

表 10-1 拡張パラメータの説明

パラメーター	形容
オーディオの録音	オーディオ録音を有効または無効にします。

パラメーター	形容
	 手記 チャンネルにはオーディオ機能があるか、オーディオデバイスが接続されている必要があります。
ANR	ANR(Automatic Network Replenishment)は、ネットワークカメラのSDカードを自動的に有効にして、ネットワークが切断された状態でビデオを保存し、ネットワークが回復した後にデータを同期できます。
プレレコード	スケジュールされた時間またはイベントより前に記録するように設定した時間。たとえば、アラームによって録画が 10:00 にトリガーされ、事前録画時間を 5 秒 に設定すると、カメラは 9:59:55 に録画します。
ポストレコード	イベント後またはスケジュールされた時間の後に記録するように設定した時間。たとえば、アラームによってトリガーされた録音が 11:00 に終了し、録音後の時間を 5 秒 に設定すると、 11:00:05 まで録音されます。
ストリームタイプ	メインストリームの場合、通常、その解像度は高くなります。 Sub-Stream の場合、同じストレージスペースで長時間録音できますが、解像度は低くなります。 デュアルストリーム の場合、デバイスはメインストリームとサブストリームの両方を録音します。
ビデオ/画像の有効期限	期限切れの時間は、ファイルがHDDに保持される期間です。期限に達すると、ファイルは削除されます。有効期限を 0 に設定すると、ファイルは削除されません。ファイルの実際の保持時間は、HDDの容量によって決定する必要があります。

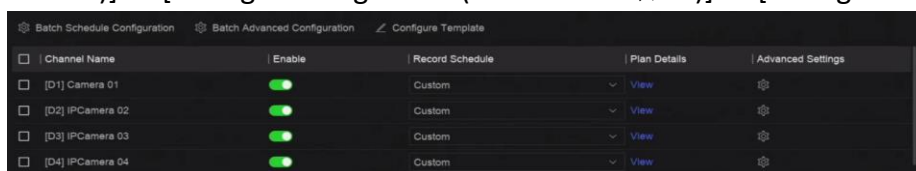
- オプション: リストからチャンネルを選択し、**バッチ・スケジュール構成**と**バッチ詳細**を使用します
チャンネルをバッチで構成するための設定。
- 「保存」をクリックします。

10.3 画像キャプチャスケジュールの設定

デバイスは、スケジュールに従ってライブ画像を自動的にキャプチャします。

ステップ

- [System (システム)] → [Storage Management (ストレージ管理)] → [Storage Schedule (ストレージスケ



ジュール]] → [Picture Capture (画像キャプチャ)] に移動します。

図10-5 画像キャプチャの構成

Network Video Recorder User Manual

2. カメラの [有効] をオンにします。
3. スケジュールの種類を選択します。

Note

[レコードスケジュール]を[カスタム]に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズしたレコードスケジュールを設定するか、カーソルをタイム

バーに移動してクリックして **00:00-24:00** 指定したタイムスケジュールを設定できます。

4. [表示] をクリックしてスケジュールを表示します。



図10-6 表示スケジュール

5. 「詳細設定」の下をクリックして、詳細な画像パラメータを設定します。

表10-2 拡張パラメータの説明

パラメーター	形容
キャプチャ遅延	画像キャプチャの期間。
解決	キャプチャする画像の解像度を設定します。
画質	画質を低、中、高に設定します。高画質には、より多くのストレージスペースが必要です。
間	各ライブ画像をキャプチャする時間間隔。

6. オプション: リスト内のチャンネルを選択し、「バッチ・スケジュール構成」および「バッチ拡張設定」を使用して、バッチ内のチャンネルを構成します。
 7. 「保存」をクリックします。


10.4 オーディオ録音の設定

デバイスは、設定された録音スケジュールに従ってオーディオを自動的に録音します。

ステップ

1. [System → Storage Management] → [Storage Schedule → Audio Recording] に移動します。
2. チャンネルの [有効にする] をオンにします。
3. スケジュールの種類を選択します。

Note

[レコードスケジュール] を [カスタム] に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズしたレコードスケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動してクリックして  指定したタイムスケジュールを設定できます。

4. [表示] をクリックしてスケジュールを表示します。
5. オプション: 「詳細設定」の下をクリックして、その他の詳細パラメーターを設定します。

表10-3 拡張パラメーターの説明

パラメーター	形容
プレレコード	スケジュールされた時間またはイベントより前に記録するように設定した時間。たとえば、アラームによって録音が 10:00 にトリガーされ、事前録音時間を 5 秒に設定すると、チャンネルは 9:59:55 に録音されます。
ポストレコード	イベント後またはスケジュールされた時間の後に記録するように設定した時間。たとえば、アラームによってトリガーされた録音が 11:00 に終了し、録音後の時間を 5 秒に設定すると、11:00:05 まで録音されます。





6. オプション: リスト内のチャンネルを選択し、「バッチ・スケジュール構成」および「バッチ拡張設定」を使用して、バッチ内のチャンネルを構成します。
7. 「保存」をクリックします。

第11章 ライブビュー

10.1.1 ライブビューレイアウトの設定

ライブビューは、各カメラのビデオ画像をリアルタイムで表示します。

ステップ

1. ライブビューに移動します。
2. 右下隅の  をクリックします。
3. ウィンドウ分割タイプを選択するか、[カスタム]をクリックして、必要に応じて新しいタイプをカスタマイズします。
4. カーソルを [ビューのデフォルトビュー] に移動します。
5. [表示 ] の右側にある  をクリックします。
6. 手順の説明に従って、ライブビュー画像出力インターフェイスを調整します。ユーザーインターフェイスに記載されている2つの方法に加えて、1つのウィンドウから別のウィンドウにチャンネルをドラッグできます。
7.  をクリックします。

10.1.2 GUIの紹介

ライブ画像の表示、ライブオーディオの再生、写真のキャプチャ、インスタント再生などを行うことができます。

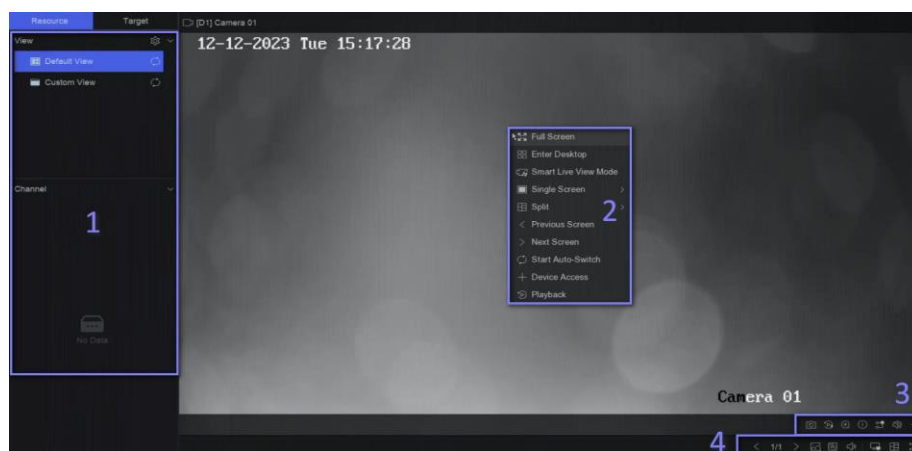


図11-1 ライブ・ビュー(タイプ1)

Network Video Recorder User Manual

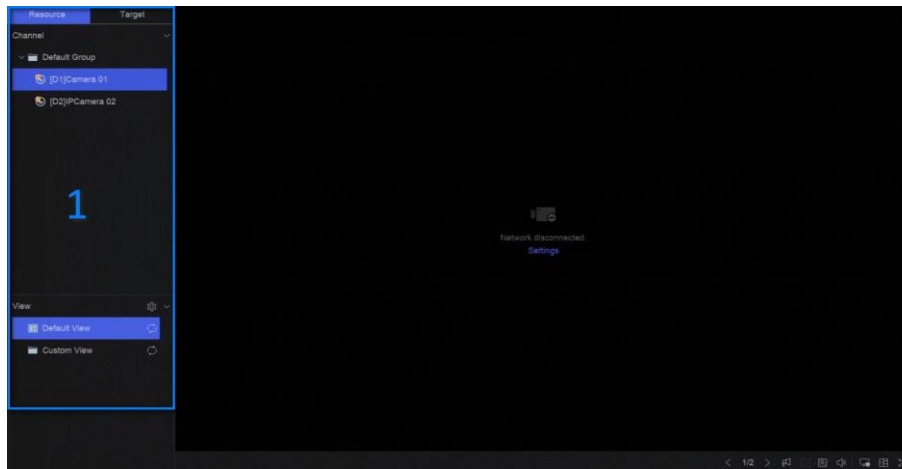


図 11-2 ライブビュー (タイプ
2) 表 11-1 インターフェイス
の説明

NO	形容
1	チャンネルリスト、PTZコントロールパネル、ターゲット検出リスト。チャンネルリストからチャンネルを選択すると、デバイスは対応するウィンドウにリダイレクトされます。
2	ショートカットメニューを右クリックします。画像領域上でカーソルを右クリックすると表示されます。
3	チャンネルツールバー。 <ul style="list-style-type: none"> • クリックして タグを追加し、チャンネルに移動します。追加後、 → Backup → By Tag に移動して、タグでビデオを検索できます。 • 「 Show VCA Info」 → を選択して、ルールを表示できます フレーム。
4	ライブビューツールバー。ここでは、音声放送、VCA情報の表示、スイッチ出力などの機能を実行できます。

Note

チャンネル画像表示の例外が発生した場合、対応するウィンドウにエラーメッセージが表示され、テキスト(青色)を直接クリックしてデバイス設定を編集できます。

10.1.3 PTZ制御





PTZは、Pan(パン)、Tilt(チルト)、Zoom(ズーム)の頭文字をとったものです。PTZカメラをデ

Network Video Recorder User Manual

バイスに追加すると、デバイスは左右にパンしたり、上下に傾けたり、ズームインとズームアウトしたりできます。

PTZカメラを選択し、左下隅にあるPTZコントロールメニューを使用します。

表11-2 PTZの操作

タスク	形容	操作
プリセット	プリセットは、PTZの位置とズーム、フォーカス、アイリスなどのステータスを記録します。プリセットを呼び出すと、カメラを事前定義された位置にすばやく移動できます。	プリセットを設定します。 一. プリセットを選択します。 二. 方向ボタンを使用して画像を調整します。 三.  をクリックします。
		プリセットを呼び出す:
パトロール	パトロールは、PTZを重要なポイントに移動し、次の重要なポイントに移動する前に設定された時間そこに留まるように設定できます。ポイントはプリセットに対応しています。	パトロールを設定します。 一. パトロールを選択します。 二.  をクリックします。 三. パトロールのプリセットを追加します。 四. [OK] をクリックします。
		パトロールを要請する: ツールバーの
パターン	PTZの動きを記録することでパターンを設定することができます。パターンを呼び出して、事前定義されたパスに従ってPTZを移動させることができます。	パターンを設定します。 一.  をクリックします。 二. 方向ボタンを使用して画像を調整すると、デバイスは動きを記録します。 三. 録音を停止します。
		パターンを呼び出す: 

 **Note**

PTZパネルが使用できない場合は、クリックして  設定を確認してください。

第12章 再生






12.1.1 GUIの紹介









ビデオまたはオーディオファイルを再生できます。



図 12-1 再生テーブル

12-1 インターフェイスの説明

No	形容
1	再生タイプを選択するための領域。
2	チャンネルリスト。
3	時間選択用のカレンダー。
4	<p>チャンネルツールバー。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クリックして  タグを追加し、チャンネルに移動します。追加後、 → Backup → By Tag に移動して、タグでビデオを検索できます。 • クリック  すると、動画がロックされます。動画がロックされると、次のようになります 上書きされません。ロック後、 → Backup → By Tag に移動して、ロックでビデオを検索できます。 • 「Dual-VCA →  」を選択して、対応するイベント・ルールをトリガーできるビデオを検索します。各イベントタイプの詳細については、イベント設定手順を参照してください。

No	形容
	<p> 手記</p> <p>この機能を使用するには、Screamの[Configuration → Device Access → Device Configuration]→[Device Parameter]→[Display Info.]に移動して、Webブラウザで Dual-VCAを有効にするをオンにし、[System → Storage Management]→[Advanced Settings]に移動して、ローカルGUIインターフェイスを介してカメラVCAデータの保存をオンにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「VCA情報の表示」→を選択して、ルール・フレームを表示できます。
5	<p>再生タイムライン。</p> <ul style="list-style-type: none"> カーソルをタイムラインに置き、タイムラインをドラッグして特定の時間に配置します。 青いバーでマークされた期間には、ビデオが含まれています。赤いバーは、期間内のビデオがイベントビデオであることを示します。 上下にスクロールしてタイムラインをズームアウト/ズームインします。
6	<p>再生ツールバー。</p> <ul style="list-style-type: none"> /をクリックすると  、人間/車両を含むビデオが表示されます。 <p> 手記</p> <p>この機能を使用するには、特定のイベントタイプで検出ターゲットを[人]または[車両]に設定していることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> クリック  すると、通常のビデオとスマートビデオ(スマートデータを含むビデオ)の再生方法を設定できます。 クリック  すると、対応するイベントをトリガーできるビデオが検索されます。操作はDual-VCA機能と同様です。 クリック  すると、AcuSearch機能を実行できます。言い及ぶ <i>詳細については、AcuSearchを参照してください。</i>

12.1.2 通常再生

チャンネルの動画を再生します。特定のデバイスでは、複数のチャンネルで同期再生が許可される場合があります。

Network Video Recorder User Manual

ステップ

1. 再生→に移動します.
2. 左側のリストからチャンネルを選択します。



Note

グループ再生: リストでグループを選択すると、グループ内のチャンネルを再生できます。

3. カレンダーで日付を選択します。

Note

カレンダーの日付の隅にある青い三角形は、利用可能なビデオがあることを示しています。

4. **オプション:** 人間または車両のターゲットを含む動画を再生します。
 - : 人間が写っている動画は赤でマークされます。
 - : 車両を含む動画は赤でマークされます。


12.1.3 イベントの再生

イベント再生モードを選択すると、モーション検出、交差検出、または侵入検出情報を含むビデオが分析され、マークされます

始める前に



- カメラが**Dual-VCA**を有効にしていることを確認します。カメラのWebブラウザインターフェースから有効にできます **webストリームの設定→ビデオ/オーディオ→ディスプレイ情報**。
- ビデオレコーダーが**[ストレージ管理]→[詳細設定]**で**[カメラVCAデータの保存]**が有効になっていることを確認します。

ステップ

1. 「再生→」を選択します.
2. カレンダーで日付を選択します。

Note

カレンダーの日付の隅にある青い三角形は、利用可能なビデオがあることを示しています。

3. クリック  → **デュアルVCA** をクリックして、再生画像の右下隅にあるイベントタイプを選択します。各イベントタイプの詳細については、イベント設定手順を参照してください。
4. **[検索]** をクリックします。
検出ルールの要件を満たす動画は、赤でマークされます。
5. クリック  すると、通常のビデオとスマートビデオ(スマートデータを含むビデオ)の再生方法を設定できます。



Note

Dual-VCA を使用しない場合、進行状況バーの赤いセグメントは、スマートビデオが元のイベントによって生成されたことを意味します。

12.1.4 スライス再生

ビデオをスライスに分割して再生します。


ステップ

1. 再生→に移動します.
2. カメラリストからカメラを選択します。
3. カレンダーで日付を選択します。
4. [検索] をクリックします。
取得したビデオは、再生用に1時間のスライスに分割されます。
5. オプション: 1時間のスライスを選択し、クリックして 1分のスライスに分割して再生します。

12.1.5 サブピリオド再生

ビデオファイルは、画面上で複数のサブ期間で同時に再生できます。

ステップ

1. 再生→に移動します.
2. カメラを選択します。
3. 開始時刻と終了時刻を設定します。
4. [検索] をクリックします。

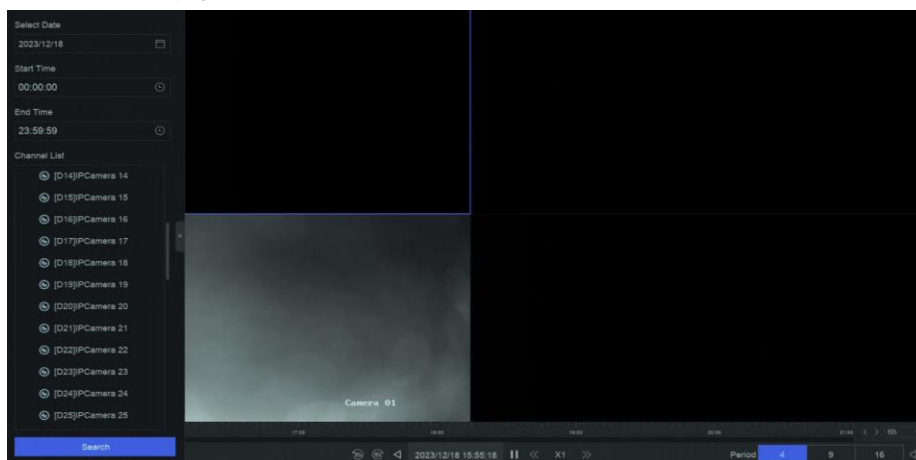


図12-2 サブピリオドの再生

5. 右下隅のピリオドを選択します(例:4)。

Note

定義された分割画面の数に応じて、選択した日付のビデオファイルを平均セグメントに分割して再生できます。例えば、16:00から22:00の間にビデオファイルが存在する場合、6画面表示モードが選択されている場合、各画面で同時に1時間のビデオファイルを再生できます。

第13章 イベントセンター

13.1 イベント設定

13.1.1 基本/汎用イベント

ステップ


1. [Event Center] → [→ Event Configuration] → [Basic Event] / [Generic Event - 2. チャンネルを選択します。
- 3. イベントの種類を選択します。
- 4. [有効にする] をオンにします。
- 5. [ルール設定] をクリックして、ルールを設定します。

表13-1 通常イベント

イベント名	イベント内容	ルール設定	
モーション検出	モーション検出は、監視対象エリア内の移動物体を検出します。	<p>画像の上部にあるツールバーを使用して、検出領域を描画します。</p> <p>NVRによるAI</p> <p>モーション検出イベントはNVRによって分析されます。このデバイスは、人間と車両を含むビデオを分析できます。選択したタイプ(人間または車両)のターゲットのみがアラームをトリガーし、他のオブジェクトによって引き起こされる誤警報を減らすことができます。</p> <p>カメラによるAI</p> <p>モーション検出イベントはカメラによって分析されます。</p> <p>検出対象</p>	<p>感度を使用すると、動きがアラームをトリガーするのをどれだけ簡単に調整できるかを調整できます。値が高いほど、モーション検出をトリガーしやすくなります。</p>

Network Video Recorder User Manual


		人と 車両 選択可能、離れて	
--	--	-------------------	--

Network Video Recorder User Manual

イベント名	イベント内容	ルール設定	
		誤報からは、選択したターゲットのみがアラームをトリガーできます。	
ビデオ改ざん検出	ビデオの改ざん検出は、カメラのレンズが覆われているときにアラームをトリガーし、アラーム応答アクションを実行します。	画像の上部にあるツールバーを使用して、検出領域を描画します。	
ビデオ損失検出	ビデオ損失検出は、チャンネルのビデオ損失を検出し、アラーム応答アクションを実行します。	-	
オーディオ例外検出	オーディオ例外検出は、音の強度の急激な増減など、シーン内の異常な音を検出します。	-	
ピンぼけ検出	レンズのピンぼけによる画像のブレを検出できます。	-	
突然のシーンチェンジ検出	シーン変更検出は、カメラの意図的な回転などの外部要因の影響を受けるビデオセキュリティ環境の変化を検出します。	-	


6. 「**Arming Schedule**」 をクリックして、Arming Scheduleのタイプを選択します。

Note

[準備スケジュール] を [カスタム] に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズした準備スケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動してクリックして  指定したタイムスケジュールを設定できます。

7. [リンク方法] をクリックして、リンク方法を設定します。

表13-2 リンケージ方式の説明

リンケージ方式	形容
Surveillance Centerに通知	デバイスは、イベントが発生したときに、例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(iVMS-4200、iVMS-5200など)がインストールされたPCを指します。
アラームポップアップウィンドウ	アラームがトリガーされると、ローカルモニタにアラームのポップアップウィンドウが表示されます。
ブザー	アラームが検出されると、ブザーからビープ音が鳴ります。
メールを送る	アラームが検出されると、システムはアラーム情報を記載した電子メールをユーザーに送信できます。
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム入力、モーション検出、ビデオ改ざん検出、顔検出、ライン交差検出、およびその他すべてのイベントによってトリガーできます。
記録	<p>アラームが検出されると、選択したチャンネルがビデオを録画します。</p> <p> 手記</p> <p>チャンネルのビデオ録画スケジュールが有効になっている必要があります。そうでない場合は、このリンクは無効になります。[System → Storage Management] → [Storage Schedule] → [Video Recording] に移動して、ビデオ録画スケジュールを設定できます。</p>

8. 「保存」をクリックします。

13.1.2 周辺保護

境界保護イベントには、ライン交差検出、侵入検出、領域入口検出、および領域出口検出が含まれます。

ラインクロッシング検出の設定

ライン交差検出は、設定された仮想ラインを横切る人、車両、および物体を検出します。検出方向は、左から右、または右から左の双方向に設定できます。

始める前に

お使いのデバイスが**NVR機能によるAI**をサポートしており、対応する機能が必要な場合は、**システム→スマート設定→アルゴリズム構成→アルゴリズム管理**に移動して、境界保護アルゴリズムを有効にしてください。

ステップ

Note

次の手順の一部は、特定のNVRまたはカメラモデルでのみ使用できます。

1. [Event Center] → [Event Configuration] → [Perimeter Protection²⁰¹] → に移動します。
2. カメラを選択します。
3. オプション: 「NVRによるAIを有効にする」をオンにします。
デバイスはビデオを分析し、カメラはビデオストリームのみを送信します。
4. [ラインクロッシング]を選択します。
5. [有効にする]をオンにします。

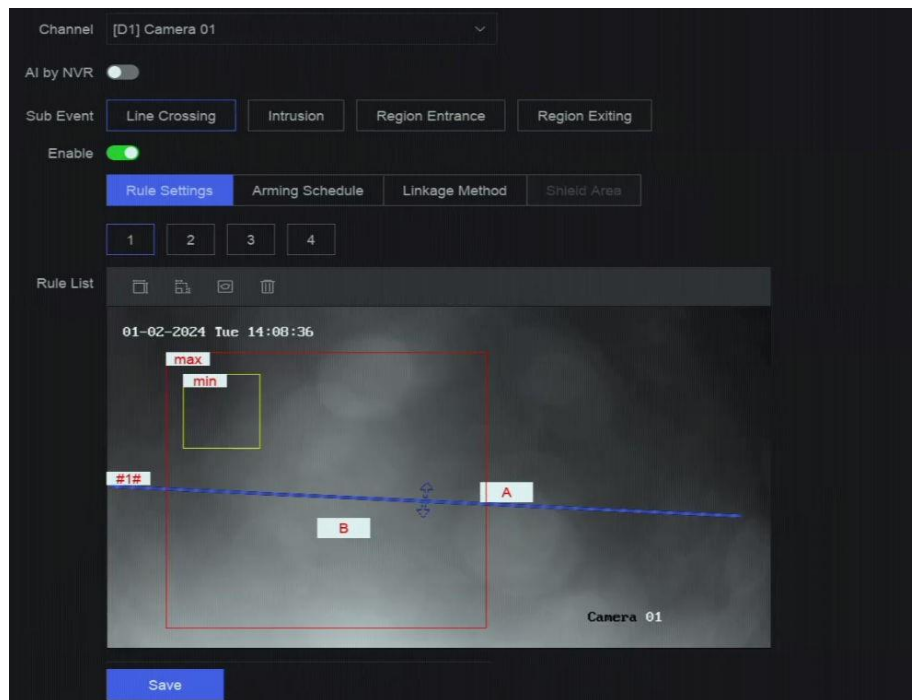



図13-1 ラインクロッシング検出

6. [ルール設定] をクリックして検出ルールに移動します。
 - 一) ルール番号を選択します。たとえば、**1** を選択します。
 - 二)  をクリックし、画像をそれぞれ2回クリックして、検出ラインの始点と終点を描画します。
 - 三) 方向、感度、検出対象を設定します。

A<->B

B面の矢印のみが表示されています。物体が設定されたラインを両方向で横切ると、検出され、アラームがトリガーされます。

A->B

A側からB側に設定されたラインを横切る物体のみを検出できます。

B->A

Network Video Recorder User Manual

設定されたラインをB側からA側に交差する物体のみを検出できます。

感度

値が大きいほど、検出アラームを簡単にトリガーできます。

検出対象


[検出対象] を [人間] または [車両] として選択し、人間または車両によってトリガーされていないアラームを破棄します。検出ターゲットは、特定のモデルでのみ使用できます。

四) オプション: [] をクリックして []、[最大サイズ] または [最小サイズ] を描画します。サイズ要件を満たすターゲットのみがアラームをトリガーできます。

五) オプション: 上記の手順を繰り返して、さらにルールを描画します。最大4つのルールがサポートです。

7. 「Arming Schedule」 をクリックして、Arming Scheduleのタイプを選択します。

Note


[準備スケジュール] を [カスタム] に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズした準備スケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動してクリックして  指定したタイムスケジュールを設定できます。

8. [リンク方法] をクリックして、リンク方法を設定します。

表13-3 リンケージ方式の説明

リンケージ方式	形容
Surveillance Centerに通知	デバイスは、イベントが発生したときに、例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(iVMS-4200、iVMS-5200など)がインストールされたPCを指します。
アラームポップアップウィンドウ	アラームがトリガーされると、ローカルモニタにアラームのポップアップウィンドウが表示されます。
ブザー	アラームが検出されると、ブザーからビープ音が鳴ります。
メールを送る	アラームが検出されると、システムはアラーム情報を記載した電子メールをユーザーに送信できます。
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム入力、モーション検出、ビデオ改ざん検出、顔検出、ライン交差検出、およびその他すべてのイベントによってトリガーできます。

Network Video Recorder User Manual

記録	<p>アラームが検出されると、選択したチャンネルがビデオを録画します。</p> <p> 手記</p> <p>チャンネルのビデオ録画スケジュールが有効になっている必要があります。そうでない場合は、このリンクは無効になります。[System → Storage Management] → [Storage Schedule] → [Video Recording] に移動して、ビデオ録画スケジュールを設定できます。</p>
----	--

9. オプション: AI by NVR が有効になっている場合にシールド領域を設定します。シールドエリアが設定された後、デバイスはエリア内のターゲットの動作を分析しないため、エリア内で境界保護イベントがトリガーされることはありません。
10. 「保存」をクリックします。

次のタスク

ライブビューに移動し、[ターゲット]をクリックして、リアルタイムのアラームを表示できます。

侵入検知の設定

侵入検知機能は、事前に定義された仮想領域に侵入およびうろつく人、車両、またはその他の物体を検出します。アラームがトリガーされたときに、特定のアクションを実行できます。


始める前に

お使いのデバイスがNVR機能によるAIをサポートしており、対応する機能が必要な場合は、システム→スマート設定→アルゴリズム構成→アルゴリズム管理に移動して、境界保護アルゴリズムを有効にしてください。

ステップ



次の手順の一部は、特定のNVRまたはカメラモデルでのみ使用できます。

1. [Event Center] → [Event Configuration] → [Perimeter Protection - 2. カメラを選択します。
- 3. オプション: 「NVR による AI を有効にする」をオンにします。
デバイスはビデオを分析し、カメラはビデオストリームのみを送信します。
- 4. [侵入] を選択します。
- 5. [有効にする] をオンにします。

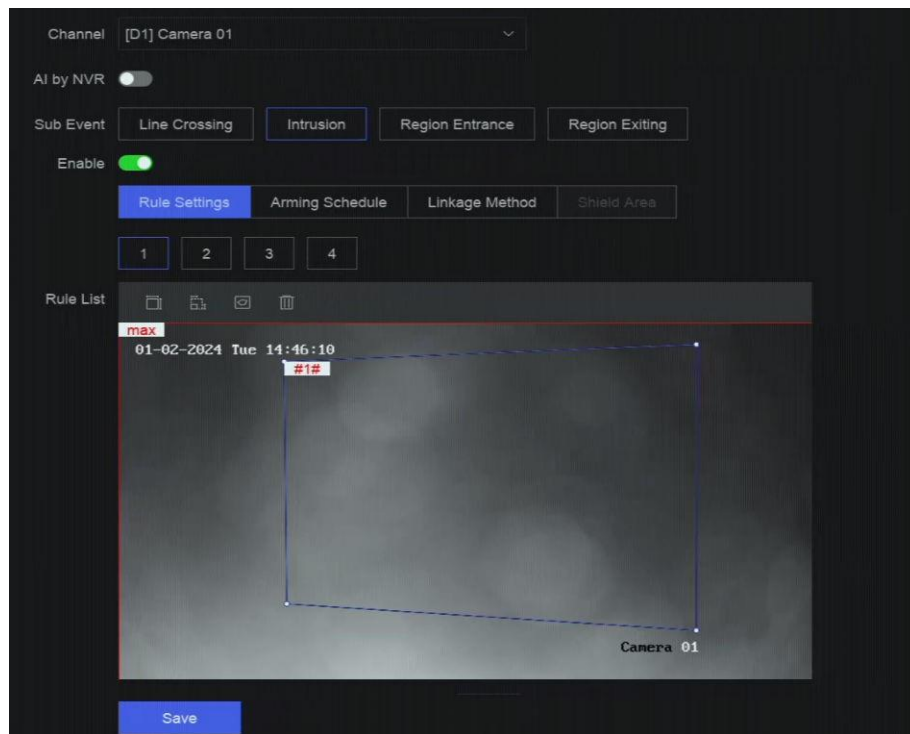



図 13-2 侵入検出

6. [ルール設定] をクリックして検出ルールに移動します。

一) ルール番号を選択します。たとえば、**1** を選択します。

二) をクリックし 、画像をそれぞれ4回クリックして、四辺形領域の各点を描画します。

三) 時間しきい値、感度、および検出ターゲット

を設定します。時間しきい値



オブジェクトがその領域内をうろついている時間。定義された検出エリア内の物体の持続時間がしきい値を超えると、デバイスはアラームをトリガーします。

感度

値が大きいくほど、検出アラームを簡単にトリガーできます。

検出対象

[検出対象] を [人間] または [車両] として選択し、人間または車両によってトリガーされていないアラームを破棄します。検出ターゲットは、特定のモデルでのみ使用できます。


四) オプション:  をクリックして 、[最大サイズ] または [最小サイズ] を描画します。サイズ要件を満たすターゲットのみがアラームをトリガーできます。

五) オプション: 上記の手順を繰り返して、さらにルールを描画します。最大 4 つのルールがサポートです。

7. 「Arming Schedule」 をクリックして、Arming Schedule のタイプを選択します。


 **Note**

[準備スケジュール] を [カスタム] に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズした準備スケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動し

てクリックして  指定したタイムスケジュールを設定できます。

8. [リンク方法] をクリックして、リンク方法を設定します。

表13-4 リンケージ方式の説明

リンケージ方式	形容
Surveillance Centerに通知	デバイスは、イベントが発生したときに、例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(iVMS-4200、iVMS-5200など)がインストールされたPCを指します。
アラームポップアップウィンドウ	アラームがトリガーされると、ローカルモニタにアラームのポップアップウィンドウが表示されます。
ブザー	アラームが検出されると、ブザーからビーブ音が鳴ります。
メールを送る	アラームが検出されると、システムはアラーム情報を記載した電子メールをユーザーに送信できます。
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム入力、モーション検出、ビデオ改ざん検出、顔検出、ライン交差検出、およびその他すべてのイベントによってトリガーできます。
記録	アラームが検出されると、選択したチャンネルがビデオを録画します。  手記 チャンネルのビデオ録画スケジュールが有効になっている必要があります。そうでない場合は、このリンクは無効になります。 [System → Storage Management] → [Storage Schedule] → [Video Recording] に移動して、ビデオ録画スケジュールを設定できます。

9. オプション: AI by NVR が有効になっている場合にシールド領域を設定します。シールドエリアが設定された後、デバイスはエリア内のターゲットの動作を分析しないため、エリア内で境界保護イベントがトリガーされることはありません。

10. 「保存」 をクリックします。

次のタスク

ライブビューに移動し、[ターゲット] をクリックして、リアルタイムのアラームを表示できます。

領域入口検出の設定

領域入口検出は、事前定義された仮想領域に入るオブジェクトを検出します。


始める前に

お使いのデバイスが**NVR機能によるAI**をサポートしており、対応する機能が必要な場合は、**システム→スマート設定→アルゴリズム構成→アルゴリズム管理**に移動して、**境界保護アルゴリズム**を有効にしてください。

ステップ

Note

次の手順の一部は、特定のNVRまたはカメラモデルでのみ使用できます。

1. [Event Center] → [Event Configuration] → [Perimeter Protection ] → に移動します。
2. カメラを選択します。
3. オプション: 「NVR による AI を有効にする」をオンにします。
デバイスはビデオを分析し、カメラはビデオストリームのみを送信します。
4. [リージョンエントランス]を選択します。
5. [有効にする]をオンにします。

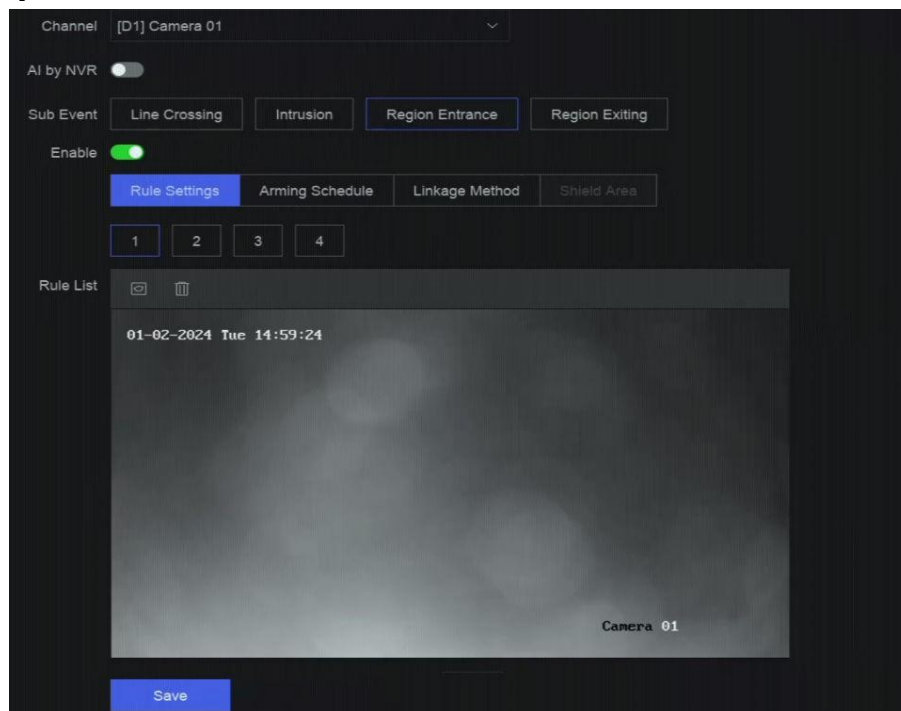



図13-3 リージョン入口検出

6. [ルール設定] をクリックして検出ルールに移動します。
 - 一) ルール番号を選択します。たとえば、**1** を選択します。
 - 二)  をクリックし、画像をそれぞれ4回クリックして、四辺形領域の各点を描画します。
 - 三) 感度と検出対象を設定します。
感度
値が大きいくほど、検出アラームを簡単にトリガーできます。


検出対象

[検出対象] を [人間] または [車両] として選択し、人間または車両によってトリガーされていないアラームを破棄します。検出ターゲットは、特定のモデルでのみ使用できます。

四) オプション: 上記の手順を繰り返して、さらにルールを描画します。最大 4 つのルールがサポートです。


7. 「Arming Schedule」をクリックして、Arming Scheduleのタイプを選択します。

Note

[準備スケジュール] を [カスタム] に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズした準備スケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動してクリックして **00:00-24:00**  指定したタイムスケジュールを設定できます。

8. [リンク方法]をクリックして、リンク方法を設定します。

表13-5 リンケージ方式の説明

リンケージ方式	形容
Surveillance Centerに通知	デバイスは、イベントが発生したときに、例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(iVMS-4200、iVMS-5200など)がインストールされたPCを指します。
アラームポップアップウィンドウ	アラームがトリガーされると、ローカルモニタにアラームのポップアップウィンドウが表示されます。
ブザー	アラームが検出されると、ブザーからビープ音が鳴ります。
メールを送る	アラームが検出されると、システムはアラーム情報を記載した電子メールをユーザーに送信できます。
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム入力、モーション検出、ビデオ改ざん検出、顔検出、ライン交差検出、およびその他すべてのイベントによってトリガーできます。
記録	アラームが検出されると、選択したチャンネルがビデオを録画します。  手記 チャンネルのビデオ録画スケジュールが有効になっている必要があります。そうでない場合は、このリンクは無効になります。 [System → Storage Management] → [Storage Schedule] → [Video Recording] に移動して、ビデオ録画スケジュールを設定できます。

9. オプション: AI by NVR が有効になっている場合にシールド領域を設定します。シールドエリアが設定された後、デバイスはエリア内のターゲットの動作を分析しないため、エリア内で境界保護イベントがトリガーされることはありません。

10. 「保存」をクリックします。

次のタスク

Network Video Recorder User Manual

ライブビューに移動し、[ターゲット]をクリックして、リアルタイムのアラームを表示できます。

領域終了検出の設定

領域からの退出検出は、事前定義された仮想領域から出るオブジェクトを検出します。


始める前に

お使いのデバイスが**NVR機能によるAI**をサポートしており、対応する機能が必要な場合は、**システム→スマート設定→アルゴリズム構成→アルゴリズム管理**に移動して、**境界保護アルゴリズム**を有効にしてください。

ステップ

Note

次の手順の一部は、特定のNVRまたはカメラモデルでのみ使用できます。

1. [Event Center] → [Event Configuration] → [Perimeter Protection ] → に移動します。
2. カメラを選択します。
3. オプション: 「NVR による AI を有効にする」をオンにします。
デバイスはビデオを分析し、カメラはビデオストリームのみを送信します。
4. [リージョンの終了] を選択します。
5. [有効にする] をオンにします。

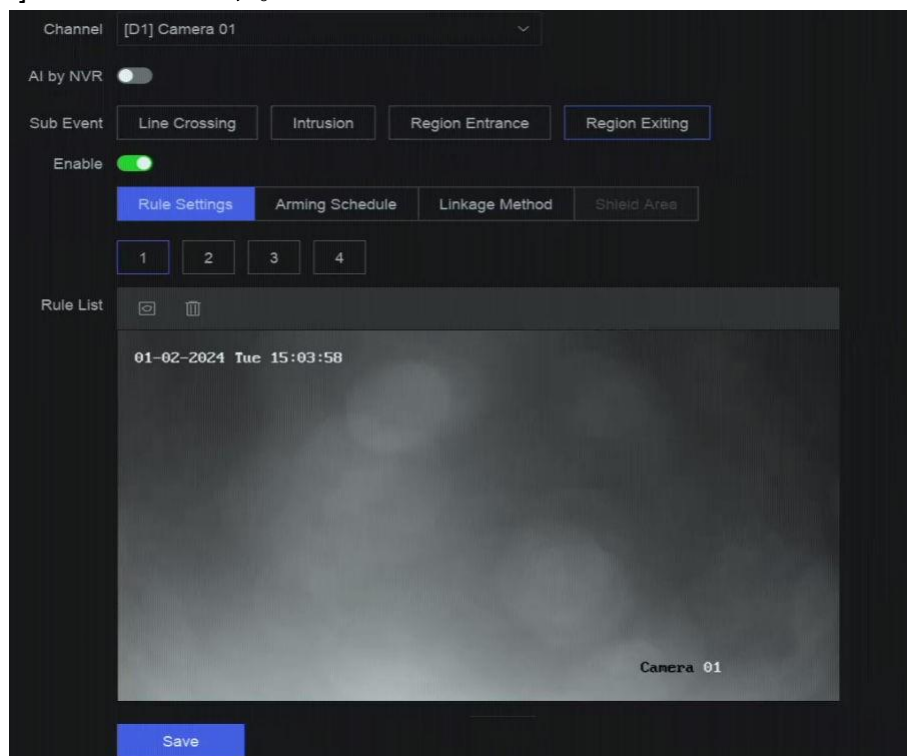



図13-4 リージョン終了検出

6. [ルール設定] をクリックして検出ルールに移動します。
 - 一) ルール番号を選択します。たとえば、**1** を選択します。

二)  をクリックし、画像をそれぞれ4回クリックして、四辺形領域の各点を描画します。

三) 感度と検出対象を設定します。
感度

値が大きいほど、検出アラームを簡単にトリガーできます。

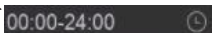
検出対象

[検出対象] を [人間] または [車両] として選択し、人間または車両によってトリガーされていないアラームを破棄します。検出ターゲットは、特定のモデルでのみ使用できます。

四) **オプション:** 上記の手順を繰り返して、さらにルールを描画します。最大 4 つのルールがサポートです。


7. 「**Arming Schedule**」 をクリックして、Arming Scheduleのタイプを選択します。

Note

[準備スケジュール] を [カスタム] に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズした準備スケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動してクリックして  指定したタイムスケジュールを設定できます。

8. [リンク方法] をクリックして、リンク方法を設定します。

表13-6 リンケージ方式の説明

リンケージ方式	形容
Surveillance Centerに通知	デバイスは、イベントが発生したときに、例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(iVMS-4200、iVMS-5200など)がインストールされたPCを指します。
アラームポップアップウィンドウ	アラームがトリガーされると、ローカルモニタにアラームのポップアップウィンドウが表示されます。
ブザー	アラームが検出されると、ブザーからビープ音が鳴ります。
メールを送る	アラームが検出されると、システムはアラーム情報を記載した電子メールをユーザーに送信できます。
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム入力、モーション検出、ビデオ改ざん検出、顔検出、ライン交差検出、およびその他すべてのイベントによってトリガーできます。
記録	アラームが検出されると、選択したチャンネルがビデオを録画します。  手記 チャンネルのビデオ録画スケジュールが有効になっている必要があります。そうでない場合は、このリンクは無効になります。 [System → Storage Management] → [Storage Schedule] → [Video Recording] に移動して、ビデオ録画スケジュールを設定できます。

9. オプション: AI by NVR が有効になっている場合にシールド領域を設定します。シールドエリアが設定された後、デバイスはエリア内のターゲットの動作を分析しないため、エリア内で境界保護イベントがトリガーされることはありません。
10. 「保存」をクリックします。

次のタスク

ライブビューに移動し、[ターゲット]をクリックして、リアルタイムのアラームを表示できます。

13.1.3 異常な動作イベント

始める前に

カメラがこの機能をサポートしていることを確認してください。

ステップ

1. [Event Center] → [Event Configuration] → [Abnormal Behavior Event] → に移動します。
2. カメラを選択する
3. イベントの種類を選択します。
4. [有効にする] をオンにします。
5. [ルール設定] をクリックして、ルールを設定します。

表13-7 異常動作イベント

イベント名	イベント内容	ルール設定
徘徊検知	徘徊検知は、ターゲットが設定された時間よりも長く指定されたエリア内に留まっているかどうかを検出し、リンクされたアクションのアラームをトリガーするために使用されます。	一. ルール番号を選択します。 二. 画像の上部にあるツールバーを使用して、検出線を描画します。 三. 時間しきい値と感度を設定します。 時間しきい値 ターゲットがリージョンに滞在している時間。値が 10 の場合、ターゲットがその領域に 10 秒間留まった後にアラームがトリガーされます。
駐車検出	駐車検出は、高速道路や一方通行に適用されるエリア内の駐車違反を検出するために使用されます。	感度 背景画像とオブジェクトの類似性。値が大きいほど、検出アラームがトリガーされやすくなります。
無人手荷物検出	無人手荷物検出は、手荷物、財布、危険物など、あらかじめ定義された領域に残された物体を検出し、アラームがトリガーされたときに一連のアクションを実行できます。	四. オプション: 上記の手順を繰り返して、別の手順を設定します。
オブジェクト除去検出	オブジェクト除去検出機能は、事前定義されたオブジェクトから削除されたオブ	

Network Video Recorder User Manual


	ジェクトを検出します	
--	------------	--

Network Video Recorder User Manual

イベント名	イベント内容	ルール設定
	展示されている展示品などの領域、およびアラームがトリガーされたときに一連のアクションを実行できます。	
高速移動検出	高速移動検出は、不審なランニングや追跡、速度超過、高速移動を検出するために使用されます。オブジェクトが速く動いているときにアラームをトリガーし、必要なアクションを事前に実行できるように、アームングホストに通知を送信します。	
ピープルギャザリング検出	人集め検出は、指定したエリア内の人体の密度が設定値を超えているかどうかを検出し、リンクされたアクションのアラームをトリガーするために使用されます。	<ol style="list-style-type: none"> 一. ルール番号を選択します。 二. 画像の上部にあるツールバーを使用して、検出線を描画します。 三. パーセンテージを設定します。パーセンテージは、領域内の人体の密度です。しきい値を超えると、デバイスはアラームをトリガーします。 四. オプション: 上記の手順を繰り返して、別の手順を設定します。

6. 「**Arming Schedule**」をクリックして、**Arming Schedule**のタイプを選択します。


Note

[準備スケジュール]を[カスタム]に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズした準備スケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動してクリックして 00:00-24:00  指定したタイムスケジュールを設定できます。

7. [リンク方法]をクリックして、リンク方法を設定します。

表13-8 リンケージ方式の説明

リンケージ方式	形容
Surveillance Centerに通知	デバイスは、イベントが発生したときに、例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(iVMS-4200、iVMS-5200など)がインストールされたPCを指します。
アラームポップアップウィンドウ	アラームがトリガーされると、ローカルモニタにアラームのポップアップウィンドウが表示されます。
ブザー	アラームが検出されると、ブザーからビープ音が鳴ります。

リンケージ方式	形容
メールを送る	アラームが検出されると、システムはアラーム情報を記載した電子メールをユーザーに送信できます。
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム入力、モーション検出、ビデオ改ざん検出、顔検出、ライン交差検出、およびその他すべてのイベントによってトリガーできます。
記録	<p>アラームが検出されると、選択したチャンネルがビデオを録画します。</p> <p> 手記</p> <p>チャンネルのビデオ録画スケジュールが有効になっている必要があります。そうでない場合は、このリンクは無効になります。[System → Storage Management] → [Storage Schedule] → [Video Recording] に移動して、ビデオ録画スケジュールを設定できます。</p>


8. 「保存」をクリックします。

13.1.4 対象イベント

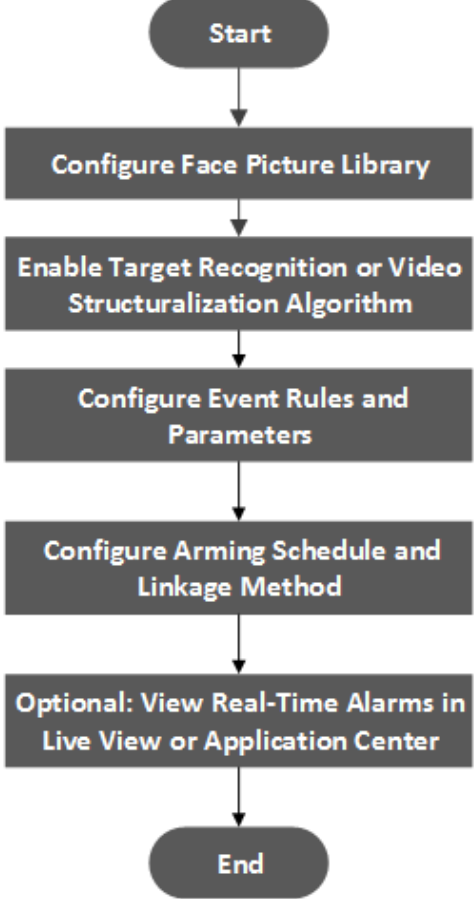
始める前に

接続されたカメラがこの機能をサポートしているか、デバイスエンジンがシステム→スマート設定→アルゴリズム設定→アルゴリズム管理でターゲット認識またはビデオ構造化アルゴリズムを有効にしていることを確認してください。

ステップ

1. [Event Center] → [Event Configuration] → [Target Event ] → に移動します。
2. カメラを選択します。
3. イベントを選択します。
4. [有効にする] をオンにします。
5. イベントルールを設定します。


イベント名	イベント内容	ルール設定
フェイスキャプチャ	顔キャプチャは、シーンに現れる顔を検出してキャプチャします。リンケージアクションは、次のことができます。	-

イベント名	イベント内容	ルール設定
	人間の顔が検出されたときにトリガーされます。	
顔写真の比較	この機能は、検出された顔写真と指定されたリストラライブラリを比較します。比較が成功したときにアラームをトリガーします。	 <pre> graph TD Start([Start]) --> Step1[Configure Face Picture Library] Step1 --> Step2[Enable Target Recognition or Video Structuralization Algorithm] Step2 --> Step3[Configure Event Rules and Parameters] Step3 --> Step4[Configure Arming Schedule and Linkage Method] Step4 --> Step5[Optional: View Real-Time Alarms in Live View or Application Center] Step5 --> End([End]) </pre> <p>図13-5 顔画像比較のフロー図</p> <p>ターゲットグレーディング 顔のグレーディングは、顔の写真の選択に使用されます。瞳孔距離、傾斜角度、パン角度に応じて、分析のグレーディング要件を満たす顔写真のみを使用します。瞳孔距離が大きく、チルト角度とパン角度が小さいほど、分析に適しています。</p> <p>非リアルタイムモード 人の流れが多い場所では、デバイスの処理速度が速くない場合があります</p>

イベント名	イベント内容	ルール設定
		十分に、 非リアルタイムモード はリアルタイムの画像をキャッシュとして保存し、後でエンジンに空きリソースがあるときにそれら进行处理します。この機能を有効にすると、すべてのチャンネルで顔画像の比較をサポートできるようになります。 非リアルタイムモード はリアルタイムアラームをトリガーしないため、 アーミングスケジュール は使用できません。 リンケージ成功/リンケージ失敗 比較が成功または失敗した場合、対応するリンケージアクションがトリガーされます。リアルタイムの比較結果は、 ライブビューのターゲット で見ることができます。
マルチターゲットタイプ検出	マルチターゲットタイプの検出により、デバイスはシーン内の顔、人体、車両を同時に検出できます。	-

6. 「**Arming Schedule**」をクリックして、Arming Scheduleのタイプを選択します。


 **Note**

[準備スケジュール]を[カスタム]に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズした準備スケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動してクリックして  指定したタイムスケジュールを設定できます。

7. [リンク方法]をクリックして、リンク方法を設定します。

表13-9 リンケージ方式の説明

リンケージ方式	形容
Surveillance Centerに通知	デバイスは、イベントが発生したときに、例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(iVMS-4200、iVMS-5200など)がインストールされたPCを指します。
アラームポップアップウィンドウ	アラームがトリガーされると、ローカルモニタにアラームのポップアップウィンドウが表示されます。
ブザー	アラームが検出されると、ブザーからビープ音が鳴ります。
メールを送る	アラームが検出されると、システムはアラーム情報を記載した電子メールをユーザーに送信できます。

リンケージ方式	形容
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム入力、モーション検出、ビデオ改ざん検出、顔検出、ライン交差検出、およびその他すべてのイベントによってトリガーできます。
記録	<p>アラームが検出されると、選択したチャンネルがビデオを録画します。</p> <p> 手記</p> <p>チャンネルのビデオ録画スケジュールが有効になっている必要があります。そうでない場合は、このリンクは無効になります。[System → Storage Management] → [Storage Schedule] → [Video Recording] に移動して、ビデオ録画スケジュールを設定できます。</p>

8. 「保存」をクリックします。

13.1.5 サーマルカメラ検出

NVRは、サーマルネットワークカメラのイベント検出モード(火災および煙の検出、温度検出、温度差の検出など)をサポートしています。

始める前に

サーマルネットワークカメラをデバイスに追加し、カメラがアクティブになっていることを確認します。

ステップ


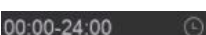
1. 「Event Center」 →  → **Event Configuration** → 「**Thermal Event**」に移動します。
2. カメラを選択します。
3. イベントの種類を選択します。
4. [有効にする] をオンにします。
5. [ルール設定] をクリックして、ルールを設定します。

表13-10 温度イベント

イベント名	イベント内容
火災検知	アーミングエリアで火災が検出されると、アラームがトリガーされます。
温度検出	温度がしきい値を超えると、アラームがトリガーされます。


6. 「**Arming Schedule**」 をクリックして、Arming Scheduleのタイプを選択します。

Note

[準備スケジュール] を [カスタム] に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズした準備スケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動してクリックして  指定したタイムスケジュールを設定できます。

7. [リンク方法]をクリックして、リンク方法を設定します。

表13-11 リンケージ方式の説明

リンケージ方式	形容
Surveillance Centerに通知	デバイスは、イベントが発生したときに、例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(iVMS-4200、iVMS-5200など)がインストールされたPCを指します。
アラームポップアップウィンドウ	アラームがトリガーされると、ローカルモニタにアラームのポップアップウィンドウが表示されます。
ブザー	アラームが検出されると、ブザーからビープ音が鳴ります。
メールを送る	アラームが検出されると、システムはアラーム情報を記載した電子メールをユーザーに送信できます。
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム入力、モーション検出、ビデオ改ざん検出、顔検出、ライン交差検出、およびその他すべてのイベントによってトリガーできます。
記録	<p>アラームが検出されると、選択したチャンネルがビデオを録画します。</p> <p> 手記 チャンネルのビデオ録画スケジュールが有効になっている必要があります。そうでない場合は、このリンクは無効になります。[System → Storage Management] → [Storage Schedule] → [Video Recording] に移動して、ビデオ録画スケジュールを設定できます。</p>

8. 「保存」をクリックします。

13.1.6 アラーム入力イベント

外部センサーアラームの取り扱い動作を設定します。

ステップ

1. 「Event Center」 →  「Event Configuration」 → 「Alarm Input Event」 → に移動します。
2. アラーム入力名を選択します。

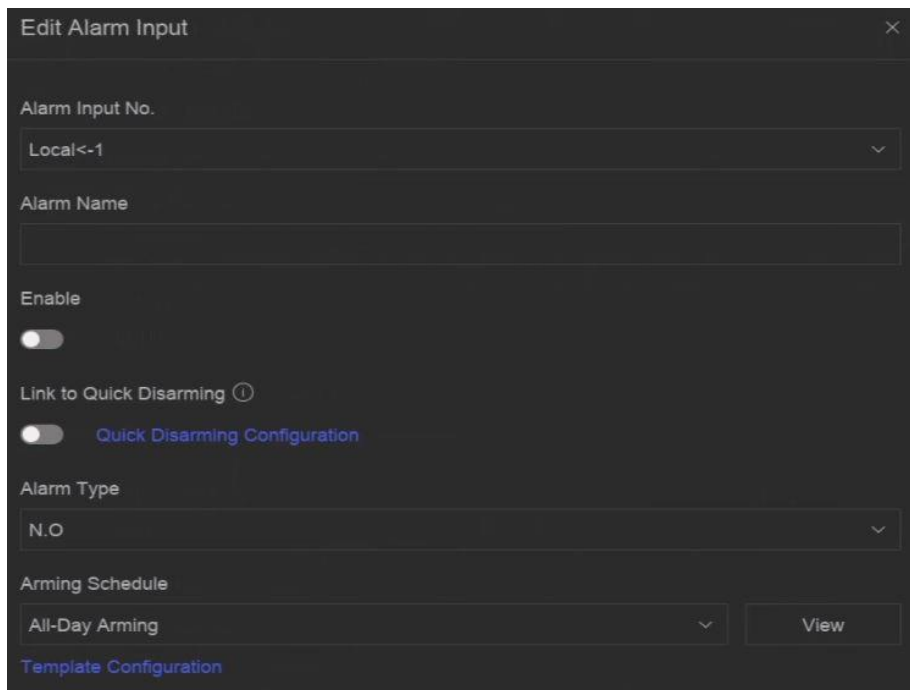


図 13-6 アラーム入力の設定

Note

たとえば、**Local<-1** は、デバイスの背面パネルのアラーム入力番号が **1** であることを表します。

- アラーム名を編集します。
- [有効にする] をオンにします。
- クイック解除を設定します。クイック ディスアーマージュにより、選択したアラーム リンケージ方式をバッチで無効にできます。
- アラームタイプを設定します。

Note

アラーム ソースを参照して、アラーム タイプを正しく設定します。

N.Oさん


接点が自然でオフパワー状態の場合、2つの接点がオフになっている場合、それらはノーマルオープンと呼ぶことができます。

ノースカロライナ州

接点が自然でオフパワー状態のとき、2つの接点が導通されている場合、それらはノーマルクローズと呼ぶことができます。


- 「**Arming Schedule**」 をクリックして、**Arming Schedule**のタイプを選択します。

Note

[準備スケジュール] を [カスタム] に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズした準備スケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動してクリックして **00:00-24:00**  指定したタイムスケジュールを設定できます。

8. [リンク方法]をクリックして、リンク方法を設定します。

表13-12 リンケージ方式の説明

リンケージ方式	形容
Surveillance Centerに通知	デバイスは、イベントが発生したときに、例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(iVMS-4200、iVMS-5200など)がインストールされたPCを指します。
アラームポップアップウィンドウ	アラームがトリガーされると、ローカルモニタにアラームのポップアップウィンドウが表示されます。
ブザー	アラームが検出されると、ブザーからビープ音が鳴ります。
メールを送る	アラームが検出されると、システムはアラーム情報を記載した電子メールをユーザーに送信できます。
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム入力、モーション検出、ビデオ改ざん検出、顔検出、ライン交差検出、およびその他すべてのイベントによってトリガーできます。
記録	アラームが検出されると、選択したチャンネルがビデオを録画します。  手記 チャンネルのビデオ録画スケジュールが有効になっている必要があります。そうでない場合は、このリンクは無効になります。 [System → Storage Management] → [Storage Schedule] → [Video Recording] に移動して、ビデオ録画スケジュールを設定できます。

9. 「保存」をクリックします。

13.1.7 オーディオ分析イベント

ステップ


1. 「Event Center」 →  「Event Configuration」 → 「Audio Analysis」 → に移動します。
2. チャンネルを選択します。
3. イベントの種類を選択します。
4. [有効にする] をオンにします。
5. [ルール設定] をクリックして、ルールを設定します。

表13-13 オーディオ分析イベント


イベント名	イベント内容	ルール設定
オーディオ例外検出	オーディオ例外検出は、	音の強度検出の急激な増加 シーンの急激な音の増加を検出します。 音の強度検出が急激に減少する

Network Video Recorder User Manual

イベント名	イベント内容	ルール設定
	音の強さが急激に増減するなどのシーン。	<p>シーン内の急激な音の落ち込みを検出します。</p> <p>感度</p> <p>値が大きいほど、検出アラームをトリガーしやすくなります。</p> <p>音響インテンシティしきい値</p> <p>環境内の音をフィルタリングできます。環境音が高いほど、値を大きくする必要があります。環境に合わせて調整してください。</p>


6. 「**Arming Schedule**」をクリックして、Arming Scheduleのタイプを選択します。

Note

[準備スケジュール]を[カスタム]に設定した場合は、カーソルをタイムバーにドラッグしてカスタマイズした準備スケジュールを設定するか、カーソルをタイムバーに移動してクリックして  指定したタイムスケジュールを設定できます。

7. [リンク方法]をクリックして、リンク方法を設定します。

表13-14 リンケージ方式の説明

リンケージ方式	形容
Surveillance Centerに通知	デバイスは、イベントが発生したときに、例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(iVMS-4200、iVMS-5200など)がインストールされたPCを指します。
アラームポップアップウィンドウ	アラームがトリガーされると、ローカルモニタにアラームのポップアップウィンドウが表示されます。
ブザー	アラームが検出されると、ブザーからビーブ音が鳴ります。
メールを送る	アラームが検出されると、システムはアラーム情報を記載した電子メールをユーザーに送信できます。
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム入力、モーション検出、ビデオ改ざん検出、顔検出、ライン交差検出、およびその他すべてのイベントによってトリガーできます。
記録	<p>アラームが検出されると、選択したチャンネルがビデオを録画します。</p> <p> 手記</p> <p>チャンネルのビデオ録画スケジュールが有効になっている必要があります。そうでない場合は、このリンクは無効になります。[System → Storage Management] → [Storage Schedule] → [Video Recording] に移動して、ビデオ録画スケジュールを設定できます。</p>

8. 「保存」をクリックします。

13.2 リンケージ構成

イベントリンケージのパラメータを設定します。

ステップ



1. 「Event Center」 → 「→ Event Configuration」 → 「Linkage Configuration 」または「System → Event Configuration」 → 「Event Configuration」 → 「Linkage Configuration 」に移動します。
2. 「電子メール」をクリックして、電子メールパラメータを設定します。

表13-15 メール連携

アイ テム	形容
サーバー認証	SMTPサーバーがユーザー認証を必要とする場合は有効にし、それに応じてユーザー名とパスワードを入力します。
SMTPサーバー	SMTP サーバーの IP アドレスまたはホスト名 (例: smtp.263xmail.com)。
SMTPポート	SMTP ポート。SMTP に使用されるデフォルトの TCP/IP ポートは 25 です。
SSL/TLSを有効にする	SMTP サーバーに要件がある場合は、SSL/TLS を有効にします。
差し出し人	送信者の名前。
差出人アドレス	送信者のアドレス。
レシーバーの選択	レシーバーを選択します。最大3つの受信機を構成できます。
添付画像	アラーム画像を添付したメールを送信します。
境界保護のための3つの添付イメージの有効化	境界保護イベントがトリガーされると、デバイスは3つのアラームイメージが添付された電子メールを送信します。
間	添付された画像をキャプチャする時間間隔。

3. [オーディオ管理]をクリックして、アラームリンクのオーディオファイルを管理します。

Note

リストには、削除できないデフォルトのオーディオファイルが3つあります。USBフラッシュドライブからオーディオファイルをインポートできます。ファイルはAACまたはMP3形式で、各ファイルサイズは1MB以内である必要があります。

4. IPスピーカーを接続している場合は、[IPスピーカー]をクリックしてオーディオをインポートします filesアラームリンクのために選択したIPスピーカーに。

Note

- このリンクページアクションは、一部のイベントタイプでのみ使用できます。
- アップロードするオーディオファイルは、MP3、WAV、またはACC形式である必要があります。ファイルサイズは1MB未満である必要があります。

-
5. [アラーム出力(Alarm Output)] をクリックして、アラーム出力パラメータを設定します。

Note

- 各アラーム出力の名前をクリックして編集します。
- アラーム出力番号は、デバイスの背面パネルにあるものと同じです。たとえば、Local->1 ですデバイスの背面パネルにあるアラーム出力No.1を意味します。

遅延

アラーム信号の持続時間。

アラーム ステータス

[トリガー] をクリックして、ステータスを切り替えます。

6. オーディオカメラとライトカメラを接続している場合は、[カメラのオーディオとライトの設定] をクリックして、アラームリンクページのカメラの点滅ライトとカメラの

Note

スピーカーパラメータを設定します。



このリンクページアクションは、一部のイベントタイプでのみ使用できます。

7. 「セキュリティー・コントロール・パネル」 をクリックして、接続されているセキュリティー・コントロール・パネルのパラメーターを設定します。

13.3 武装解除の設定

武装解除テンプレートを設定したら、そのテンプレートを使用してバッチでチャンネルを武装解除できます。「解除を許可」を有効にしたチャンネルは、解除テンプレートに従ってアラームリンクページアイテムをトリガーしません。

ステップ

1. 「Event Center」 → 「→ Event Configuration」 → 「Linkage Configuration 」 または 「System → Event Configuration」 → 「Event Configuration」 → 「Linkage Configuration 」 に移動します。

Network Video Recorder User Manual

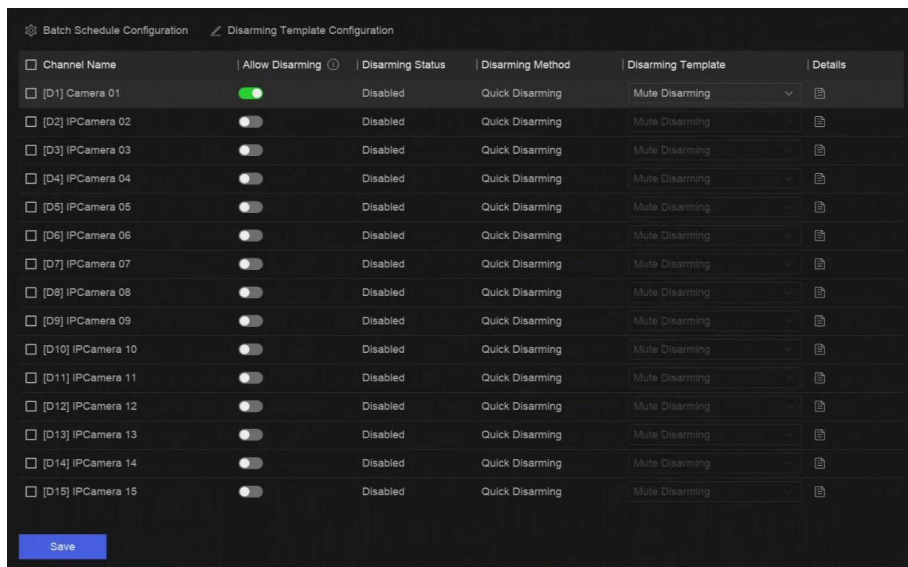


図13-7 武装解除構成

- 武装解除が許可されているチャンネルを選択してください。
- [バッチスケジュール設定] をクリックします。
- オンにする有効にする。
- 「解除テンプレート」を選択します。2種類のみのご提供となります

Note

現在、使用可能なテンプレートの種類は2つだけで、各テンプレートパラメータを構成することはできません。

- [OK] をクリックします。

13.4 バッチ構成

リストされたイベントと **Notify Surveillance Center** の対応するリンクアクションは、Event Center → → **Event Configuration** → **Batch Configuration** または「System → Event Configuration → → **Event Configuration**」 → **Batch Configuration** を使用して、バッチで有効または無効にできます。イベントが有効になったら、[イベント設定に移動] をクリックしてルールを設定してください。

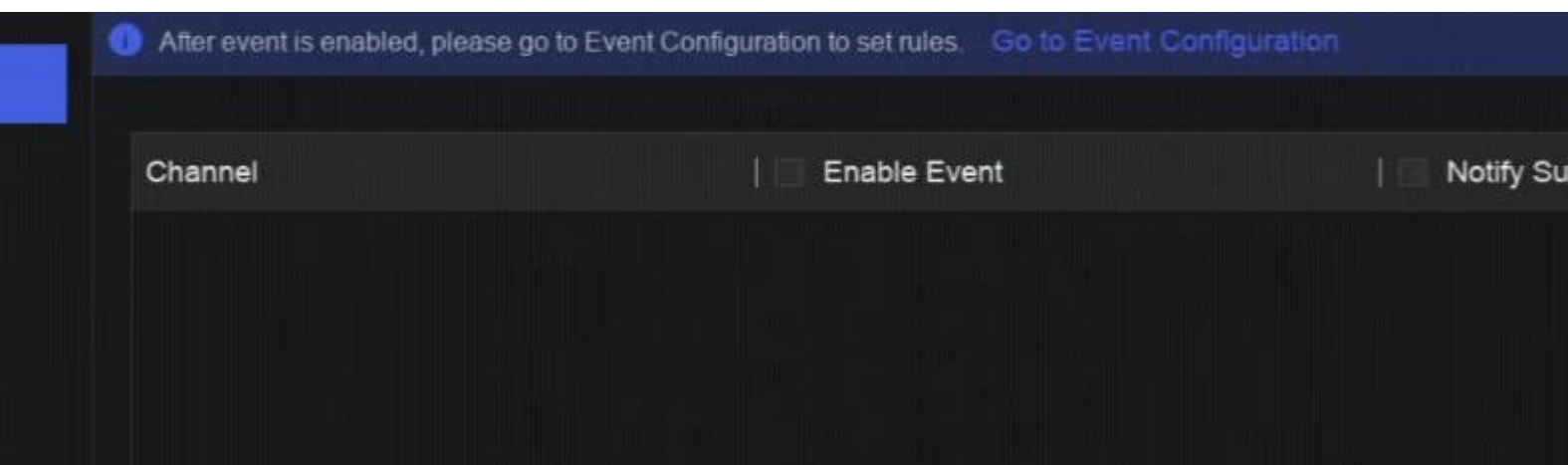


図13-8 バッチ構成

13.5 イベント検索

検索条件に応じて、動画や写真などのイベントファイルを検索することができます。

ステップ

1. 行きます イベントセター →

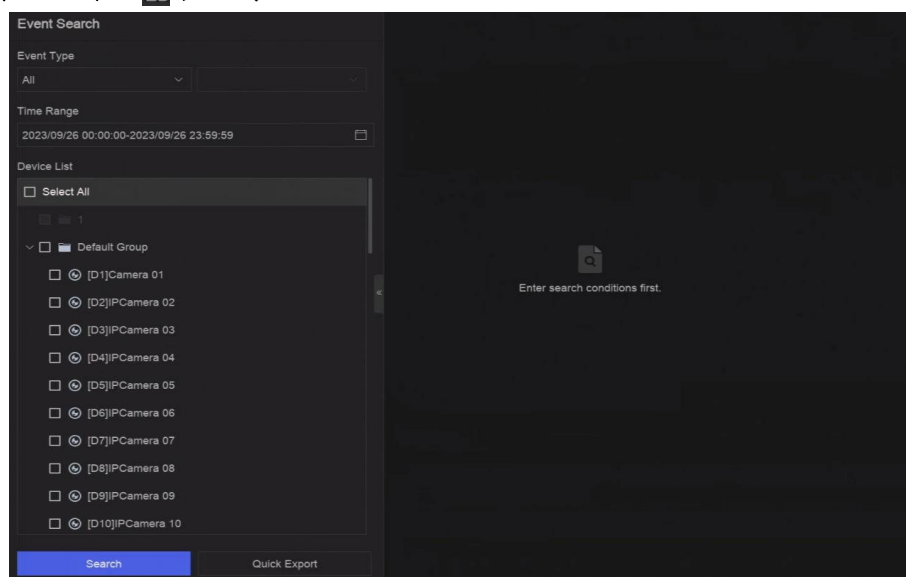


図13-9 イベント検索

2. イベントの種類、時間、チャンネルなど、詳細な条件を指定します。
3. [検索] をクリックします。

デバイスは、選択したチャンネルの検索結果を表示します。


次のタスク

結果リストから項目を選択し、バックアップ用にエクスポートします。

13.6 アラームの表示

あなたはできる view リアルタイムのアラームビデオと写真、およびそれらを再生します。

ステップ

1. Event Center →に移動します.
2. [Real-Time Alarm] をクリックします。
3. リストからアラームを選択します。
アラームが多すぎる場合は、[フィルタ] をクリックして アラームを検索して見つけます。
4. [再生] をクリックすると、アラーム記録ビデオが再生されます。
5. 右側のアラーム画像を表示します。利用可能な画像の数が一覧表示されます。

第 14 章 検索とバックアップ

ファイルの種類、イベントの種類、時間、タグなど、さまざまな検索条件に従ってファイルを検索できます。検索結果は、USBフラッシュドライブなどの別のデバイスにエクスポートできます。

始める前に

HDDが正しくインストールされ、記録パラメータが正しく設定されていることを確認します。

ステップ

1. [バックアップ]に移動します。

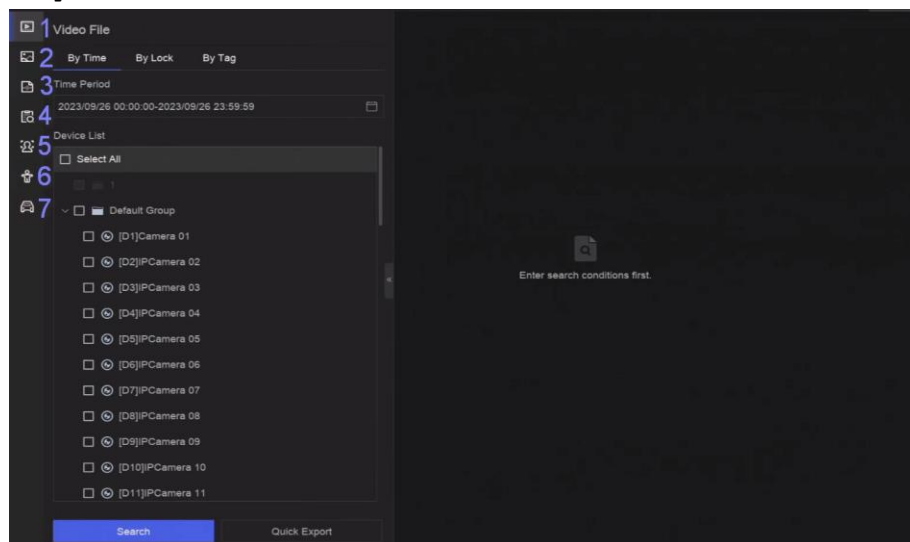


図14-1 検索とバックアップ

2. 左側からお好みで検索方法を選び、7種類に対応しています。

Note

検索条件は、選択した検索方法によって異なります。

3. 検索条件を設定します。
4. [検索]をクリックします。



図14-2 検索結果

5. オプション: 以下の操作を実行します。

- 1 クリックしてファイルを選択します。
 - 2 クリックすると、ファイルがロックされます。ファイルがロックされた後は、上書きされません。
 - 3 クリックすると、ファイルがエクスポートされます。
 - 4 上部のツールバーを使用して、結果をチャンネルでフィルタリングします。
 - 5 上部のツールバーを使用して、表示効果を切り替えます。
 - 6 別の結果ページに移動します。
 - 7 インターフェイスを展開または折りたたみます。結果リストからビデオを選択すると、すぐに再生できます。
6. バックアップのためにUSBフラッシュドライブをデバイスに挿入します。
7. ファイルをUSBフラッシュドライブにエクスポートします。
- 結果リストでファイルを選択し、[エクスポート]をクリックします。
 - 「すべてエクスポート」をクリックして、すべてのファイルをエクスポートします。


第15章 AcuSearch

AcuSearch機能は、ライブビューや再生時に映像シーンから人間の顔や身体の画像を抽出し、抽出した画像と録画した映像を比較し、最終的に対象物を含む映像を見つけます。



始める前に

お使いのデバイスまたはカメラがこの機能をサポートしていることを確認してください。

ステップ

1. [System (システム)] → [Smart Settings (スマート設定)] → [Algorithm Configuration (アルゴリズム設定)] → [Algorithm Management (アルゴリズム管理)] に移動して、AcuSearch アルゴリズムを有効にします。
 - カメラによるAI: カメラはAcuSearch分析を実行します。
 - AI by NVR: デバイスはAcuSearch解析を実行し、解析にはエンジンリソースが必要です。
2. [ライブビュー]または[再生]に移動し、 ビデオの再生中に左下隅をクリックします。

Note

- ・再生中にターゲットが見つげにくい場合は、スマート検索 () を使用してターゲットを含むシーンを見つけることをお勧めします。
- ・人間の顔と体は異なる色で縁取られます。
- ・をクリックした後 、画像上でカーソルをドラッグして、ターゲットを手動でフレーム化したり、フレーム領域を手動で調整したりすることもできます。


3. Click  of the selected target.



図15-1 AcuSearch

比較されたビデオが見つかった場合、デバイスはAcuSearchインターフェースにリダイレクトされます。

4. 検索結果を表示します。

Network Video Recorder User Manual

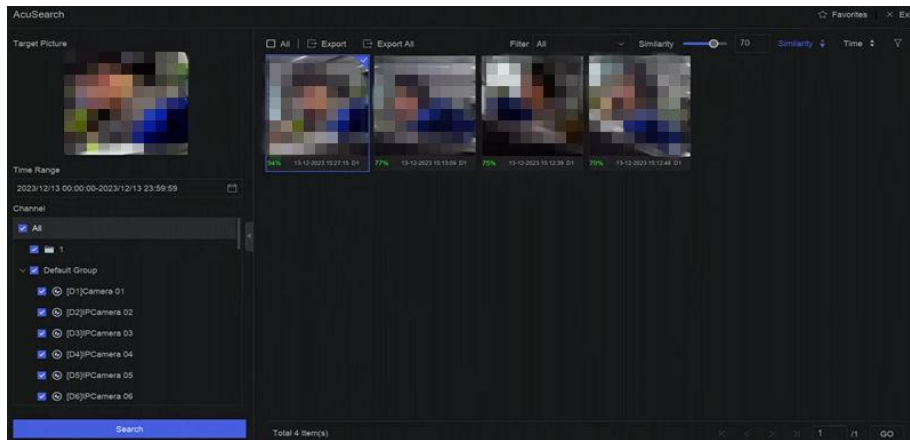


図15-2 AcuSearchの結果

5. オプション: 結果が望ましくない場合は、時間範囲、チャンネル、再度検索する類似性。
6. オプション: 結果リストから項目を選択すると、対応するビデオが右側に再生され、赤色でマークされます。ツールバーのアイコンをクリックすると、機能を実行できます。

第16章 スマートセッティング

16.1 アルゴリズム管理

アルゴリズムは、デバイスエンジンがさまざまなスマート機能を分析するために使用されます。スマート機能は、対応するアルゴリズムをエンジンに割り当てた後で使用できます。

[システム] → [イベント設定] → [イベント設定] → [スマート設定] → [アルゴリズム管理] または [イベントセンター] → [イベント設定] → [スマート設定] → [アルゴリズム管理] に移動します。使用可能なアルゴリズムがリストされ、必要なアルゴリズムをクリックしてエンジンをリンクできます。

16.2 エンジンの状態

エンジンの状態(運転状態、温度、アルゴリズム名など)を表示できます。

「System → Event Configuration」 → 「Event Configuration」 → 「Smart Settings」 → 「Engine Status」 または 「Event Center」 → 「Event Configuration」 → 「Smart Settings」 → 「Engine Status」 に移動します。アルゴリズムを切り替える必要がある場合は、アルゴリズム管理を参照してください。

16.3 タスクプラン管理

タスクのステータスは、タスク設定で表示できます。スマート分析結果は、関心のある人体や車両の画像を検索する際に、画像をフィルタリングするために使用されます。

「タスクプラン管理」 → 「スマート設定」 → 「システム→イベント設定」 → イベント設定」または「イベントセンター」 → 「イベント設定」 → スマート設定 → タスクプラン管理」に移動します。非リアルタイム目標比較では、各日の進行状況を表示できます。

タスクのステータスには、主に無効、待機中、有効の3つの条件が含まれます。無効

カメラで解析タスクが有効になっていません。

待つこと

カメラの解析タスクが有効になっている。デバイスはデータの分析を待機しています。

有効

カメラの解析タスクが有効になっており、デバイスがカメラのデータを解析しています。

16.4 リスト ライブラリ管理

Network Video Recorder User Manual

リストライブラリは、主にターゲット画像の保存とターゲットの比較に使用されます。見知らぬ人のライブラリは、見知らぬ人の写真を保存するために使用され、削除することはできません。

16.4.1 リスト ライブラリを追加する

ステップ

1. 「System → Event Configuration」 → 「Event Configuration」 → 「Data Archive」 → リスト・ライブラリ」の順に移動します。
Event Center → Event Configuration → Data Archive → List Library.
2. 「追加」をクリックします。
3. ライブラリ名を入力します。
4. [確認] をクリックします。

Note

- ・ リスト ライブラリの作成後、カーソルをライブラリ上に移動して編集または削除できます。
- ・ [バッチで削除] をクリックして、選択したライブラリを削除したり、選択したライブラリ内のすべての画像をクリアしたりできます。


16.4.2 顔の写真をライブラリにアップロードする

対象画像の比較は、ライブラリ内の対象画像に基づいています。1つのターゲット画像をアップロードすることも、複数のターゲット画像をライブラリにインポートすることもできます。

始める前に

- ・ 画像形式がJPEGまたはJPGであることを確認してください。
- ・ すべての画像を事前にバックアップデバイスにインポートしてください。

ステップ

1. リスト ライブラリをダブルクリックします。
2. オプション: 「カスタムタグ」をクリックして、画像にタグを追加します。タグは、個人情報、組織、役職など、必要に応じて編集できます。
3. 「追加」または「インポート」をクリックします。
4. 画像をインポートします。
 - 追加: クリック  すると、一度に画像がアップロードされます。画像に複数のターゲットがある場合は、その中から1つを選択する必要があります。
 - インポート: 一度に複数の画像をインポートできます。デバイスは、ファイル名を画像名として使用し、他の属性を空のままにするか、指定されたルールに従って画像ファイルをインポートします。画像に複数のターゲットがある場合、デバイスはデフォルトで中央のターゲットを選択します。
5. オプション: 以下の操作を実行します。

ライブラリから画像を削除する

- ・ 画像を選択して削除します。
- ・ 画像を選択し、[バッチで削除]をクリックして、選択した画像を削除します。

で画像を検索する



Network Video Recorder User Manual

図書館

クリック 画像を検索するためのツールバーで。

Network Video Recorder User Manual

画像を別のライブラリにコピーする

画像を選択して[コピー先]をクリックすると、現在のライブラリのアップロードした画像が別のライブラリにコピーされます。

画像の編集

ピクチャ名をクリックし、その属性を編集します。

写真のエクスポート

画像を選択し、**輸出** それらをUSBフラッシュにエクスポートしますドライブ。

第17章 アプリケーションセンター

17.1 人と車両の検出

選択したチャンネルの人員情報と車両情報がリアルタイムで表示されます。


人と車両の検出は事前に構成する必要があります。Event Center →  に移動して構成します。



図17-1 人と車両の検出 テーブル17-1 人と車両の検出の説明

No	形容
1	ショートカットメニューを右クリックします。
2	人と車両の検出設定。レイアウト、比較成功プロンプト、およびリソースチャンネルを設定できます。
3	全画面表示で開始/終了します。

17.2 パーソンチェックイン

チェックインタスクを追加すると、ライブチェックイン情報を表示したり、チェックイン結果を検索したりできます。


17.2.1 チェックインタスクの追加

チェックインを開始する前に、対応するタスクを適切に設定する必要があります。

始める前に

- 人物のチェックイン用のカメラが正しく接続されています。
- [システム] → [スマート設定] → [アルゴリズム構成] → [アルゴリズム管理] に移動します。 **Target Recognition** を少なくとも 1 つのエンジンに割り当てます。
- チェックイン比較のリストライブラリは適切に構成されています。詳細については、リストライブラリの追加を参照してください。

ステップ

1. 「パーソン・チェックイン」をクリックします。
2. 右クリックすると、左側にメニューが表示されます。
3. をクリックします .
4. 「追加」をクリックします。

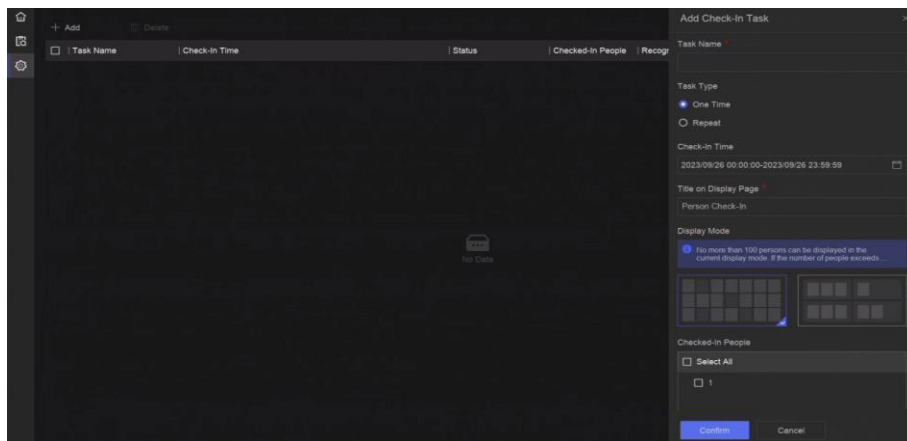


図17-2 チェックイン・タスクの追加

5. タスクを設定します。ワ
ンタイム

タスクは 1 回だけ使用されます。

繰り返す

このタスクは使用され、数回繰り返されます。

6. タスク名、チェックイン時間、認識チャンネルなど、その他のパラメーターを構成します。
7. [確認] をクリックします。

17.2.2 チェックインレコードの検索


チェックインタスクを構成した後、日または月でレコードを検索できます。

始める前に

チェックインタスクが構成されていることを確認します。

ステップ

1. パーソンチェックインへ進みます。
2. 右クリックすると、左側にメニューが表示されます。

3. をクリックします .

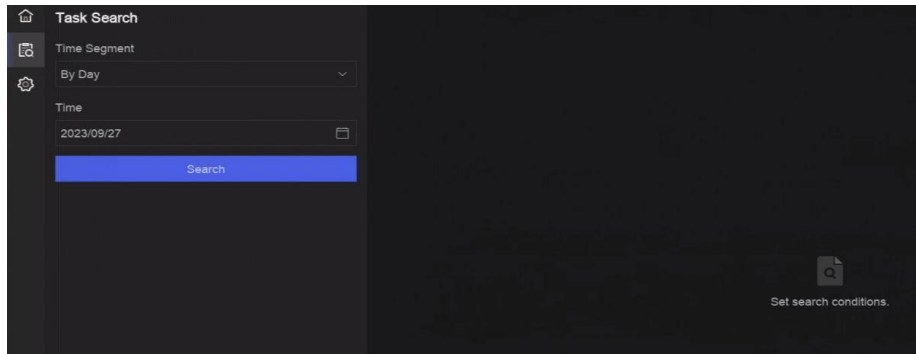


図17-3 チェックイン・レコードの検索



4. 時間を設定します。

5. [検索] をクリックします。

17.3 統計レポート

あなたはレポートを表示できます 人数カウント と ヒートマップ。

表17-2 統計レポートの概要

関数名	アイコン	条件	形容
人数カウント		<ul style="list-style-type: none"> この機能は、接続されたIPカメラでサポートされている必要があります。たとえば、人数カウントカメラがデバイスに接続されているとします。 カメラの統計情報データをデバイスのHDDに保存できます。 	人数カウントは、特定の設定されたエリアに出入りする人の数を計算し、分析のために日次/週次/月次/年次レポートを作成します。
ヒートマップ		<ul style="list-style-type: none"> この機能は、接続されたIPカメラでサポートされている必要があります。 カメラの統計情報データをデバイスのHDDに保存できます。 	ヒートマップは、データをグラフィカルに表現したものです。ヒートマップ機能は、特定のエリアを訪れ、滞在した人の数を分析するために使用されます。

第 18 章 システムパラメータの設定

システムパラメータには、デバイス名、時間、ロック画面の時間、言語などが含まれます。
[システム] → [システム設定] → [システム構成] に移動して、パラメーターを構成します。

表18-1 パラメータの説明

種類	パラメータ名	形容
基本情報	ロックスクリーンタイム	指定した時間カーソルが動かないと、画面がロックされます。
	ロック画面でのライブビューの許可	画面がロックされると、デバイスはこの権限を持つカメラのライブ画像を再生します。
時間設定	時刻同期モード	<p>NTP時刻同期</p> <p>[NTP 時刻同期] を選択し、[NTP サーバー]、[NTP サーバー ポート]、[NTP クライアント ポート]、および [間隔] を構成できます。間隔は、NTP サーバー内の 2 つの同期アクション間の時間間隔です。デバイスがパブリックネットワークに接続されている場合は、リストされているサーバーアドレスなど、時刻同期機能を備えたNTPサーバーを使用する必要があります。デバイスがカスタマイズされたネットワークに設定されている場合は、NTPソフトウェアを使用して時刻同期用のNTPサーバーを確立できます。</p> <p>手動時刻同期</p> <p>システム時刻を手動で設定します。</p> <p>Hik-Connectサーバー時刻同期</p> <p>デバイスは、NTPサーバーの代わりにHik-Connectと時刻を同期します。</p> <p>DSTの</p> <p>DST(夏時間)とは、時計が1周期進む期間を指します。世界中の一部の地域では、天気が最も暖かい月の間、夕方に日当たりの良い時間を増やす効果があります。</p> <p>DST の開始時にクロックを特定の期間 (設定した DST バイアスによって異なります) 進め、標準時間 (ST) に戻るときに同じ期間に戻します。</p>

Network Video Recorder User Manual

種類	パラメータ名	形容
メニュー出力	AUXポート 自動スイッチ	背面パネルに2台以上のモニターが接続されている場合、そのうちの1台がメインメニューに入らない補助出力になる場合があります。補助出力ウィンドウの画像は、間隔に応じて自動的に次の画像に切り替わります。
チャンネルゼロ	-	仮想チャンネルと呼ばれるチャンネル0は、デバイスのすべてのチャンネルのライブ画像を表示できるため、送信の帯域幅を節約できます。
RS-232	使い	<p>慰める</p> <p>コンバーターでPCに接続した後、PCはデバイスのパラメータを設定できます。</p> <p>透明チャンネル</p> <p>シリアルデバイスに直接接続されています。PCは、ネットワークを介してシリアルデバイスにリモートアクセスできます。</p>

第19章 ホット スペア デバイスのバックアップ

ビデオレコーダーは、N+Mホットスペアシステムを形成できます。このシステムは、いくつかの動作中のビデオレコーダーと少なくとも1つのホットスペアビデオレコーダーで構成されています。動作中のビデオレコーダーに障害が発生すると、ホットスペアビデオレコーダーが動作に切り替わり、システムの信頼性が向上します。下図に示す双方向接続は、ホットスペアビデオレコーダーと動作中のビデオレコーダーとの間に構築する必要があります。



図19-1 ホット・スペア・システムの構築

Note

- 最大 32 台の動作デバイスと 32 台のホット スペア デバイスを使用できます。
- 互換性のために、すべてのデバイスを同じモデルでを使用することをお勧めします。ホットスペア機能をサポートするモデルの詳細については、販売店にお問い合わせください。
- この機能をサポートしているのは特定のモデルのみです。

19.1 作業デバイスの設定

ステップ

1. [システム] → [システム管理] → [N+M ホット スペア] に移動します。
2. 作業モードを通常モードに設定します。
3. [有効にする] をオンにします。
4. 「保存」をクリックします。
5. オプション: ホット スペア デバイスの IP アドレスとホット スペア デバイスの動作ステータスを表示します。

19.2 ホット スペア デバイスの設定

ホットスペアデバイスは、動作中のデバイスに障害が発生したときに、動作中のデバイスのタスクを引き継ぎます。

ステップ

1. [システム] → [システム管理] → [N+M ホット スペア] に移動します。
2. 動作モードをホットスペアモードとして設定します。
3. 「保存」をクリックします。デバイスは自動的に再起動します。

Note

- デバイスがホットスペアモードで動作すると、カメラの接続は無効になります。
- ホットスペアデバイスの作業モードを通常モードに切り替えた後、デバイスのデフ

Network Video Recorder User Manual

ォルトに戻して、後で正常な動作を確保することを強くお勧めします。

Network Video Recorder User Manual

4. [システム] → [システム管理] → [N+M ホット スペア] に再度移動します。
5. 動作中のデバイスをホットスペアシステムに追加します。
6. ホット・スペア・システムをホット・スペア・システムに追加します。
7. 「保存」をクリックします。

第 20 章 例外イベントの構成

例外イベントは、ライブビューインターフェイスでイベントヒントを取得し、アラーム出力とリンケージアクションをトリガーするように設定できます。

ステップ

1. [システム] → [システム設定] → [例外] に移動します。

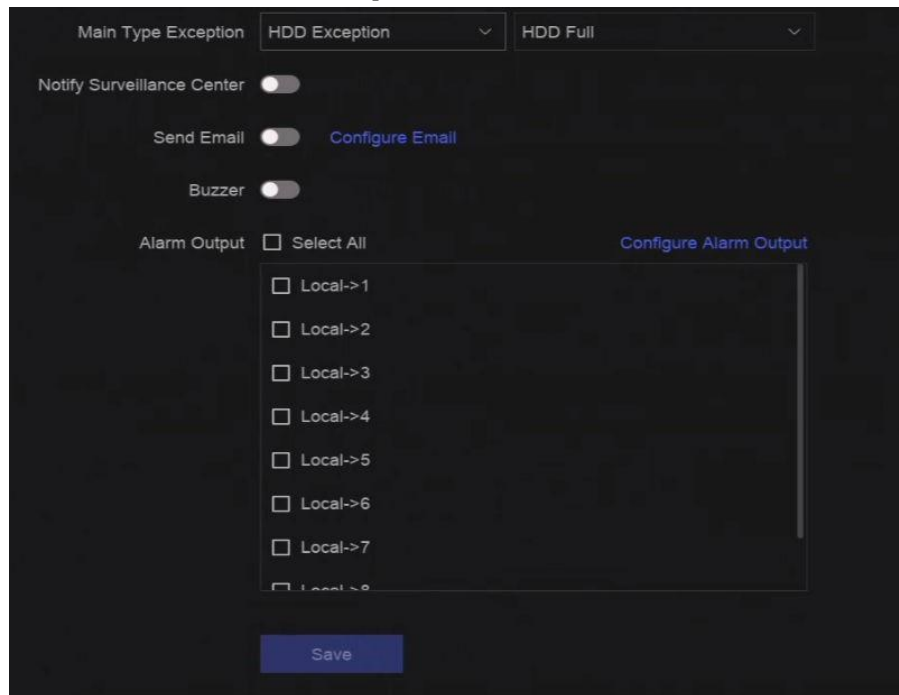


図20-1 例外イベントの構成

2. 例外の種類を選択します。
3. リンケージ方式を設定します。

表20-1 リンケージの説明

リンケージ方式	形容
Surveillance Centerに通知	デバイスは、イベントが発生したときに、例外またはアラーム信号をリモートアラームホストに送信できます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア(iVMS-4200、iVMS-5200など)がインストールされたPCを指します。
ブザー	アラームが検出されると、ブザーからビープ音が鳴ります。

Network Video Recorder User Manual

リンケージ方式	形容
メールを送る	アラームが検出されると、システムはアラーム情報を記載した電子メールをユーザーに送信できます。
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム入力、モーション検出、ビデオ改ざん検出、顔検出、ライン交差検出、およびその他すべてのイベントによってトリガーできます。

Note

例外イベントが発生すると、 右上隅で通知され、クリックして  表示できます。

-
4. 「保存」をクリックします。

第21章 システム情報の表示

[システム→システムメンテナンス]→[実行情報]→[システム情報]に移動して **view** ビデオ録画情報、HDD情報、ネットワーク情報、ライブのストリーム情報、**view**またはビデオ再生、時刻同期診断情報など。

デバイスの例外が発生した場合、たとえば、時刻同期の例外が発生し、RTC(コイン/ボタン電池)の電池が切れた場合、ビデオの録画や再生に影響を与える可能性があるため、できるだけ早く例外を解決してください。

第22章 システムメンテナンス

システムメンテナンス機能には、ログ検索、再起動のスケジュール設定、アップグレードなどが含まれます。

22.1 再起動のスケジュール

デバイスはスケジュールに従って自動的に再起動します。

[システム] → [システムメンテナンス] → [メンテナンス] → [再起動のスケジュール] に移動して機能を有効にし、再起動スケジュールを設定します。

22.2 デバイスのアップグレード

デバイスシステムは、ローカルUSBフラッシュドライブ、リモートFTPサーバーなどでアップグレードできます。

[システム] → [システムメンテナンス] → [メンテナンス] → [アップグレード] に移動して、デバイスをアップグレードします。

22.3 バックアップと復元

[システム] → [システム保守] → [保守] → [バックアップと復元] に移動して、システムパラメータを復元またはバックアップします。

設定ファイルのインポート/エクスポート

デバイス設定ファイルは、バックアップのためにローカルデバイスにエクスポートでき、1つのデバイスの設定ファイルを複数のデバイスにインポートできます。また、同じパラメータで設定する場合は、1つのデバイスの設定ファイルを複数のデバイスにインポートできます。

シンプルな復元

ネットワーク(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MTU、NIC動作モード、デフォルトルート、サーバーポートなど)およびユーザーアカウントパラメータを除くすべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に戻します。

工場出荷時のデフォルト

すべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に戻します。

非アクティブに復元

デバイスを非アクティブ状態に復元し、ユーザーアカウントの復元を除くすべての設定を変更せずにおきます。

22.4 ログ情報

[システム] → [システムメンテナンス] → [メンテナンス] → [ログ] に移動して、ログ情報を検索してエクスポートします。

期限切れ時間の設定

ログディスクがいっぱいになると、その期間を超えたログは上書きされます。

22.5 Log Server の構成

バックアップのために、システムログをサーバーにアップロードできます。

ステップ

- 一. [System → CX] → [System Settings] → [Network] → [Network → Log Server] に移動します。
- 二. [有効にする] をオンにします。
- 三. アップロード時間、サーバーのIPアドレス、およびポートを設定します。
- 四. オプション: 「テスト」 をクリックして、パラメーターが有効かどうかをテストします。
- 五. 「保存」 をクリックします。

22.6 メンテナンスツール

システムメンテナンスのために、S.M.A.R.T.検出や不良セクタ検出など、複数のツールが用意されています。

始める前に

HDDが正しく取り付けられていることを確認します。

ステップ

1. 「システム」 → 「システム保守」 → 「保守」 → 「保守ツール」 に移動します。
2. 要件に応じてツールを選択してください。

表22-1 ツールの説明

ツール名	形容
ネットワークデータモニタリング	ネットワークデータ監視は、ネットワークのパフォーマンス、可用性、またはセキュリティに影響を与える可能性のある異常やプロセスについて、ネットワークデータをレビュー、分析、管理するプロセスです。
ネットワーク パケット キャプチャ	ピン ping テストは、宛先 IP アドレスが到達可能かどうかを検出するために使用されます。 NIC パケット キャプチャ

Network Video Recorder User Manual

ツール名	形容
	レコーダーがネットワークにアクセスした後、USBフラッシュドライブを使用してネットワークパケットをキャプチャしてエクスポートできます。
HDDステータス検出	2017年10月1日以降に生成された4 TBから8 TBのSeagate HDDのヘルス・ステータスを表示できます。この機能を使用して、HDDの問題のトラブルシューティングに役立ててください。ヘルス検出は、S.M.A.R.T.機能よりも詳細なHDDステータスを表示します。
S.M.A.R.T.検出	S.M.A.R.T.(Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology)は、故障を予測するために様々な信頼性指標を検出するHDD監視システムです。
不良セクタ検出	HDDに不良セクタが多すぎる場合は、HDDを交換することをお勧めします。
HDDクローン	eSATAインターフェースを介してHDD内のデータを別のデータに対応させます。

Note

テクニカルサポートの助けを借りてメンテナンスツールを使用することをお勧めします。

第23章 セキュリティ管理

23.1 アドレスフィルター

アドレスフィルターは、特定のIP / MACアドレスがデバイスにアクセスすることを許可するか禁止するかを決定します。

始める前に

管理者アカウントでログインします。

ステップ

1. [システム] → [システムメンテナンス] → [セキュリティ管理] → [アドレス フィルター] に移動します。
2. [有効にする] をオンにします。
3. フィルタリングタイプを設定します。IPアドレスまたはMACアドレスでフィルタリングすることを選択します。
4. 制限タイプを設定します。デバイスメカニズムは、特定のIP / MACアドレスがデバイスにアクセスすることを許可または禁止します。
5. オプション: 制限リストを設定します。アドレスを追加、編集、削除できます。
6. 「保存」をクリックします。

23.2 ストリーム暗号化

ストリーム暗号化を有効にした後、リモートライブビュー、リモート再生、およびダウンロードしたビデオには暗号化キーが必要になります。

ステップ

1. [システム] → [システム保守] → [セキュリティ管理] → [ストリーム暗号化] に移動します。
2. [有効にする] をオンにします。
3. 暗号化キーを設定します。



ストリーム暗号化キーは、Hik-Connect サービスの確認コードと同期されます。暗号化コードを有効にすると、Hik-Connectストリームは強制的に暗号化されます。

4. 「保存」をクリックします。

23.3 TLS バージョンの選択

TLS 設定は、HTTP(s) および拡張 SDK サービスで有効になります。これにより、より安全なストリーム伝送サービスが提供されます。[システム] → [システム保守] → [セキュリティ管理] → TLS に移動して、TLS バージョンを選択します。

第24章付録

24.1 適用電源アダプター一覧

以下にリストされている電源アダプターのみを使用してください。

電源アダプターのモデル	仕様	生産者
ADS-26FSG-12 12024EPGの	12 V、2 A	深セン名誉電子有限公司
MSA-Z3330IC12.0-48W-Q	12 V、3.33 A	孟想パワーサプライテクノロジー(株)
MSA-C1500IC12.0-18P-DE	12 V、1.5 A	0000201935 孝装テクノロジー(株)
ADS-25FSG-12 12018GPGの	CE、100 ~ 240 VAC、12 V、1.5 A、18W、Φ5.5×2.1×10	0000200174 Shenzhen Honor Electronic Co., Ltd. (深セン名誉電子有限公司)
MSA-C1500IC12.0-18P-米国	12 V、1.5 A	0000201935 孝装テクノロジー(株)
TS-A018-120015ADの	100 → 240 VAC、12 V、1.5 A、18 W、Φ5.5 × 2.1 × 10	0000200878 Shenzhen Transin Technologies Co., Ltd. (深セントランシンテクノロジー株式会社)
MSA-C2000IC12.0-24P-DE	12 V、2 A	0000201935 孝装テクノロジー(株)
ADS-24S-12 1224GPGの	CE、AC100-240V、12V、2A、24W、Φ2.1	0000200174 Shenzhen Honor Electronic Co., Ltd. (深セン名誉電子有限公司)
MSA-C2000IC12.0-24P-米国	米国、12 V、2 A	0000201935 孝装テクノロジー(株)
ADS-26FSG-12 12024EPCUの	米国、12 V、2 A	0000200174 Shenzhen Honor Electronic Co., Ltd. (深セン名誉電子有限公司)
KPL-040F-VIシリーズ	12 V、3.33 A、40 W	0000203078チャンネルウェルテクノロジー株式会社
MSA-Z3330IC12.0-48W-Q	12 V、3.33 A	0000201935 孝装テクノロジー(株)
MSP-Z1360IC48.0-65W	48 V、1.36 A	0000201935 孝装テクノロジー(株)

Network Video Recorder User Manual

KPL-050S-II(英語)	48 V、1.04 A	0000203078チャンネルウェルテ クノロジー株式会社
-----------------	-------------	----------------------------------

24.2 用語集

デュアルストリーム

デュアルストリームは、高解像度のビデオをローカルで録画し、ネットワーク経由で低解像度のストリームを送信するために使用されるテクノロジーです。2つのストリームはDVRによって生成され、メインストリームの最大解像度は1080P、サブストリームの最大解像度はCIFです。

DVRの

Digital Video Recorder(デジタルビデオレコーダー)の略語。DVRは、アナログカメラからのビデオ信号を受け入れ、信号を圧縮してハードドライブに保存できるデバイスです。

HDDの

Hard Disk Drive(ハードディスクドライブ)の略語。デジタルエンコードされたデータを磁性面のあるプラッターに保存する記憶媒体。

DHCPの

Dynamic Host Configuration Protocol(DHCP)は、デバイス(DHCPクライアント)がインターネットプロトコルネットワークでの操作の設定情報を取得するために使用するネットワークアプリケーションプロトコルです。

HTTPの

Hypertext Transfer Protocolの頭字語。ネットワークを介してサーバーとブラウザ間でハイパーテキスト要求と情報を転送するプロトコル。

PPPoE (英語)

PPPoE (Point-to-Point Protocol over Ethernet) は、Point-to-Point Protocol (PPP) フレームをイーサネットフレーム内にカプセル化するためのネットワークプロトコルです。これは主に、個々のユーザーがイーサネット経由でADSLトランシーバー(モデム)に接続するADSLサービスや、プレーンなメトロイーサネットネットワークで使用されます。

DDNSの

ダイナミックDNSは、インターネットプロトコルスイートを使用するルーターやコンピュータシステムなどのネットワークデバイスが、ドメインネームサーバーに通知して、DNSに保存されているホスト名、アドレス、またはその他の情報のアクティブDNS設定をリアルタイム(アドホック)に変更するように通知する方法、プロトコル、またはネットワークサービスです。

ハイブリッドDVR

ハイブリッドDVRは、DVRとNVRを組み合わせたものです。

NTPの

Network Time Protocolの頭字語。ネットワーク経由でコンピューターのクロックを同期するように設計されたプロトコル。

NTSCの

Network Video Recorder User Manual

National Television System Committeeの頭字語。NTSCは、米国や日本などの国で使用されているアナログテレビ規格です。NTSC信号の各フレームには、60Hzで525本のスキャンラインが含まれています。

NVRの

Network Video Recorderの頭字語。NVRは、IPカメラ、IPドーム、およびその他のDVRの集中管理とストレージに使用されるPCベースまたは組み込みシステムです。

PAL州

Phase Alternating Line(フェーズ・オルタネーティング・ライン)の頭字語。PALは、世界の大部分の放送テレビシステムで使用されている別のビデオ規格でもあります。PAL信号には、50Hzで625本のスキャンラインが含まれています。

PTZの

Pan(パン)、Tilt(チルト)、Zoom(ズーム)の頭字語。PTZカメラは、カメラが左右にパンしたり、上下に傾いたり、ズームインとズームアウトしたりできるモーター駆動システムです。

USB接続

Universal Serial Busの頭字語です。USBは、デバイスをホストコンピュータに接続するためのプラグアンドプレイシリアルバス規格です。

24.3 よくあるご質問

24.3.1 マルチスクリーンライブビューで一部のチャンネルに「リソースなし」と表示されたり、黒い画面になったりするのなぜですか?

理由

1. サブストリームの解像度またはビットレートの設定が不適切です。
2. サブストリームの接続に失敗しました。

解決

1. カメラ → ビデオパラメータ → サブストリーム に移動します。チャンネルを選択し、解像度と最大ビットレートを下げます(解像度は720p未満、最大ビットレートは2048Kbps未満である必要があります)。

Note

ビデオレコーダーがこの機能をサポートしていないと通知した場合は、カメラにログインして、Webブラウザを介してビデオパラメーターを調整できます。

2. サブストリームの解像度と最大ビットレートを適切に設定し(解像度は720p未満、最大ビットレートは2048 Kbps未満)、チャンネルを削除して再度追加します。

24.3.2 ネットワークカメラが追加された後、ビデオレコーダーが危険なパスワードを通知するのはなぜですか?

理由

カメラのパスワードが弱すぎます。

解決

カメラのパスワードを変更します。

Warning

製品のセキュリティを強化するために、自分で選択した強力なパスワードを作成することを強くお勧めします(大文字、小文字、数字、特殊文字のカテゴリのうち少なくとも3つを含む、最低8文字を使用)。また、特に高セキュリティシステムでは、パスワードを定期的に変更することをお勧めします。パスワードを毎月または毎週リセットすると、製品の保護が向上します。

24.3.3 ストリームタイプを通知するビデオレコーダーがサポートされていないのはなぜですか?

理由

カメラのエンコード形式がビデオレコーダーと一致しません。

解決

カメラがエンコードにH.265 / MJPEGを使用しているが、ビデオレコーダーがH.265 / MJPEGをサポートしていない場合は、カメラのエンコード形式をビデオレコーダーと同じに変更してください。

24.3.4 ビデオレコーダーがH.265を使用してビデオを録画していることを確認するにはどうすればよいですか?

解決

ライブビューツールバーのエンコードタイプがH.265かどうかを確認します。

24.3.5 ビデオレコーダーがIPの競合を通知するのはなぜですか?

理由

ビデオレコーダーは、他のデバイスと同じIPアドレスを使用します。

解決

Network Video Recorder User Manual

ビデオレコーダーのIPアドレスを変更します。他のデバイスと同じでないことを確認してください。

24.3.6 シングルチャンネルカメラまたはマルチチャンネルカメラで再生すると画像が動かなくなるのはなぜですか?

理由

HDDの読み取り/書き込み例外。

解決

ビデオをエクスポートして、他のデバイスで再生します。他のデバイスで正常に再生される場合は、HDDを交換して、もう一度お試しください。

24.3.7 デバイスがcoaxitronを介してPTZカメラを制御できないのはなぜですか?

理由

1. カメラはコアキシトロンをサポートしていません。
2. コアキシトロンのプロトコルが正しくありません。
3. 信号はビデオ光トランシーバーの影響を受けます。

解決

1. ビデオ入力信号がHDTVIであり、カメラがcoaxitronをサポートしていることを確認します。
2. coaxitron プロトコルパラメーター (ポーレートやアドレスなど) が正しいことを確認します。
3. ビデオ光トランシーバーを取り外して、もう一度やり直してください。

24.3.8 PTZがRS-485を介して応答しないように見えるのはなぜですか?

理由

1. RS-485ケーブルが正しく接続されていません。
2. RS-485 インターフェースが壊れています。
3. 制御プロトコルが正しくありません。

解決

1. RS-485ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
2. RS-485インターフェースを変更して、再試行してください。
3. 制御プロトコルがPelcoであることを確認してください。

24.3.9 ビデオの音質が良くないのはなぜですか?

理由

1. オーディオ入力デバイスは、サウンドコレクションに良い影響を与えません。
2. 伝送の干渉。
3. オーディオパラメータが正しく設定されていません。

解決

1. オーディオ入力デバイスが正常に動作しているか確認してください。別のオーディオ入力デバイスを変更して、もう一度やり直すことができます。
2. 音声伝送ラインを確認してください。すべてのラインがしっかりと接続または溶接されており、電磁干渉がないことを確認してください。
3. 環境とオーディオ入力デバイスに応じて音量を調整します。

24.4 腐食性ガスの届出

データセンター以外の部屋では、IEC 60721-3-3:2002の化学活性物質3C2レベルの要件を満たすために、腐食性ガス濃度制限が推奨されます。

表24-1 腐食性ガス濃度制限

腐食性ガスのカテゴリー	平均値 (mg/m ³)	最大値(mg / m ³)
SO ₂ (二酸化硫黄)	0.3	1.0
H ₂ S(硫化水素)	0.1	0.5
Cl ₂ (塩素)	0.1	0.3
HCl(塩化水素)	0.1	0.5
HF(フッ化水素)	0.01	0.03
NH ₃ (アンモニア)	1.0	3.0
O ₃ (オゾン)	0.05	0.1
NO _x (窒素酸化物)	0.5	1.0

Note

- 上の表の平均値は、機械室環境における腐食性ガスの一般的な管理限界値です。一般に、腐食性ガスの濃度が平均値を超えることはお勧めしません。
- 最大値は、制限値またはピーク値を指します。腐食性ガス濃度が最大値に達するまでの時間は、1日あたり30分を超えてはなりません。

Network Video Recorder User Manual

表24-2 腐食性ガスの一般的なカテゴリと発生源

カテゴリ	一次資料
H ₂ S(硫化水素)	地中熱排出、微生物活動、石油製造、木材腐食、排水処理など
SO ₂ (二酸化硫黄)、SO ₃ (三酸化硫黄)	石炭燃焼、石油製品、自動車排気ガス、製錬鉱石、硫酸製造、タバコ燃焼など
S(硫黄)	鋳物工場、硫黄製造など
HF(フッ化水素)	肥料製造、アルミ製造、窯業製造、鉄鋼製造、電子機器製造、鉱物燃焼など
NO _x (窒素酸化物)	自動車の排気ガス、石油燃焼、微生物活動、化学工業など
NH ₃ (アンモニア)	微生物活動、下水、肥料製造、地中熱排出など
CO(一酸化炭素)	燃焼、自動車排気ガス、微生物活動、樹木の朽ち果てなど
Cl ₂ (塩素)、ClO ₂ (二酸化塩素)	塩素製造、アルミニウム製造、亜鉛製造、廃棄物分解など
HCl(塩化水素)	自動車の排気ガス、燃焼、森林火災、海洋プロセスポリマー燃焼など
HBr(臭化水素酸)、HI(ヨウ化水素酸)	自動車の排気ガスなど
O ₃ (オゾン)	大気光学プロセス(主に一酸化窒素と過酸化水素を含む)など
C _n H _n (アルカン)	自動車の排気ガス、タバコの燃焼、動物の排泄物、下水、樹木の腐敗など。

